OLYMPUS®

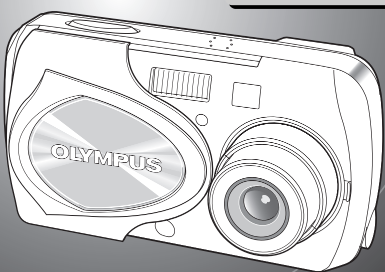
デジタルカメラ

μ-30 DIGITAL

取扱説明書

総合編

すべての操作がわかる！



はじめに

このたびは、オリンパス製品をお買い上げくださいまして、誠にありがとうございます。

取扱説明書は、以下のような構成になっています。ご使用の際は、これらの説明書をお読みになり、カメラを安全に正しくお使いください。

基本編　**基本的な操作を説明しています。**



初めてカメラをお使いになる方は､こちらからお読みください。

総合編（本書）　**すべての機能を説明しています。**



いろいろな機能をお使いになる時は､こちらをお読みください。

- 本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。商品名、型番等、最新の情報についてはカスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。
- 本書の内容については、万全を期して作成しておりますが、万一ご不審な点、誤り、記載もれなど、お気づきの点がございましたらカスタマーサポートセンターまでご連絡ください。
- 本書の内容の一部または全部を無断で複写することは、個人としてご利用になる場合を除き、禁止します。また、無断転載は固くお断りします。
- 本製品の不適当な使用により、万一の損害、逸失利益、または第三者からのいかなる請求に関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本製品の故障、当社指定外の第三者による修理、その他の理由により生じた画像データの消失による、損害および逸失利益などに関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本製品で撮影された画像の質は、通常のフィルム式カメラの写真の質とは異なります。

電波障害自主規制について

- この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
- 飛行機内では、離発着時のご使用をお避けください。
- 本製品の接続の際、当製品指定のケーブルを使用しない場合、VCCI 基準の限界値を超えることが考えられます。必ず、指定のケーブルをご使用ください。

商標について

- Windows は米国 Microsoft Corporation の登録商標です。
- Macintosh および Apple は米国アップルコンピュータ社の登録商標です。
- その他本説明書に記載されているすべてのブランド名または商品名は、それらの所有者の商標または登録商標です。

カメラファイルシステム規格について

カメラファイルシステム規格とは、電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された規格「Design rule for Camera File system/DCF」です。

目次

はじめにご確認ください　8

準備　16

静止画の撮影 58

静止画の再生 96

ムービーの撮影 119

ムービーの再生 127

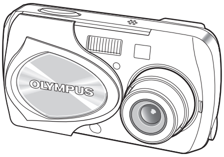
プリントする 132

画像をパソコンで楽しむ 154

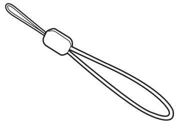
困った時は 204

付録 213

箱の中身を確認する



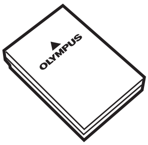
デジタルカメラ



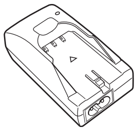
ストラップ



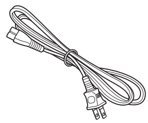
カード
（xDピクチャーカード）



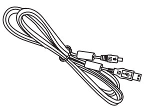
リチウムイオン電池
（LI-10B）



充電器（LI-10C）



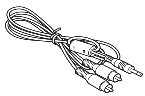
充電器用電源ケーブル



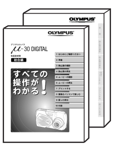
USBケーブル



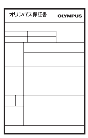
インフォメーション
ディスク
（CAMEDIA Master）



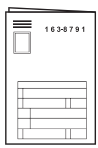
A/Vケーブル



取扱説明書
（基本編／総合編）



保証書



ご愛用者登録はがき

安全にお使いいただくために

製品を正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害と財産の損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

⚠ 危険	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険の発生が想定される内容を示しています。
⚠ 警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

カメラのお取り扱いについて

⚠ 危険

- **可燃性ガス、爆発性ガス等がある場所では使用しない。**これらのガスが、大気中に存在するおそれのある場所での本製品の使用はおやめください。引火・爆発の原因となります。
- **分解や改造をしない。**感電やけがをする原因となります。

⚠ 警告

- **フラッシュを人（特に乳幼児）に向けて至近距離で発光させない。**目に近づけて撮影すると、視力障害をきたすおそれがあります。
- **幼児、子供の手の届く場所に置かない。**以下のような事故発生のおそれがあります。
  - 誤ってストラップを首に巻き付け、窒息を起こす。
  - カードなどの小さな付属品を飲み込む。万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。
  - 目の前でフラッシュが発光し、視力障害を起こす。
  - カメラの動作部でけがをする。
- **カメラのファインダで日光や強い光を見ない。**視力障害をきたすおそれがあります。
- **ほこりや湿気、油煙、湯気の多い場所で長時間使ったり、保管しない。**火災や感電の原因となることがあります。
- **フラッシュの発光部分を手で覆ったまま発光しない。**連続発光後も発光部分に手を触れないでください。やけどのおそれがあります。
- **内部に水や異物を入れない。**万一、水に落としたり、内部に水が入ったときは、火災や感電の原因となりますので、すぐに電源を切り電池を抜き、販売店または当社サービスステーションにご相談ください。

⚠ 注意

- 異臭、異常音、煙が出たりするなどの異常が生じたときは使用をおやめください。このようなときは、販売店または当社サービスステーションにご連絡ください。

次ページへつづく

（電池を取り出す際は、やけどの原因となりますので、素手で電池を触らないでください。また、可燃物のそばを避け、屋外で行ってください。）
- ストラップで下げているときは、他のものに引っかかったりしないように注意してください。けがや事故の原因となることがあります。
- 温度の高い所へ放置しないでください。部品が劣化したり、火災の原因となります。
- 専用のACアダプタ以外は使用しないでください。カメラまたは電源が故障したり、思わぬ事故が起きる可能性があります。専用以外の AC アダプタの使用により生じた傷害は保証しかねますので、あらかじめご了承ください。
- カメラの外装の金属部分に、長時間触れないでください。長時間お使いになると、カメラの温度が高くなります。金属部分に皮膚が触れたまま長時間使用を続けると、低温やけどを起こすおそれがあります。低温下にさらされていると、カメラの外装も低温になります。皮膚が貼り付いてけがをする場合があります。低温やけどや傷害を防ぐため、手袋などをご使用ください。

カメラの使用条件について

- 本製品には精密な電子部品が組み込まれています。本製品を使用または保管する場合、以下のような場所で長時間使用したり放置すると動作不良や故障の原因となる可能性がありますので、避けてください。
  - 高温多湿、または温度・湿度変化の激しい場所直射日光下や夏の海岸、窓を閉め切った自動車の中、冷暖房器、加湿器のそばなど
  - 砂、ほこり、ちりの多い場所
  - 火気のある場所
  - 水に濡れやすい場所
  - 激しい振動のある場所
- カメラを落としたりぶつけたりして、強い振動やショックを与えないでください。
- レンズを直射日光に向けて撮影または放置しないでください。
- 寒い戸外から暖かい室内に入るなど急激に温度が変わったときは、カメラ内部で結露する場合があります。ビニール袋などに入れてカメラを室内の温度になじませてからご使用ください。
- 長期間使用しないと、カビがはえたり故障の原因となることがあります。使用前には動作点検されることをおすすめします。

カメラの液晶モニタについて

- 液晶モニタは強く押さないでください。画面上ににじみが残り、画像が正しく再生されなくなったり、液晶モニタが割れたりするおそれがあります。万一破損した場合は中の液晶を口に入れないでください。液晶が手足や衣類に付着した場合は、直ちにせっけんで洗い落してください。
- 液晶モニタの画面上下に光が帯状に見えることがありますが、故障ではありません。
- 被写体が斜めのとき、液晶モニタにギザギザが見えますが、故障ではありません。再生時には目立たなくなります。

- 一般に低温になるにしたがって液晶モニタは点灯に時間がかかったり、一時的に変色したりする場合があります。寒冷地で使用するときは、保温しながら使用してください。低温のために性能の低下した液晶モニタは、常温に戻ると回復します。
- **本製品の液晶モニタは、精密度の高い技術でつくられていますが、一部に常時点灯あるいは常時点灯しない画素が存在することがあります。これらの画素は、記録される画像に影響はありません。また、見る角度により、特性上、色や明るさにむらが生じることがありますが、液晶モニタの構造によるもので故障ではありません。ご了承ください。**

充電器のお取り扱いについて

⚠ 危険

- **充電器を濡らさない。**また濡れた手では、絶対に抜き差ししないでください。
- **充電器を布などで覆った状態で使用しない。**熱が発生し、火災の原因となります。
- **分解や改造をしない。**感電やけがをする原因となります。
- **指定の電源電圧で使用する。**火災・破裂・発煙・発熱・感電・やけどの原因となります。

⚠ 警告

- **充電中の充電器に長時間触れない。**低温やけどの原因となることがあります。
- **充電器の電源コードを傷つけない。**コードを引っ張ったり、継ぎ足したりは絶対にしないでください。必ずプラグを持って、抜き差しを行ってください。以下の場合は直ちに使用を中止し、販売店または当社サービスステーションにご相談ください。
  - 電源プラグやコードが熱い、焦げ臭い、煙が出た場合。
  - コードに傷、断線、またはプラグに接触不良があった場合。

⚠ 注意

- 24 時間以上にわたる連続充電をしないでください。充電時間を超えても電池の充電が完了しない場合は、充電を中止してください。
- お手入れの際は、電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。感電、けがの原因となります。

電池のお取り扱いついて

⚠ 危険

- **乳幼児の手の届かぬ場所で保管および使用する。**
- **火中への投下や、加熱をしない。**火災・破裂の原因となります。
- **強い日なた、炎天下の車内やストーブの前面など、高温の場所で使用・放置しない。**火災・発火の原因となります。

次ページへつづく

- **直接ハンダ付けしたり、変形や改造・分解をしない。**端子部安全弁の破壊や、内容物の飛散の原因となり危険です。
- **＋－を金属等で接続しない。**金属製のネックレスやヘアピン等と一緒に持ち運んだり、保管しないでください。
- **電池の液が目に入ったときは、こすらずに、すぐ水道水などのきれいな水で十分に洗う。**失明の原因となりますので、直ちに医師の治療を受けてください。

⚠ 警告

- **電池を濡らさない。**水や海水などにつけたりしない。
- **電池に強い衝撃を与えたり、キズをつけない。**
- **液漏れや、変色、変形その他異常を見つけたときは、使用しない。**
- **電池の液が皮膚・衣類へ付着したときは、直ちに水道水などのきれいな水で洗い流す。**皮膚に傷害を起こす原因となります。

⚠ 注意

- 付属の電池は、当社デジタルカメラ専用です。他の機器に使用しないでください。
- 電池の＋－極が汚れていると、接触不良を起こす原因となります。乾いた布で軽く拭いてください。
- カメラを長時間使用した後は、電池が熱くなっております。すぐに取り出さないでください。やけどの原因となります。
- 電池は、一般に低温になるにしたがって一時的に性能が低下します。寒冷地で使用するときは、カメラを防寒具や衣服の内側に入れるなど保温しながら使用してください。なお、低温のために性能の低下した電池は、常温に戻ると回復します。
- **充電池は充電を繰り返すことにより性能が徐々に劣化します。規定の充電時間で充電しても、使用時間が短いと感じられる場合は、電池の寿命が考えられます。その場合は、新しいものとお取り換えください。**
- ご使用済みの充電式電池は貴重な資源です。充電式電池を捨てる際には＋－端子をテープで絶縁してから、最寄りの充電式電池リサイクル協力店にお持ちください。

カードのお取り扱いについて

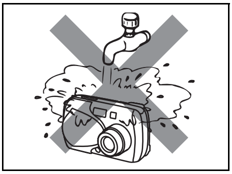
- カードは精密電子機器です。曲げたり、衝撃を与えないでください。また静電気には十分ご注意ください。カードに保存しているデータは、不揮発性の半導体メモリ内に保存されますが、間違った扱いをするとデータが破壊されます。
- カードを水に濡らしたり、ほこりの多い場所に放置しないでください。
- 高温多湿の場所でのご使用・保管は避けてください。
- 発熱物・発火物の近くでのご使用は避けてください。
- カードの金属部分に指紋や汚れが付着すると、データの読み書きが正常に行われないことがあります。その場合は、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。
- **カードには寿命があり、長期間使用するうちに書き込みや消去ができなくなります。その場合は、新しいものとお取り換えください。**
- **他の媒体に保存したデータの損害、またカード内のデータ消滅に関し、当社では一切責任を負いかねますのでご了承ください。**

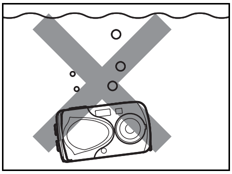
生活防水について

本製品は、生活防水機能をもっていますが、水中で使用することはできません。以下の点を守り正しくご使用ください。

お客様の誤ったご使用方法での浸水による故障は、保証対象外となりますのでご注意ください。

（生活防水：JIS 保護等級 4 相当（当社試験方法による）に該当し、いかなる方向からの水の飛まつを受けても有害な影響を受けないことをいいます。）

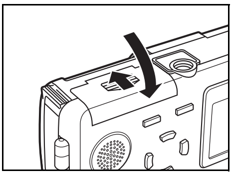


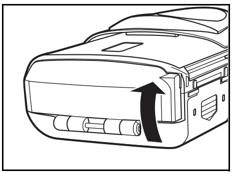


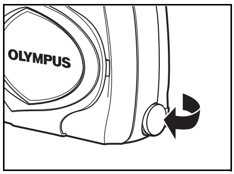


- 水で洗わないでください。
- 水の中に落とさないでください。
- 水中での撮影はできません。

- **電池カバー、コネクタカバー、DC入力端子カバーが以下の場合は浸水の原因になりますので、ご注意ください。**
  ① カバーをしっかり閉めず、浮き上がっている。
  ② ゴムパッキングがつぶれたり、はがれている。
  ③ ゴムパッキングにゴミや砂が付着している。



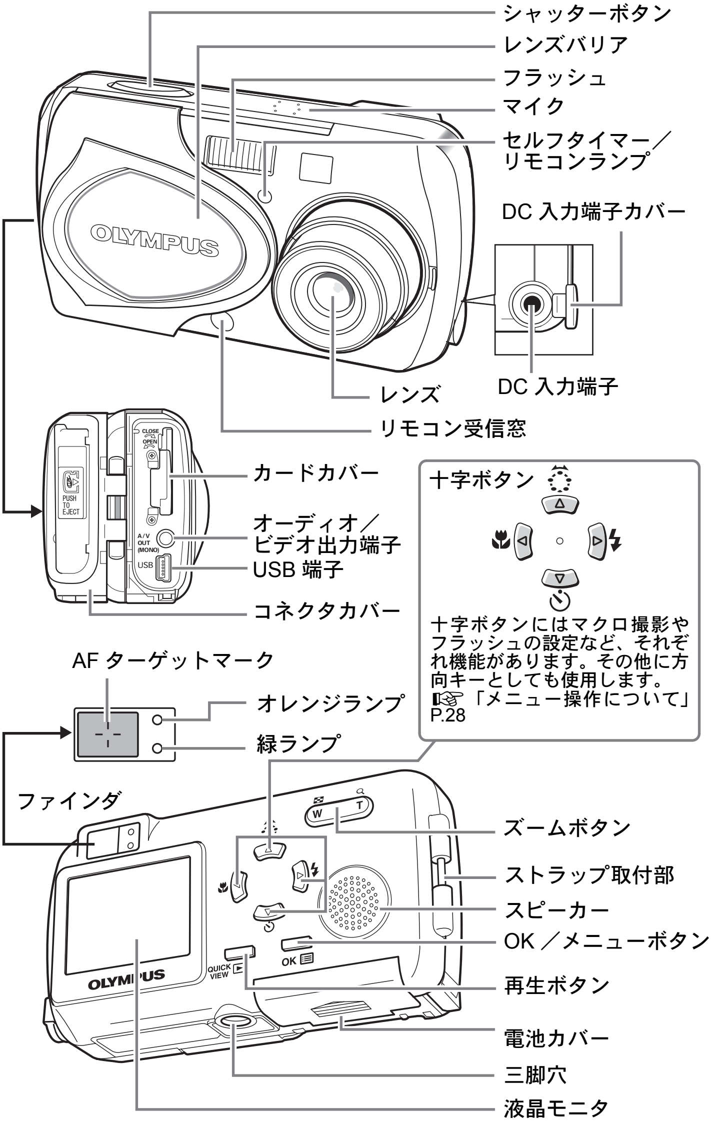




- 電池カバーをしっかり閉めます。
- コネクターカバーをしっかり閉めます。
- DC入力端子カバーをしっかり閉めます。

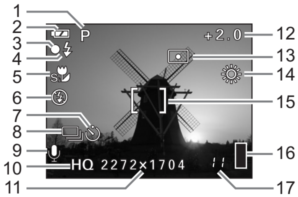
- 水しぶきなどを浴びて水滴がついた場合は、早めに乾いた布などでカメラをふき取ってください。
- ゴムパッキング部分の劣化およびキズがついた時は、当社サービスステーションにご相談ください（部品交換は有料となります）。
- 本製品の付属品（充電池など）は生活防水ではありません。

各部の名前を確認する


シャッターボタン
レンズバリア
フラッシュ
マイク
セルフタイマー／リモコンランプ
DC 入力端子カバー
DC 入力端子
レンズ
リモコン受信窓
OLYMPUS
カードカバー
オーディオ／ビデオ出力端子
USB 端子
コネクタカバー
CLOSE
OPEN
PUSH TO EJECT
A/V OUT (MONO)
USB
十字ボタン
十字ボタンにはマクロ撮影やフラッシュの設定など、それぞれ機能があります。その他に方向キーとしても使用します。
「メニュー操作について」P.28
AF ターゲットマーク
オレンジランプ
緑ランプ
ファインダ
ズームボタン
W
T
ストラップ取付部
スピーカー
OK ／メニューボタン
OK
QUICK VIEW
再生ボタン
電池カバー
三脚穴
液晶モニタ

液晶モニタの表示一覧

●撮影時



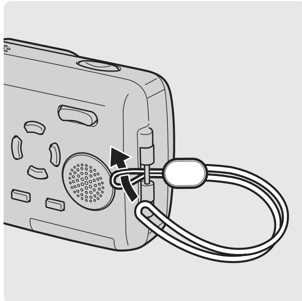
●再生時



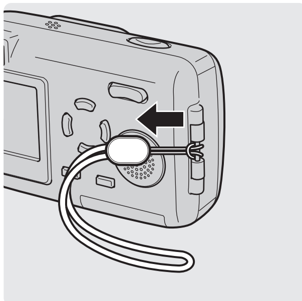
	項目	表示例	参照ページ
1	撮影モード	P、 、 、 、 、 、 、 、 、	P.65
2	電池残量	、	P.60
3	緑ランプ	○	P.213
4	フラッシュ発光予告		P.213
5	マクロ	、	P.82
6	フラッシュ	、 、	P.72
7	セルフタイマー リモコン	、	P.85 P.86
8	ドライブ	、	P.87
9	スチル録音		P.94
10	画質	SHQ、HQ、SQ1、SQ2	P.74
11	画像サイズ	2272 × 1704、2048 × 1536、 1600 × 1200、1280 × 960、 1024 × 768、640 × 480	P.74
12	露出補正	–2.0～+2.0	P.79
13	スポット測光		P.80
14	ホワイトバランス	、 、 、	P.77
15	AFターゲットマーク	[　]	P.59
16	メモリゲージ		P.61
17	撮影可能枚数（静止画） 撮影可能秒数（ムービー）	11 11"	P.60, P.120
18	プリント予約（静止画） ムービープレイ（動画再生）	× 10	P.134 P.127
19	再生（録音）		P.43
20	プロテクト		P.114
21	日時	’04.01.01　15:30	P.31
22	ファイル番号（静止画） コマ番号（静止画・ムービー） 再生秒数（ムービー）	FILE：100 - 0030 30 0"／20"	P.48 P.133 P.127

ストラップをつける

1 図のように、ストラップを通します。



2 少し強めに引っ張り、ゆるんで抜けないことを確認してください。



注 意

- ストラップを持ってカメラを振り回したり、無理に引っ張らないでください。ストラップが切れる場合があります。
- 手順にしたがってストラップを正しく取り付けてください。万一、誤った取り付けによりストラップが外れてカメラを落とすなどした場合、損害など一切の責任は負いかねますのでご了承ください。

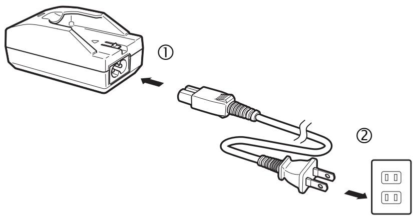
電池を充電する

このカメラは付属のオリンパス製リチウムイオン電池（LI-10B）1 個を使用します。LI-10B 以外の電池は使用できません。
お買い上げの際の電池は十分に充電されていませんので、ご使用の前に専用の充電器（LI-10C）で充電してください。

充電時間	約 2 時間

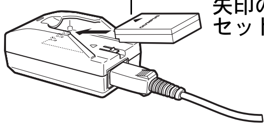
1

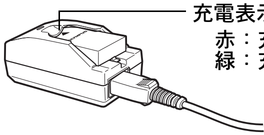
充電器用電源ケーブルを①② の順に差し込みます。



2

電池を充電器にセットすると赤ランプが点灯し、充電が開始されます。
充電表示ランプが緑色になったら充電が完了です。





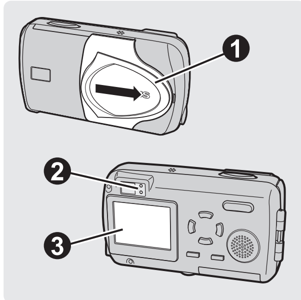
注　意

- 専用の充電器以外は使用しないでください。
- 長時間使用する場合や寒冷地で使用する場合は、予備電池（別売）のご用意をおすすめします。
- 充電器はAC100～240V（50/60Hz）の電圧範囲でご使用になれます。海外でご使用の際は、変換プラグアダプターが必要になる場合があります。詳しくは、電気店や旅行代理店でご確認ください。
- 市販の海外旅行用電子式変圧器（トラベルコンバーター）は、充電器が故障することがありますので使用しないでください。

電池を入れる／取り出す

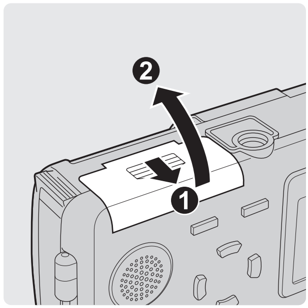
電池はオリンパス製リチウムイオン電池（LI-10B）1 個を使用します。
電池を入れる前、取り出す前に以下のことを確認してください。

① レンズバリアが閉じている
② ファインダ横のランプが消えている
③ 液晶モニタが消えている

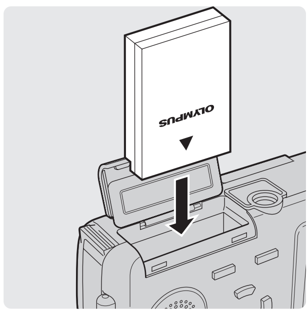


電池を入れる

1 電池カバーを矢印①②の順に開きます（① カバーをスライドし、②持ち上げます）。



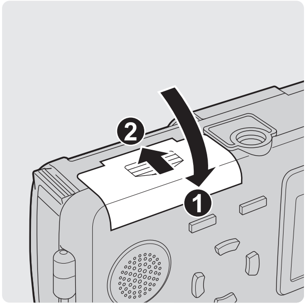
2 図のように電池を入れます。



ヒント

- 電池の向きが正しくないと、電池カバーが閉まりません。

3 電池カバーを矢印①②の順で閉じます。



ヒント

- 電池カバーが閉まらないときは、無理に押さず、電池の向きを確認してください。
- 新品電池使用時の撮影枚数は以下のとおりです。

撮影枚数	約 150 枚以上

枚数測定条件は、以下のとおりです。

- 2枚連続撮影→10分放置→2枚連続撮影→10分放置を繰り返す。
- 常温25°C／画質：HQ／液晶モニタ点灯・フラッシュ発光50％／デジタルズーム：オフ／再生・パソコンとの通信なし。

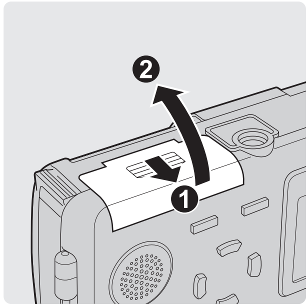
注　意

- 電池を外して約1日放置すると、日時設定は初期状態に戻ります。
- 以下の条件では撮影をしなくても電力を消費するため、電池の消耗が早くなることがあります。
  - 長時間、液晶モニタを点灯する。
  - ズーム動作を繰り返す。
  - シャッターボタンを半押しして、オートフォーカス動作を繰り返す。
  - パソコンとUSBケーブルで接続している。

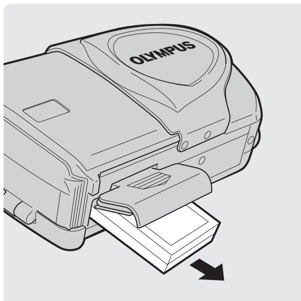
次ページへつづく

電池を取り出す

1 電池カバーを矢印①②の順に開きます（①カバーをスライドし、②持ち上げます）。



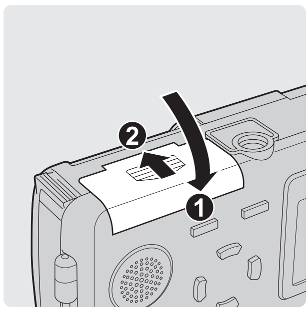
2 電池を取り出します。



注　意

- 底面を下に向けて電池カバーを開けると電池が落下し、危険です。

3 電池カバーを矢印①②の順で閉じます。



ACアダプタ（別売）について

このカメラでは付属の専用リチウムイオン電池の他、専用の ACアダプタを使用することができます。パソコンに画像を取り込むときなど、時間がかかる作業を行う場合には、ACアダプタの使用をおすすめします。専用の ACアダプタ以外はご使用にならないでください。



注 意

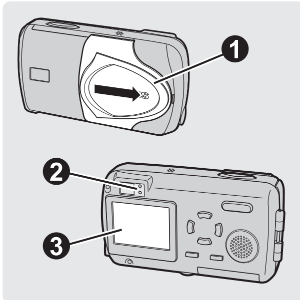
- カメラの電源が入っているときは、ACアダプタを抜き差ししないでください。カメラに設定されている設定値や機能にトラブルが生じる場合があります。
- カメラに電池を入れたままACアダプタをお使いのときは、ACアダプタから電源が供給されます。ただし、カメラ内の電池は充電されません。
- ACアダプタはAC100～240V（50/60Hz）の電圧範囲でご使用になれます。海外でご使用の際は、変換プラグアダプターが必要になる場合があります。詳しくは、電気店や旅行代理店でご確認ください。
- 市販の海外旅行用電子式変圧器（トラベルコンバーター）は、AC アダプタが故障することがありますので使用しないでください。
- ACアダプタ使用時は、カメラの生活防水は機能しません。

カードを入れる／取り出す

このカメラは、撮影した画像データを xD ピクチャーカード (カード) に記録します。カードが入っていないと撮影できません。

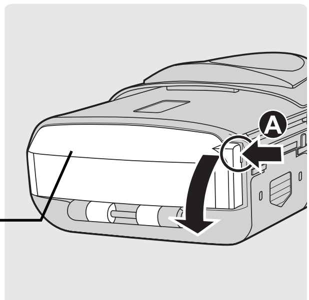
以下のことを確認してください。

① レンズバリアが閉じている
② ファインダ横のランプが消えている
③ 液晶モニタが消えている

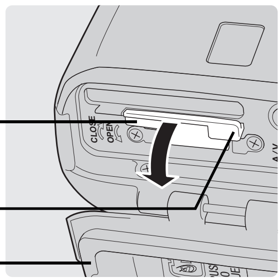


カードを入れる

1 Ⓐの部分を押しながらコネクタカバーを手前に引いて開けます。



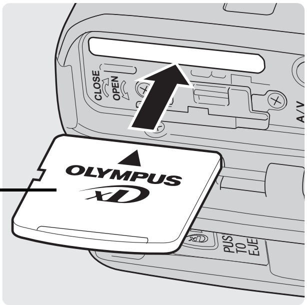
2 茶色のカードカバーを開けます。指先でカードカバーのツマミを手前に引きます。



2
準備
カメラを操作する前に

3 図のように、バネ式カードスロットにカードを入れます。

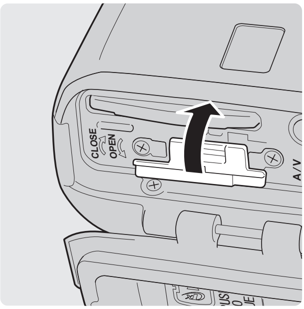
完全に入ると、カードがロックされます。



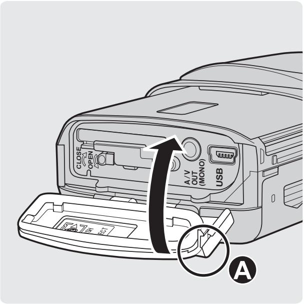
ヒント

- カードが止まるまで、奥まで差し込みます。
- カードを取り出すときは、もう一度、カードを押してください。

4 カードカバーを閉じます。



5 コネクタカバーのⒶの部分を押しながら閉じます。



ヒント

- カードカバーが開いていると、コネクタカバーが閉まりません。

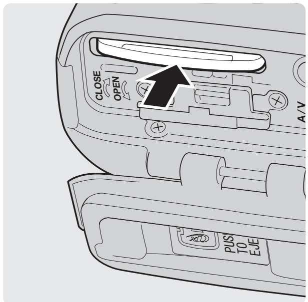
次ページへつづく

カードを取り出す

1 コネクタカバー、カードカバーの順に開けます。

2 カードを押します。

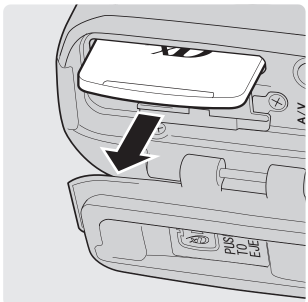
カードが手前に出ます。



注　意

- カードを押した際に、指をすぐに離したり、指ではじくようにして押すと、カードが勢いよく飛び出すことがあります。

3 カードを取り出します。



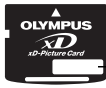
注　意

- カードはペンなどの先のとがったものや硬いもので押さないでください。
- カメラの電源が入っているときは絶対にカードカバーを開けないでください。カード内のデータが破壊されるおそれがあります。破壊されたデータの復旧はできません。

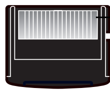
カード（xD ピクチャーカード）について

このカメラは付属の xD ピクチャーカードを使います。本書では、xD ピクチャーカードを「カード」と呼びます。このカメラで撮影した画像は、カードに記録されます。カードに記録された画像は削除したり、パソコンに取り込んで加工することができます。

① カードに保存されている内容がわかるように、①のスペースにメモをすることができます。



② カメラの信号を読み取る接点です。金色の部分に手を触れないでください。



使用できるカード	xD ピクチャーカード（16 ～ 512MB）

ヒント

- カードの容量によって、撮影枚数は異なります。☞「画像のサイズと画質を変える」（P.74）

注　意

- オリンパス製以外の市販のカードや、パソコンなどの他の機器でフォーマットしたカードは、このカメラで認識できないことがあります。お使いになる前に、必ずこのカメラでフォーマットしてください。☞「カードを初期化する」（P.52）

電源を入れる／切る

電源の入れ方は、「撮影モード」「再生モード」「パソコンに接続する」ときで操作が異なります。

ヒント

- カメラの電源が入っているときは、絶対に次の操作はしないでください。カード内のデータが破壊されるおそれがあります。破壊されたデータは復旧できません。
  - カードカバーや電池カバーを開ける
  - ACアダプタを抜き差しする

撮影するとき（撮影モード）

電源を入れる

➔ レンズバリアを開けます。

レンズが繰り出し、液晶モニタに被写体が表示されます。



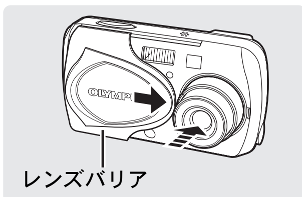
ヒント

- レンズが繰り出してこないときは、レンズバリアを開ききってください。
- 電源を入れたまま約3分間放置すると、電池の消耗を防ぐため待機状態になり、カメラは動作を停止します。さらに15分後には、自動的にレンズを収納します。▶ボタンを押すと復帰します。

電源を切る

➔ レンズバリアを矢印方向に少しずらします。レンズが引き込まれたら、レンズバリアを閉じます。

液晶モニタが消灯します。



注　意

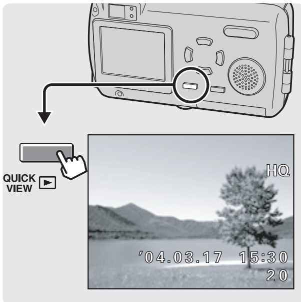
- レンズバリアを閉じる際は、レンズに強く押し当てないでください。キズや故障の原因になります。

再生するとき（再生モード）

電源を入れる

➔ ▶ボタンを押します。

撮影した画像が再生されます。



ヒント

- 電源を入れたまま約3分間放置すると、電池の消耗を防ぐため、電源が切れます。
- レンズバリアを開けた状態（撮影モード）で ▶ボタンを押しても、再生モードになります。

電源を切る

➔ ▶ボタンをもう一度押します。

液晶モニタが消灯します。

ヒント

- レンズバリアが開いている場合は、撮影モードに戻ります。

パソコンに接続するとき

電源を入れる

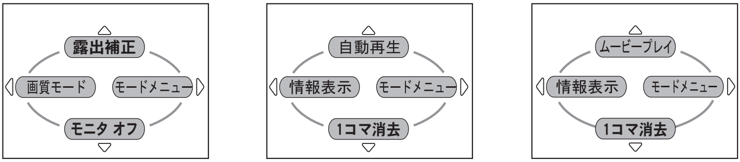
➔ ☞「カメラをパソコンに接続する」（P.160）

電源を切る

➔ ☞「カメラをパソコンから取り外す」（P.168）

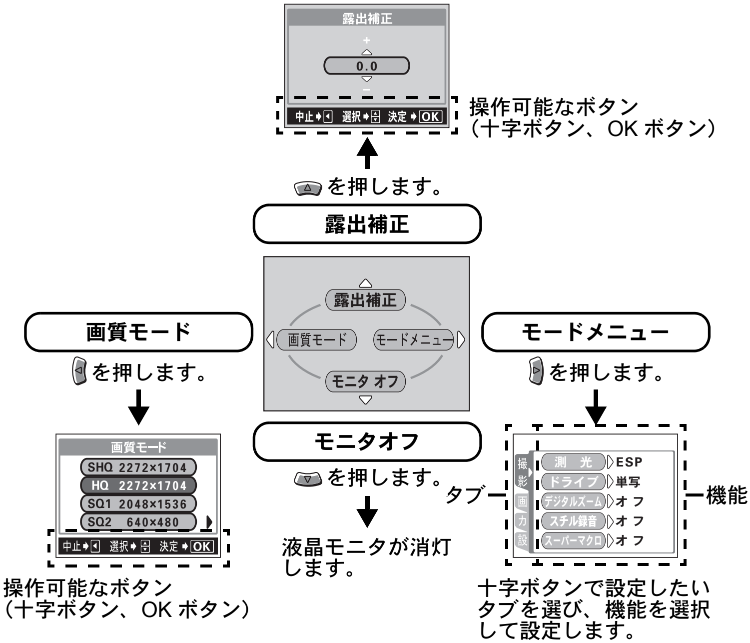
メニュー操作について

電源を入れて OK ボタンを押したとき、液晶モニタに表示される画面をトップメニューといいます。トップメニューは「撮影モード」と「再生モード（静止画）」「再生モード（ムービー）」の3種類があります。十字ボタンで設定したいメニューを選択し、OK ボタンで設定します。



撮影モード　　再生モード（静止画）　　再生モード（ムービー）

- ここでは、撮影モードの画面を使って、メニューのしくみについて説明します。



ヒント

- メニュー一覧については、☞P.214をご覧ください。
- メニュー画面をすぐ終了したいときは、もう一度OKボタンを押すと終了することができます。

液晶モニタに表示される言語を設定する（）

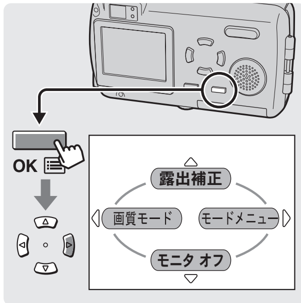
液晶モニタに表示されるメニューやエラーメッセージを日本語以外の言語に変更することができます。

1

レンズバリアを開け、OKボタンを押します。

トップメニューが表示されます。

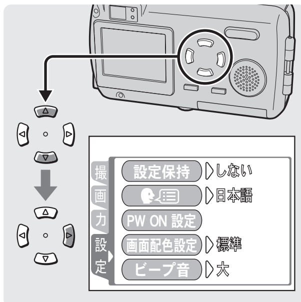
▷を押して、モードメニューに入ります。



2

△または▽を押して［設定］タブを選びます。

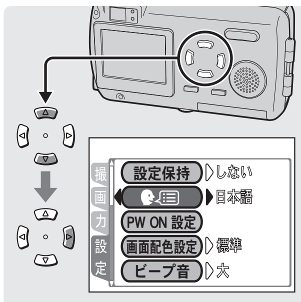
▷を押して、設定メニューに入ります。



3

△または▽を押して［］を選びます。

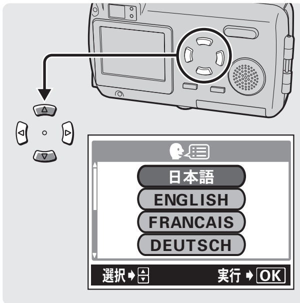
▷を押して、の設定に入ります。



次ページへつづく

4

またはを押して表示したい言語を選びます。

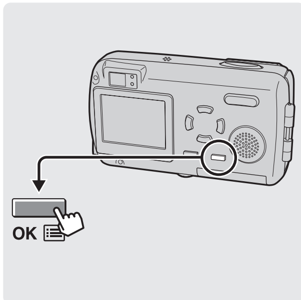


5

OKボタンを押します。

選んだ言語が設定されます。

もう一度、OKボタンを押すとメニューが終了します。



日付・時刻を設定する（日時設定）

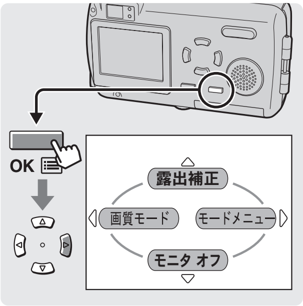
カメラをお使いになる前に日時設定を行ってください。パソコンで管理するときや、プリントするときに便利です。

1

レンズバリアを開けます。または▶ボタンを押して、OKボタンを押します。

トップメニューが表示されます。

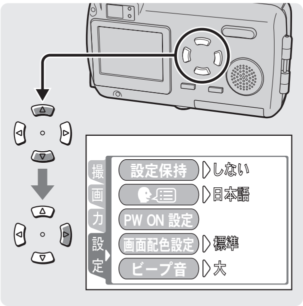
▷を押して、モードメニューに入ります。



2

△または▽を押して［設定］タブを選びます。

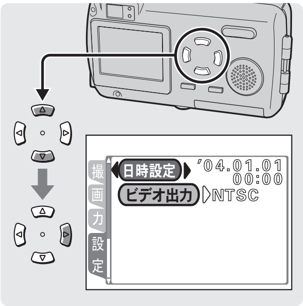
▷を押して、設定メニューに入ります。



3

△または▽を押して［日時設定］を選びます。

▷を押して、日時設定に入ります。

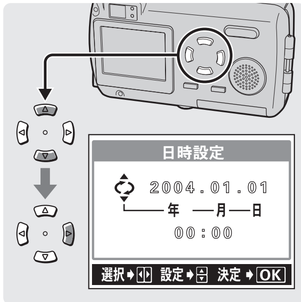


次ページへつづく

4

△または▽を押して日付の表示順を、［年-月-日］［月-日-年］［日-月-年］から選びます。

▷を押して、年の入力に移動します。



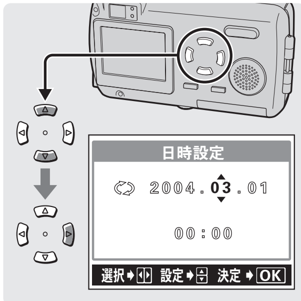
ヒント

- 以降の手順は［年-月-日］に設定した場合の説明です。

5

△または▽を押して年の下2ケタをそれぞれ設定します。
▷を押すと、月の設定に進みます。

操作を繰り返し、時刻まで設定します。



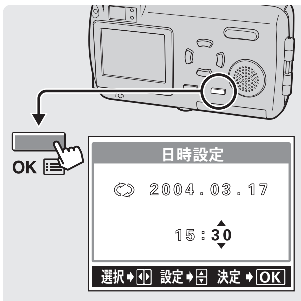
ヒント

- 時刻は24時間形式で表示されます。たとえば、「PM1:00」ではなく「13:00」のように表示されます。

6

OKボタンを押します。

もう一度、OKボタンを押すとメニューが消えます。



ヒント

- 0秒の時報に合わせてOKボタンを押すと、正確に時間を合わせられます。時計はこのとき動き始めます。

注　意

- 電池を外して約1日放置すると、日時設定は初期状態に戻ります。

設定を記憶するには（設定保持）

撮影・再生中にお客様が変更した撮影条件などの設定をカメラに記憶させることができます。このことを設定保持する、といいます。

しない	変更した設定は、電源を切ると工場出荷時の初期値に戻ります。
する	変更した設定は、電源を切っても記憶されます。

ヒント

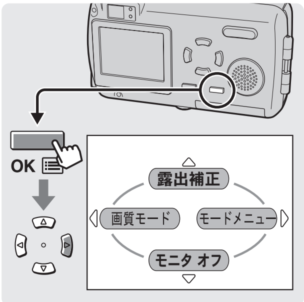
- ご購入時は、設定保持しない設定になっています。
- 設定保持が適用される機能については、☞P.35をご覧ください。

1

レンズバリアを開けます。または▶ボタンを押して、OKボタンを押します。

トップメニューが表示されます。

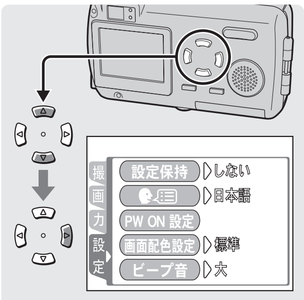
▷を押して、モードメニューに入ります。



2

△または▽を押して［設定］タブを選びます。

▷を押して、設定メニューに入ります。



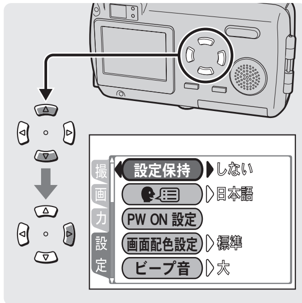
次ページへつづく

設定を記憶するには（設定保持）

3

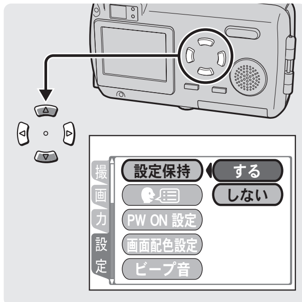
△または▽を押して［設定保持］を選びます。

▷を押して、設定保持の設定に入ります。



4

△または▽を押して［する］を選びます。

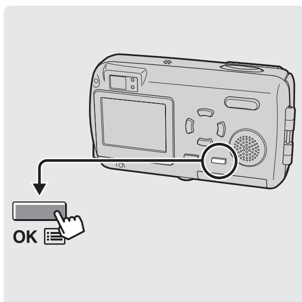


5

OKボタンを押します。

設定保持が［する］に設定されます。

もう一度、OKボタンを押すとメニューが終了します。



●設定保持する／しないを変更できる機能

機能名	初期設定	参照ページ
撮影モード	Pオート	P.65
フラッシュ	オート	P.72
マクロ	オフ	P.82
露出補正	±0	P.79
画質	HQ	P.74
液晶モニタ	点灯	P.51
測光	ESP	P.80
ドライブ	単写	P.87
デジタルズーム	オフ	P.70
スチル録音	オフ	P.94
スーパーマクロ	オフ	P.83
ホワイトバランス	オート	P.77

ヒント

- 上記以外の設定は、常に保持されます。
- すべての初期設定（工場出荷時の設定）は、☞「メニュー一覧」（P.214～217）をご覧ください。

撮影直後に画像を確認する（レックビュー）

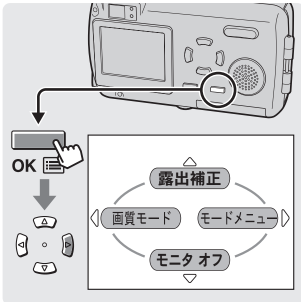
撮影の直後に液晶モニタに画像が再生されます。これをレックビューといいます。撮影と撮影の間の数秒間に今撮った画像が再生されるので、撮るたびにチェックすることができます。チェックせず、すぐに次の撮影をしたいときは、レックビューを［オフ］に設定してください。

1

レンズバリアを開けて、OKボタンを押します。

トップメニューが表示されます。

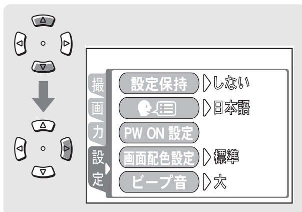
▷を押して、モードメニューに入ります。



2

△または▽を押して［設定］タブを選びます。

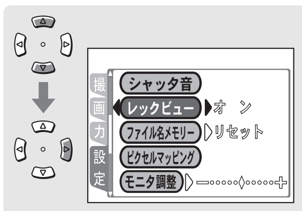
▷を押して、設定メニューに入ります。



3

△または▽を押して［レックビュー］を選びます。

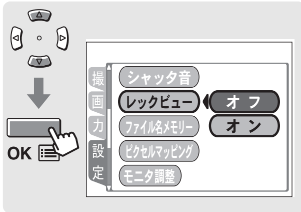
▷を押して、レックビューの設定に入ります。



4

△または▽を押して［オフ］または［オン］を選び、OKボタンを押します。

レックビューが［オフ］または［オン］に設定されます。



もう一度、OKボタンを押すとメニューが終了します。

操作音／警告音を設定するには（ビープ音）

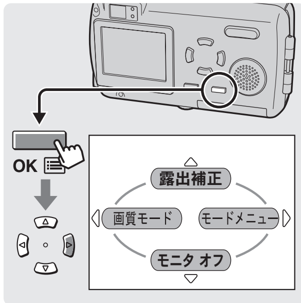
カメラが発する警告音やボタンを押したときの操作音を小さくしたり、消すことができます。

1

レンズバリアを開けます。または▶ボタンを押して、OKボタンを押します。

トップメニューが表示されます。

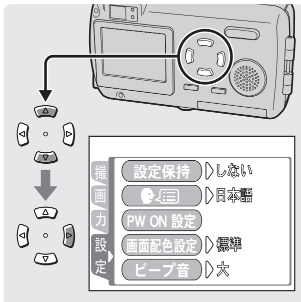
▷を押して、モードメニューに入ります。



2

△または▽を押して［設定］タブを選びます。

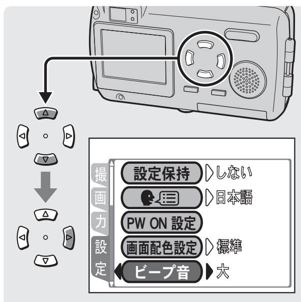
▷を押して、設定メニューに入ります。



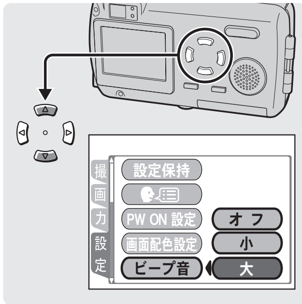
3

△または▽を押して［ビープ音］を選びます。

▷を押して、ビープ音の設定に入ります。



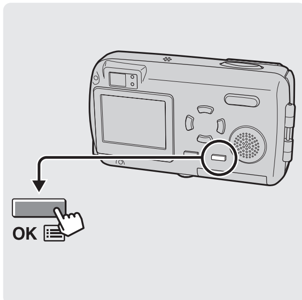
4 △または▽を押して［オフ］または音量の［小］、［大］を選びます。



5 OKボタンを押します。

ビープ音が［オフ］または［小］、［大］に設定されます。

もう一度、OKボタンを押すとメニューが終了します。



シャッター音を設定する（シャッタ音）

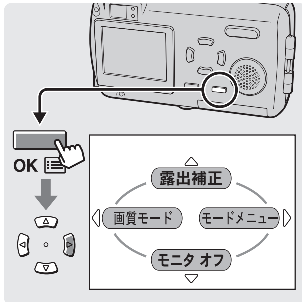
シャッターボタンを押して撮影したときに発するシャッター音の音色を 3 種類から選びます。さらに、それぞれの音量を「大」「小」から選択できます。ただし、ムービー撮影モードでは、シャッター音の設定はできません。
ご購入時は音色「1」、音量「大」に設定されています。音を消す場合は「オフ」に設定してください。

1

レンズバリアを開けて、OKボタンを押します。

トップメニューが表示されます。

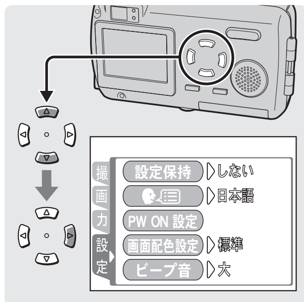
を押して、モードメニューに入ります。



2

または　を押して［設定］タブを選びます。

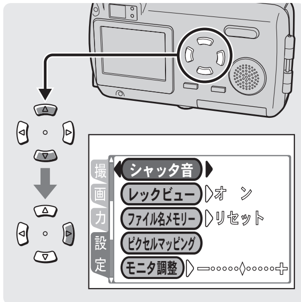
を押して、設定メニューに入ります。



3

△または▽を押して［シャッタ音］を選びます。

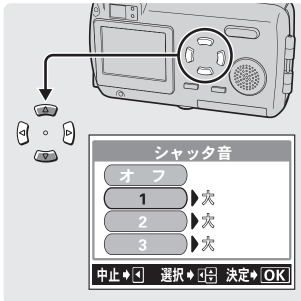
▷を押して、シャッター音の設定に入ります。



4

△または▽を押して［1］または［2］、［3］、［オフ］を選びます。

［1］［2］［3］を選んだ場合は、▷を押して、音量を選びます。

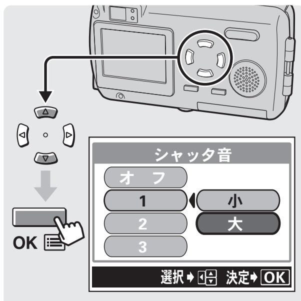


5

△または▽を押して［大］または［小］を選び、OKボタンを押します。

シャッター音が設定されます。

もう一度、OKボタンを押すとメニューが終了します。



音量を設定する（再生音量）

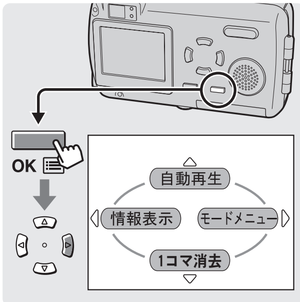
スチル／ムービー録音した画像を再生するときの音量を設定します。音を消す場合は［オフ］を設定します。

1

▶ボタンを押して、OKボタンを押します。

トップメニューが表示されます。

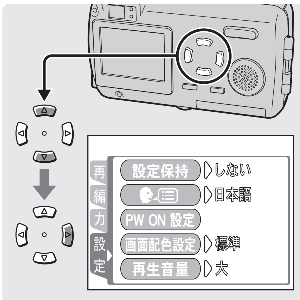
▷を押して、モードメニューに入ります。



2

△または▽を押して［設定］タブを選びます。

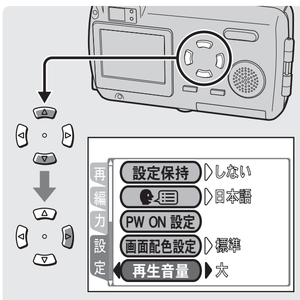
▷を押して、設定メニューに入ります。



3

△または▽を押して［再生音量］を選びます。

▷を押して、再生音量の設定に入ります。



2 準備 カメラの設定

4

（上）または（下）を押して［大］または［小］、［オフ］を選びます。

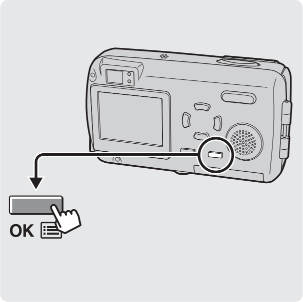


5

OKボタンを押します。

再生音量が設定されます。

もう一度、OKボタンを押すとメニューが終了します。



ヒント

- 録音した画像を再生中、液晶モニタに［♪］が表示されます。

起動時の画面と音量を設定する（PW ON設定）

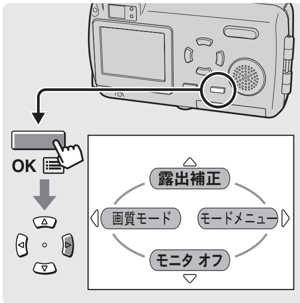
電源を入れたときに表示される画面と音量を設定します。3種類の画面と、音の大小とオフ（無し）が選択できます。

1

レンズバリアを開けます。または▶ボタンを押して、OKボタンを押します。

トップメニューが表示されます。

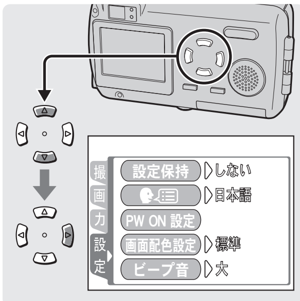
▷を押して、モードメニューに入ります。



2

△または▽を押して［設定］タブを選びます。

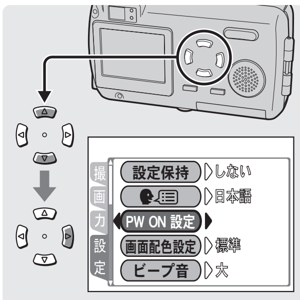
▷を押して、設定メニューに入ります。



3

△または▽を押して［PW ON設定］を選びます。

▷を押して、PW ON設定に入ります。

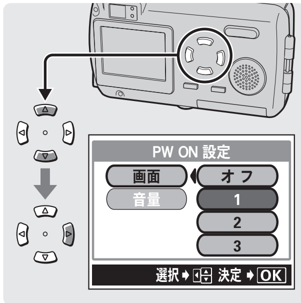


起動時の画面と音量を設定する（PW ON設定）

4

または を押して［画面］を選び、 を押します。

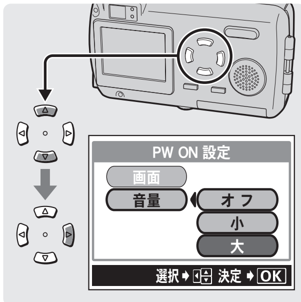
または を押して［オフ］または［1］［2］［3］を選び、OKボタンを押します。



5

または を押して［音量］を選び、 を押します。

または を押して［オフ］または［大］［小］を選びます。



ヒント

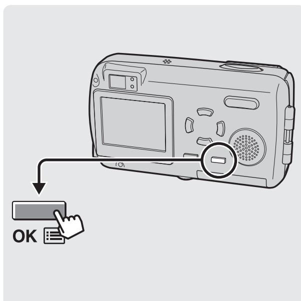
- ［画面］を［オフ］に設定した場合は、［音量］の［オフ］は選択できません。

6

OKボタンを押します。

画面と音量が設定されます。

もう一度、OKボタンを押すとメニューが終了します。



画面の色を設定する（画面配色設定）

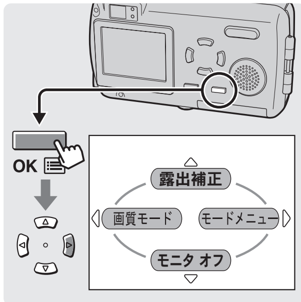
液晶モニタに表示される設定画面の色を［標準］［サンピンク］［サンデーグリーン］［アクアブルー］の 4 パターンから選択することができます。

1

レンズバリアを開けます。または▶ボタンを押して、OKボタンを押します。

トップメニューが表示されます。

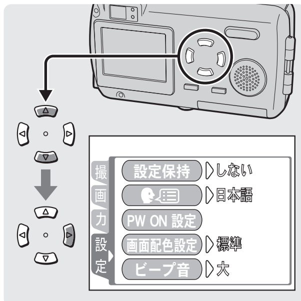
▷を押して、モードメニューに入ります。



2

△または▽を押して［設定］タブを選びます。

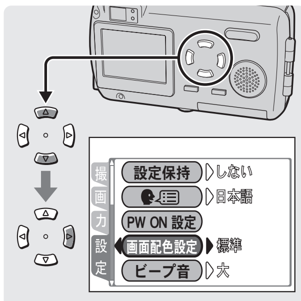
▷を押して、設定メニューに入ります。



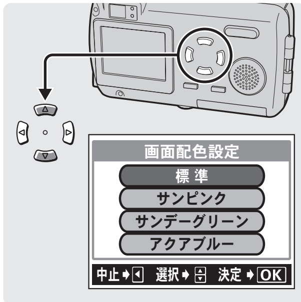
3

△または▽を押して［画面配色設定］を選びます。

▷を押して、画面配色設定に入ります。



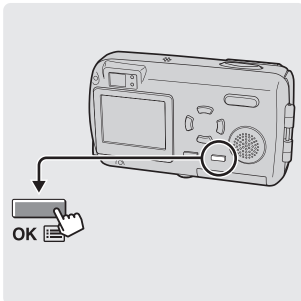
4 △または▽を押して［標準］または［サンピンク］［サンデーグリーン］［アクアブルー］から選びます。



5 OKボタンを押します。

画面配色が設定されます。

もう一度、OKボタンを押すとメニューが終了します。



ファイル名を通し番号にする（ファイル名メモリー）

ファイル名は通常、リセットに設定されています。必要に応じてファイル名を通し番号にしたい場合は、次ページ以降の操作をしてください。

記録される画像に、ファイル名とそのファイルが入るフォルダ名がカメラ内部で自動的に生成されます。ファイル名とフォルダ名はそれぞれファイルNo.（0001-9999）、フォルダNo.（100-999）を含み、以下のように付けられます。

フォルダ名　　ファイル名

￥DCIM￥***OLYMP￥Pmdd****.JPG

フォルダ No.（100 ～ 999）
月（1 ～ C）
日（01 ～ 31）
ファイル No.（0001 ～ 9999）

- ファイル名の「月」の表記は、1 月～ 9 月は 1 ～ 9、10 月は A、11 月は B、12 月は C となります。

フォルダNo.とファイルNo.の付け方は、［リセット］［オート］の 2 種類あります。パソコンで画像を取り込む際に、扱いやすい方をお選びください。

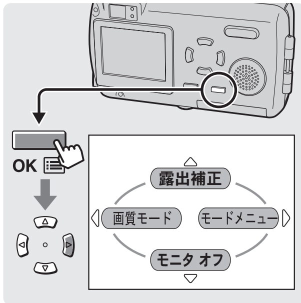
リセット	カードを入れ換えたときにフォルダNo.、ファイルNo.が両方ともリセットされます。フォルダNo.は「No.100」に、ファイルNo.は「No.0001」に戻ります。**カード別に画像を管理するときに便利です**。
オート	カードを入れ換えても、フォルダNo.、ファイルNo.とも前のカードから継続されます。複数のカードを管理するときでも、ファイル名が重複することがありません。**すべての画像を通し番号で管理するのに便利です**。

1

レンズバリアを開けて、OKボタンを押します。

トップメニューが表示されます。

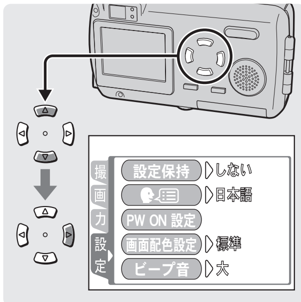
を押して、モードメニューに入ります。



2

または を押して［設定］タブを選びます。

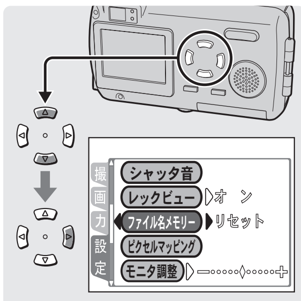
を押して、設定メニューに入ります。



3

または を押して［ファイル名メモリー］を選びます。

を押して、ファイル名メモリーの設定に入ります。

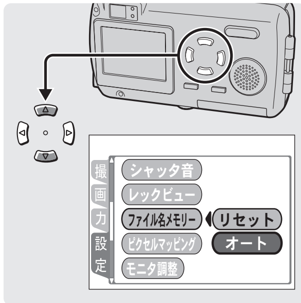


次ページへつづく

ファイル名を通し番号にする（ファイル名メモリー）

4

△または▽を押して［オート］を選びます。

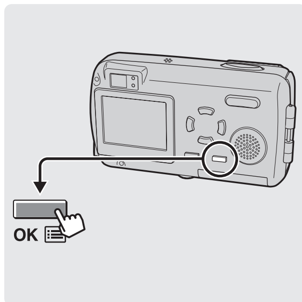


5

OKボタンを押します。

ファイル名メモリが［オート］に設定されます。

もう一度、OKボタンを押すとメニューが終了します。



2

準備

カメラの設定

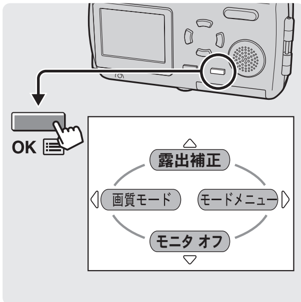
液晶モニタを消灯する（モニタオフ）

レンズバリアを開けても液晶モニタが点灯しないように設定することができます。

夜間撮影や電池の消耗を防ぐ場合に、モニタオフして使用することをおすすめします。

1 レンズバリアを開けて、OKボタンを押します。

トップメニューが表示されます。



2 ▽を押すと液晶モニタが消えます。



液晶モニタを点灯させる場合はOKボタンを押し、トップメニューを表示させて▽を押します。［モニタオン］が設定され液晶モニタが点灯します。

ヒント

- ご購入時はレンズバリアを開けて電源を入れると、自動的に液晶モニタが点灯します。

カードを初期化する（カードフォーマット）

フォーマットとは、カードをカメラに適した状態にすることです。パソコンや他のカメラでフォーマットしたカードは正しく動作しないことがありますので、必ずこのカメラでフォーマットしてください。

注　意

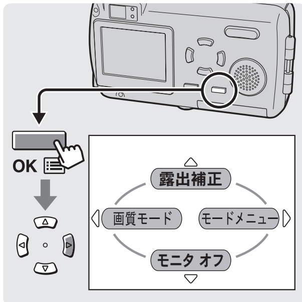
- フォーマットするとカード内のすべてのデータは消去されます。
- プロテクトをかけた画像も消去されます。

1

レンズバリアを開けます。または▶ボタンを押して、OKボタンを押します。

トップメニューが表示されます。

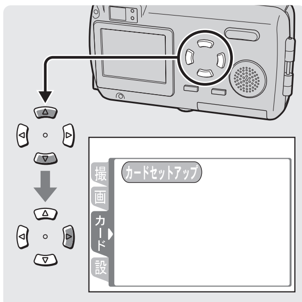
▷を押して、モードメニューに入ります。



2

△または▽を押して［カード］タブを選びます。

▷を押して、カードメニューに入ります。

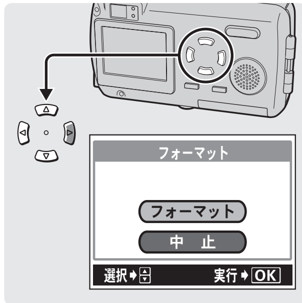


3

を押します。

ヒント

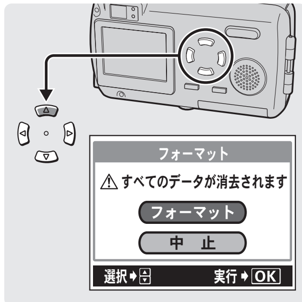
- 撮影モードの場合、フォーマット画面が表示されます。
- 再生モードの場合、カードセットアップ画面が表示されます。を押して［フォーマット］を選び、OKボタンを押すと、フォーマット画面が表示されます。



フォーマット画面

4

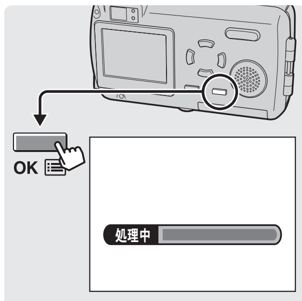
を押して［フォーマット］を選びます。



5

OKボタンを押します。

画面に処理中のバーが表示され、フォーマットされます。



注　意

- フォーマット中は、絶対にカードカバーや電池カバーを開けたり、ACアダプタの抜き差しをしないでください。カードが使用できなくなるおそれがあります。

液晶モニタの明るさを調整する（モニタ調整）

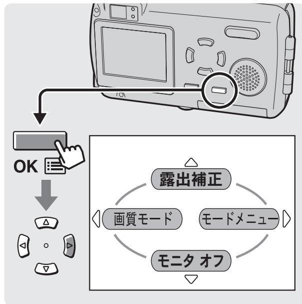
液晶モニタの明るさを見やすいように調整します。

1

レンズバリアを開けます。または▶ボタンを押して、OKボタンを押します。

トップメニューが表示されます。

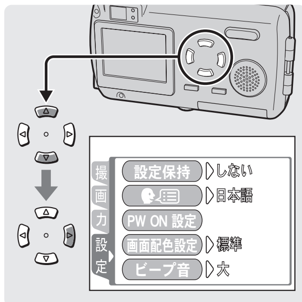
▷を押して、モードメニューに入ります。



2

△または▽を押して［設定］タブを選びます。

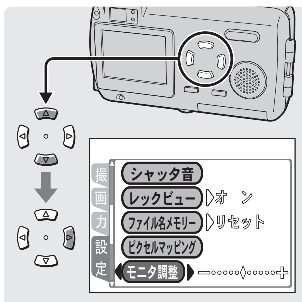
▷を押して、設定メニューに入ります。



3

△または▽を押して［モニタ調整］を選びます。

▷を押して、モニタ調整に入ります。



2

準備

カメラの設定

4

液晶モニタを見ながら△または▽を押して明るさを調整します。

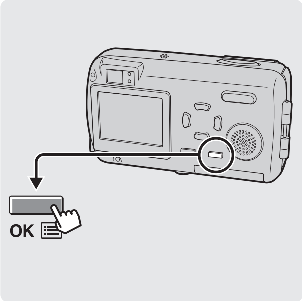


ヒント

- △を押すと明るくなり、▽を押すと暗くなります。

5

OKボタンを押します。



明るさが設定されます。

もう一度、OKボタンを押すとメニューが終了します。

画像処理機能を調整する（ピクセルマッピング）

CCDと画像処理機能の調整を行います。調整は年に一度を目安とし、最適な効果を得るため、撮影・再生直後より 1 分程度経過した後に実行してください。

ヒント

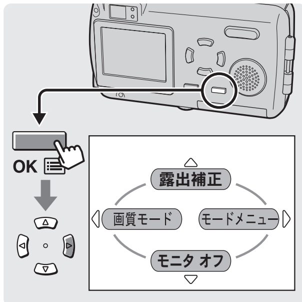
- この機能はすでに工場出荷時に調整済みのため、お買い上げ後すぐに調整する必要はありません。

1

レンズバリアを開けて、OKボタンを押します。

トップメニューが表示されます。

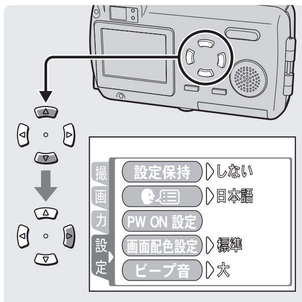
▷を押して、モードメニューに入ります。



2

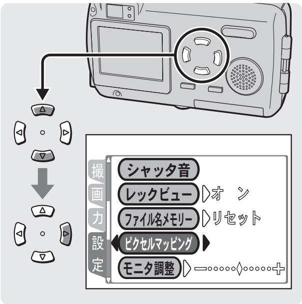
△または▽を押して［設定］タブを選びます。

▷を押して、設定メニューに入ります。



3 ⊖または⊖を押して［ピクセルマッピング］を選びます。

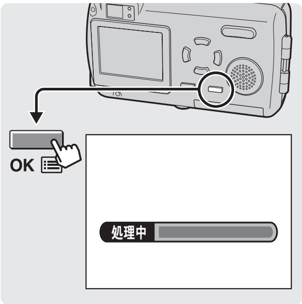
▷を押して、ピクセルマッピングの設定に入ります。



4 OKボタンを押します。

ピクセルマッピング処理中のバーが表示され、カメラが調整されます。

もう一度、OKボタンを押すとメニューが終了します。



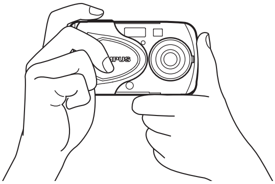
注 意

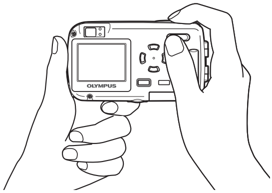
誤って処理中にカメラの電源を切ってしまった場合は、はじめから操作をやり直してください。

カメラを正しく構える

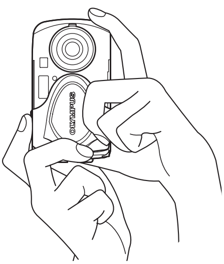
両手でしっかりカメラを持ち、脇をしっかりしめます。腕が伸びていたり、脇が開いていると手ぶれの原因となります。

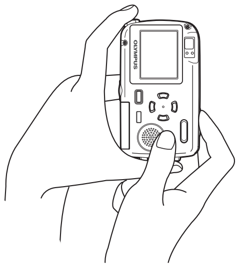
カメラを横に構える



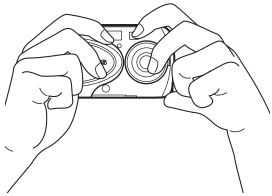


カメラを縦に構える





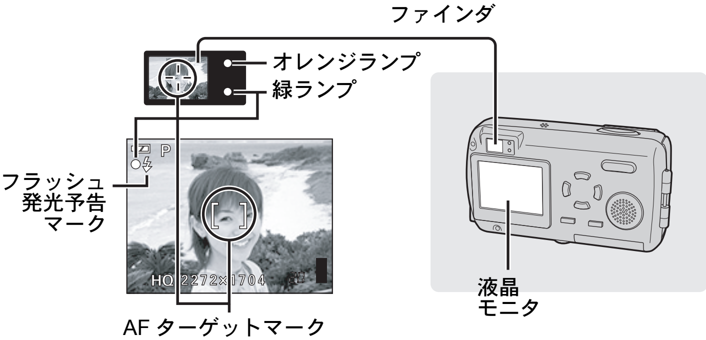
悪い例



レンズとフラッシュに指やストラップがかからないようにしてください。

撮影する

液晶モニタを見ながら撮影します。ファインダをのぞきながら撮影する場合も、同じ手順でシャッターボタンを押します。



☞「緑ランプ／オレンジランプ／フラッシュ発光予告について」(P.213)

1 レンズバリアを開けます。

電源が入り、レンズが繰り出して、液晶モニタが点灯し、撮影モードになります。

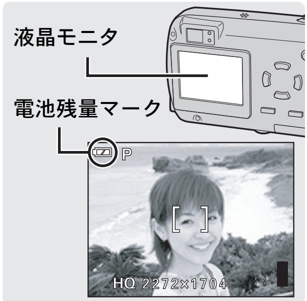


ヒント

- レンズが出てこないときは、レンズバリアが開ききっていません。
- 撮影モードから各種設定を変更することができます。☞P.65～95をご参照ください。

2 液晶モニタを見て、電池残量マークが（緑色）になっていることを確認します。

電池残量マークは、カメラの電源を入れてから最初の10秒間だけ表示されます。



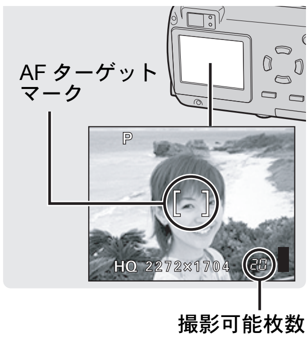
●電池残量マークについて

電池残量マークの状態は以下のように変化します。

表示	状態
点灯（緑）	撮影できます。
↓	
点灯（赤）	電池が残り少なくなりました。充電済みの電池と交換するか、充電してください。
↓	
液晶モニタ消灯 緑ランプとオレンジランプが点滅	電池がなくなりました。充電済みの電池と交換するか、充電してください。

3 AFターゲットマークを被写体に合わせます。

撮影可能枚数が液晶モニタに表示されます。



ヒント

液晶モニタが見にくい

- 晴天下のように明るい場所では、液晶モニタの画像に縦スジが入ることがあります。この場合は、ファインダを使って撮影してください。
- 明るい被写体にレンズを向けると、液晶モニタの画像にスミア（白い帯状の縞）が見られる場合がありますが、撮影画像への影響はありません。

4 シャッターボタンを軽く押します。（半押し）

ピントと露出が決まり、緑ランプが点灯します。



ヒント

- フラッシュが発光するときは、オレンジランプが点灯します。
- 緑ランプが点滅した場合（50cmより近い）は、ピントが合っていません。再度、シャッターボタンを軽く押し直してください。

5 半押しの状態から、さらにシャッターボタンを押して、撮影します。（全押し）

撮影した画像がカードに記録されます。



ヒント

- カードへの記録中はオレンジランプが点滅します。
- 撮影した画像を再生する場合は、☞「再生する」(P.96) をご覧ください。

●メモリゲージについて

撮影すると、メモリゲージが点灯します。メモリゲージの点灯中は撮影した画像をカードに記録しています。メモリゲージがすべて点灯しているとき（右図の状態）は次の撮影はできません。しばらく待って、メモリゲージが消灯してから次の撮影をしてください。



メモリゲージ

6 レンズバリアを閉じると電源が切れます。

次ページへつづく

液晶モニタとファインダを使い分ける

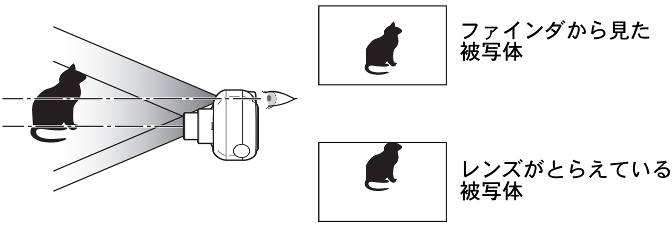
液晶モニタとファインダの特徴を理解して撮影シーンに合わせた使い分けをしましょう。

	ファインダ	液晶モニタ
長所	カメラがぶれにくく、周囲が暗くても写したいものがはっきり見えます。 電池の消耗が少ない。	撮影する範囲を正しく確認できます。
短所	近くのものを撮影するとき、ファインダで見える範囲と撮影できる画像とのあいだにずれが生じます。	手ぶれが起こりやすく、周囲が明るいときや暗いときでは見えにくいことがあります。電池の消耗が早くなります。
こんな撮影に	スナップや風景写真など、気軽に撮影したいとき。	人物や花のアップの撮影や、マクロ撮影など近くのものを撮るとき。

ファインダを使って撮るときのご注意

ファインダを使って撮ると、被写体を中央にバランスよく配置したつもりでも、撮影後にできあがった画像を見ると、意図した構図とずれていることがあります。この現象を視差（パララックス）といいます。視差はファインダから見た被写体とレンズがとらえている被写体の位置の差によって生じます。

視差のしくみについては、以下の図をご覧ください。



ヒント

- 視差は近距離の撮影になるほど大きくなります。マクロ撮影時は液晶モニタを使って撮影することをおすすめします。
- ファインダで見た構図より、実際にはやや広い範囲が撮影されます。
- 撮影時、液晶モニタを消灯することができます。
  ☞「液晶モニタを消灯する（モニタオフ）」（P.51）

ピントの合わせ方（フォーカスロック）

ピントを合わせたい被写体が AF ターゲットマークから外れる（ファインダの中央にない）ときは、次の操作でピントを固定して撮影することができます。この操作をフォーカスロックといいます。

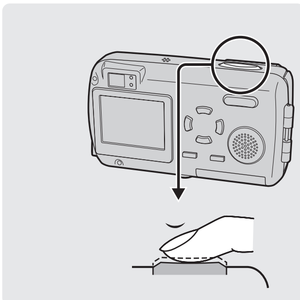
1 撮影モードでピントを合わせたい被写体にAFターゲットマークを合わせます。



ヒント

- ピントが合いにくいものの場合は、まず撮影したいものとほぼ同じ距離のものにカメラを向けます。

2 シャッターボタンを半押しします。



ヒント

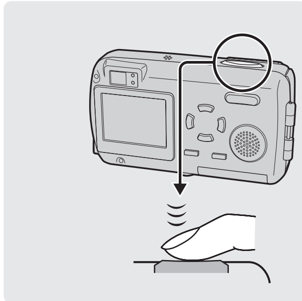
- 緑ランプが点灯すると、ピントと露出、ホワイトバランスが決まります。
- 緑ランプが点滅している場合は被写体までの距離が近すぎます。50 cm以上離れて撮影してください。50 cm未満の距離で撮影するときは、マクロ撮影をしてください。☞「近くのものを撮る」（P.82）
- 緑ランプが点滅したときは、ピントが決定されていません。シャッターボタンから指を離し、ピントを合わせる位置を少しずらしてもう一度シャッターボタンを半押ししてください。

3 半押しの状態のまま、撮影したい構図にカメラを動かします。



次ページへつづく

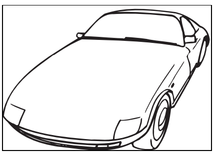
4 半押しの状態から、さらにシャッターボタンを押して、撮影します。



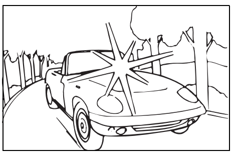
オートフォーカスが苦手な被写体

このカメラは自動的（オートフォーカス）にピント合わせができますが、次の場合、ピントが合いにくいことがあります。被写体と同距離にあるコントラストのはっきりとしたものでフォーカスロックした後、構図を決めて撮影してください。

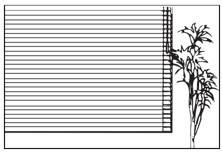
フォーカスロックの手順は、☞P.63 をご覧ください。



コントラストが
はっきりしない被写体



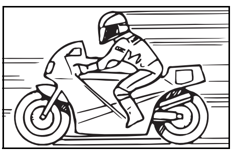
画面中央に極端に
明るいものがある場合



縦線のないもの
（下記「ヒント」参照）



遠いものと近いものが
混在する場合



動きの速いもの

ヒント

- 縦線のない被写体の場合は、カメラを縦位置に構えてフォーカスロックした後、構図を横に戻して撮影しても効果的です。

撮影モードを変える

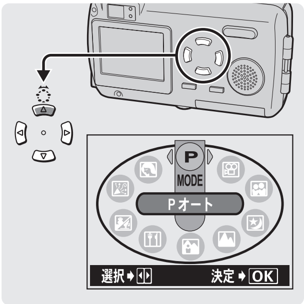
このカメラには、10 種類の撮影モードがあります。写真に合わせてモードを選ぶだけで、簡単に撮影を楽しむことができます。☞「撮影モードの種類」（P.66）

ヒント

- カメラに慣れるまでは、P（プログラム）オートで撮影することをおすすめします。

1 撮影モードで△を押します。

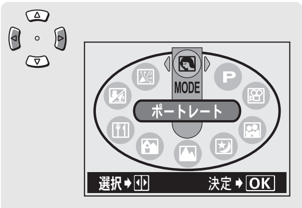
撮影モードを選ぶバーチャルダイヤル画面が表示されます。



バーチャルダイヤル画面

2 ◁または▷で撮影モードを選び、OKボタンを押します。

選んだ撮影モードに設定されます。



ヒント

- OKボタンを押さなくても撮影モードは変更され、バーチャルダイヤル画面は約3秒後、自動的に消えます。

次ページへつづく

撮影モードの種類

●Ｐ（プログラム）オート

シャッターボタンを押すだけです。カメラが最適と判断した状態で撮影ができます。

●ポートレート

人物撮影をするのに最適です。肌の質感をより美しく撮影します。



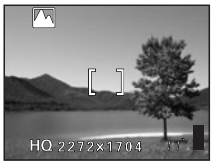
●記念撮影

人物と風景を一緒に撮るのに最適です。



●風景

遠くの風景もハッキリと、メリハリのあるシャープな写真が撮影できます。



●夜景

ライトアップされた建物など、夜景を撮るのに適しています。



→



ヒント

- フラッシュ発光時でもシャッター速度は1/30秒に固定されず、被写体や撮影時の状況に応じて最長4秒まで延びます。シャッター速度が遅いときは、手ぶれを防ぐために三脚のご使用をおすすめします。

●パーティショット



屋内で撮影するときに適しています。フラッシュ光が遠くまで届くように設定されていますが（W：約 5.1m、T：約 2.8m）、画質モードは1280 × 960以下に制限されます。

●ビーチ＆スノー



海岸や雪山での撮影に最適です。白砂や雪が白く美しく撮影されます。

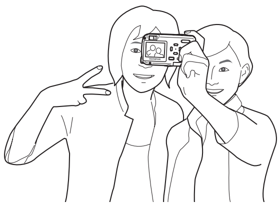
●料理



料理や素材を新鮮に鮮度よく撮影することができます。彩度、シャープネス、コントラストを高めに設定し、被写体を鮮やかにくっきりと撮ります。

●セルフポートレート

撮影者がカメラを持って、自分を撮るのに最適です。



ヒント

- 光学ズーム・デジタルズームはW側に固定され、使えません。
- スポット測光は使えません。

●ムービー

ムービー（動画）を撮影できます。☞「ムービーの撮影」（P.119）

ズームを使う

このカメラは、3 倍のズーム撮影が可能です。
ボタンを押して、撮影する範囲や構図を決めます。

光学ズーム	3 倍
光学ズーム＋デジタルズーム	12 倍

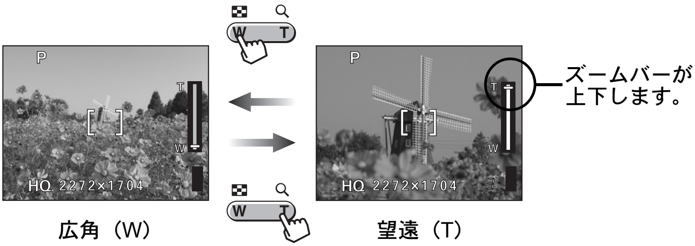
1 撮影モードでズームボタンを押します。

ズームボタンのTを押し続けると、遠くのものが大きくなります。（望遠）

ズームボタンのWを押し続けると、広い範囲を撮ることができます。（広角）

デジタルズームをオンに設定しているときは、☞ 手順2に進みます。





広角（W）　望遠（T）

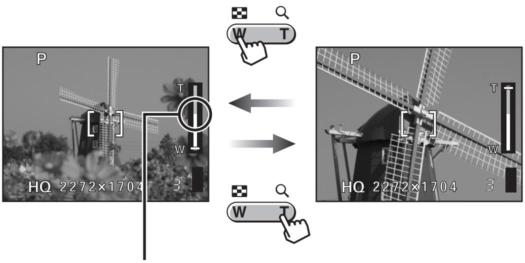
●撮影距離と撮影範囲

ズーム位置	撮影距離	撮影範囲（最短撮影距離）（W × H）
マクロ撮影時　（広角 W 側）	20 cm～∞	207 × 154mm（20 cm）
マクロ撮影時　（望遠 T 側）	20 cm～∞	70 × 53mm（20 cm）
通常撮影時　（広角 W 側）	50 cm～∞	502 × 373mm（50 cm）
通常撮影時　（望遠 T 側）	50 cm～∞	170 × 127mm（50 cm）

2 さらにズームボタン（T側）を押すとデジタルズームします。

ヒント

- デジタルズームの領域では、液晶モニタを見て撮影します。



白い部分： 光学ズームで拡大しています。
赤い部分： デジタルズームで拡大しています。

注　意

- デジタルズームの領域で撮影すると、画像が粗くなることがあります。
- 高倍率になるほど手ぶれが起こりやすくなります。手ぶれ防止のため、三脚を使うなどして、カメラを固定してください。
- 液晶モニタを消灯させるとデジタルズームは使用できなくなります。デジタルズームがオンに設定されている間は、再び液晶モニタを点灯させるとデジタルズームは使用できます。

次ページへつづく

デジタルズームを使う

このカメラは通常のズーム（光学ズーム）とデジタルズームの 2 つのズームを備えています。光学ズームの操作はズームボタンを押すだけで動作しますが、デジタルズームは［オン］に設定することで動作します。

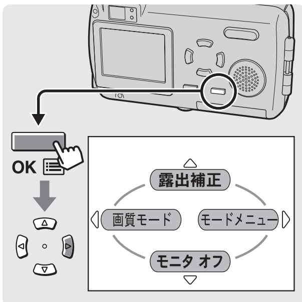
ヒント

- 光学ズームはレンズを動かして被写体を拡大しています。デジタルズームの場合、光学ズームとしくみが異なり、カメラがとらえた画像をデジタル処理して拡大しています。画像の中央部を切り取って、液晶モニタに拡大表示しています。そのため、撮影した画像は粗くなります。

1 撮影モードでOKボタンを押します。

トップメニューが表示されます。

▷を押して、モードメニューに入ります。



2 △または▽を押して［撮影］タブを選びます。

▷を押して、撮影メニューに入ります。



3

またはを押して［デジタルズーム］を選びます。

を押して、デジタルズームの設定に入ります。

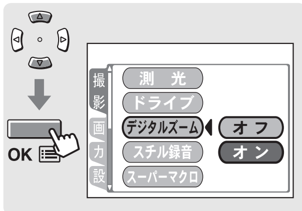


4

またはを押して［オン］を選び、OKボタンを押します。

デジタルズームが設定されます。

もう一度、OKボタンを押すとメニューが終了します。



ヒント

- ［オフ］を選ぶとデジタルズームは使えません。

5

ズームの操作方法については、☞P.68をご覧ください。

注　意

- セルフポートレートモードの場合は、デジタルズームは使えません。

フラッシュを使う

カメラはあらかじめオート発光に設定されていますが、撮影目的に合わせて、以下の 4 種類から選べます。

オート発光（初期設定）

暗いときや逆光のとき、フラッシュが自動的に発光します。

赤目軽減

暗いところで人物を撮影すると目が赤く写ることがありますが、[赤目軽減] に設定するとこの現象が軽減されます。フラッシュが発光する前に数回の予備発光をさせて、目が赤く写ってしまう現象を起こりにくくします。

注 意

- 最初の予備発光からシャッターが切れるまで約1秒かかります。カメラをしっかり構えて手ぶれを防いでください。
- フラッシュを正面から見ていない場合や、予備発光を見ていない場合、距離が遠い場合などや個人差により、赤目軽減の効果が現れにくくなります。

強制発光

撮影場所の明るさに関係なく、フラッシュを必ず発光させます。木かげなどで顔にかかった陰をやわらげるときや逆光、蛍光灯などの人工照明下での撮影に使います。

発光禁止

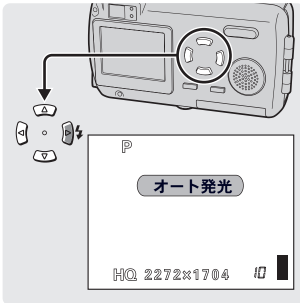
フラッシュは発光しません。美術館など、フラッシュを使えない場所で設定します。

注 意

- 暗いところの撮影ではシャッタースピードが長くなりますので、カメラぶれを防ぐため三脚のご使用をおすすめします。

1

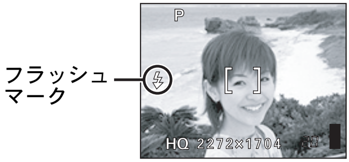
撮影モードで▷を繰り返し押して、フラッシュの設定を切り替えます。



ヒント

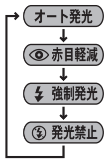
- フラッシュの選択画面は自動的に消えます。

［オート発光］以外のフラッシュに設定すると、画面にフラッシュマークが表示されます。



2

フラッシュの設定の順番は、矢印の順に変わり「発光禁止」の次は「オート発光」に戻ります。



●フラッシュ到達距離について

フラッシュ使用時の適正撮影距離は以下のとおりです。

撮影距離（広角W側）	0.2～3.6 m
撮影距離（望遠T側）	0.2～2.0 m

●フラッシュ充電時間について

フラッシュ充電中はオレンジランプが点滅します。

フラッシュ充電時間	約6秒

画像のサイズと画質を変える（画質モード）

画像をカードに記録するときの画像サイズと画質を選びます。
画像サイズと画質を用途に応じて選びます。カメラはあらかじめ HQ に設定されています。

画質モード	画質	画像サイズ		使用例
SHQ	きれい	2272 × 1704（低圧縮）	大きい	大きくプリントする。 パソコンで画像編集する。
HQ	ふつう	2272 × 1704（以下標準圧縮）	↑	ハガキサイズにプリントする
SQ1		2048 × 1536		L版にプリントする
SQ2		1600 × 1200		Webに掲載する。 Eメールに添付する。
		1280 × 960		
		1024 × 768	↓	
		640 × 480	小さい	

●カード容量ごとの撮影可能枚数

画質モード / カード容量	SHQ	HQ	SQ1	SQ2			
				1600 × 1200	1280 × 960	1024 × 768	640 × 480
16MB	5	16	20	24	38	58	99
32MB	11	33	40	49	76	117	199
64MB	22	66	81	99	153	234	398
128MB	45	133	163	199	307	469	798
256MB	90	266	326	399	614	940	1598
512MB	181	532	652	798	1229	1879	3195

ヒント

- カードの記録可能枚数はおおよその目安です。
- 撮影可能枚数は撮影対象やプリント予約の有無などによっても変わります。
  撮影や画像の消去をしても、撮影可能枚数は変わらないことがあります。
- スチル録音時は、撮影可能枚数が少なくなります。

画像サイズと圧縮率

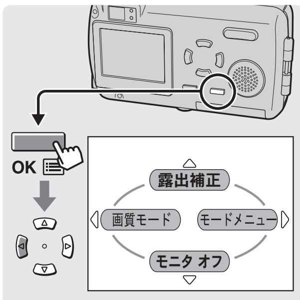
●圧縮率と画質
画質は圧縮率によって左右されます。低圧縮の画質で撮影した画像は、標準圧縮の画質で撮影した画像に比べて、より精細に画像を記録できます。ただし、圧縮率が低いほどデータ量が多くなり、カードに記録できる画像の枚数も少なくなります。

●画像サイズ
画像をカードに記録する際の大きさ（縦の画素数 × 横の画素数）です。画像をプリントするときは、大きなサイズで記録しておくときれいにプリントされます。ただし、画像サイズが大きくなるほどファイルサイズ（データの量）も大きくなり、カードに記録できる枚数は少なくなります。

●画像サイズとパソコンモニタ上での画像の大きさ
撮影した画像をパソコン上で見る場合に表示される画像の大きさは、パソコンのモニタ設定によって異なります。たとえば、1024 × 768ピクセルの画像サイズで撮影された画像は、パソコンのモニタ設定が1024 × 768のとき画像を等倍（100％）で表示すると、モニタ全体に表示されます。モニタ設定がそれ以上（1280 × 1024など）になると、モニタの一部にしか表示されません。

1 撮影モードでOKボタンを押します。

トップメニューが表示されます。



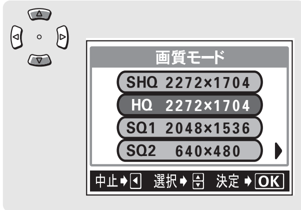
◁を押して、画質モードの設定に入ります。

2

またはを押して［SHQ］［HQ］［SQ1］［SQ2］から選びます。

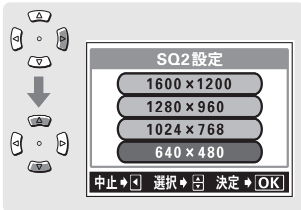
［SHQ］［HQ］［SQ1］を選んだ場合は、☞手順4へ進みます。

［SQ2］を選んだ場合は、☞手順3へ進みます。



3

を押して、SQ2設定画面を表示します。
またはを押して画像サイズを選び、OKボタンを押します。



4

OKボタンを押します。



選んだ画質モードが設定されます。

ヒント

- 設定した画質モードをカメラの電源をオフにしても記憶しておきたい場合は、設定保持を「する」に設定します。☞「設定を記憶するには」(P.33)

撮影場所の明かりに適した設定をする（ホワイトバランス）

白い紙に晴天時の太陽があたっているとき、夕日があたっているとき、電球の灯りがあたっているときでは、それぞれの白が違います。人間の目は明かりに左右されることなく白いものを白色と認識しますが、デジタルカメラの場合、明かりに合わせて白いものが白く写るように色の調整を行なう必要があります。この調整機能をホワイトバランスといいます。

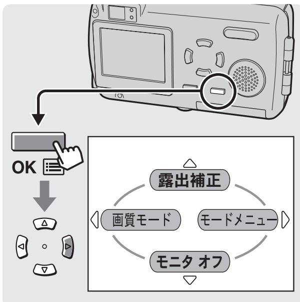
<table>
<tr><td>オート</td><td colspan="2">撮影場所の明かりに合わせて、自然な色合いで写るようカメラが自動的に調整します。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">プリセット</td><td colspan="2">撮影場所の明かりに応じてホワイトバランスを以下から選びます。</td></tr>
<tr><td>晴天</td><td>晴れた屋外での撮影時に適しています。</td></tr>
<tr><td>曇天</td><td>曇った屋外での撮影時に適しています。</td></tr>
<tr><td>電球</td><td>電球の灯りでの撮影時に適しています。</td></tr>
<tr><td>蛍光灯</td><td>蛍光灯の灯りでの撮影時に適しています。</td></tr>
</table>

1

撮影モードでOKボタンを押します。

トップメニューが表示されます。

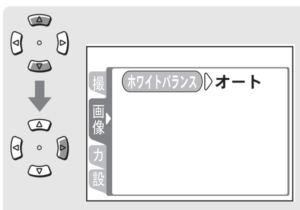
▷を押して、モードメニューに入ります。



2

△または▽を押して、画像タブを選びます。

▷を押して、画像メニューに入ります。



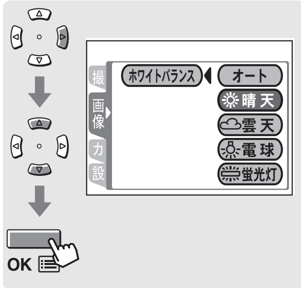
次ページへつづく

撮影場所の明かりに適した設定をする（ホワイトバランス）

3 を押して、ホワイトバランスの設定に入ります。

を押して［オート］［晴天］［曇天］［電球］［蛍光灯］から選び、OKボタンを押します。

選んだホワイトバランスが設定されます。
もう一度OKボタンを押すとメニューが終了します。



- ホワイトバランスを設定すると、この位置にマーク（）が表示されます。
- オートホワイトバランスの場合は表示されません。



ヒント

- 朝日や夕日を赤く撮りたいときは、ホワイトバランスを晴天や曇天に設定すると、きれいに撮影できます。

注　意

- 複数の照明があたっているような特殊な光源下では、ホワイトバランスの効果が発揮できない場合があります。
- オート以外に設定して撮影した場合、画像を再生して色を確認してください。
- オート以外に設定してフラッシュを発光した場合、液晶モニタで見た画像と異なった色合いで撮影されることがあります。

明るい／暗い被写体に適した設定をする（露出補正）

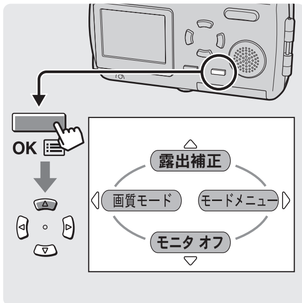
被写体が非常に明るかったり、暗かったりする場合や、被写体と背景の明るさの差が非常に大きい場合は露出補正をすることで明るさの調整ができます。1/3 段刻みで ±2.0 の範囲で調整できます。

1

撮影モードでOKボタンを押します。

トップメニューが表示されます。

△を押して、露出補正の設定に入ります。

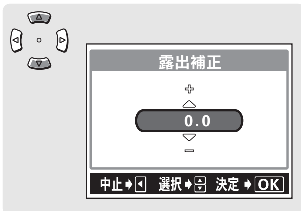


2

△または▽を押して補正値を選びます。

△：＋に補正されて明るくなります。

▽：－に補正されて暗くなります。



3

OKボタンを押します。

選んだ補正値に設定されます。



ヒント

- 通常、白い被写体（雪など）を撮影すると実際より暗く写ってしまいますが、プラスに補正すると見たままの白を表現することができます。黒い被写体を撮影するときには逆に、マイナスに補正すると効果的です。
- 撮影後は、露出補正値を0（ゼロ）に戻しておくことをおすすめします。

注　意

- フラッシュを使用すると意図した明るさ（露出）で撮影できないことがあります。

被写体と背景の明るさが異なるとき（スポット測光）

逆光のときは、人物の顔などが暗く写ることがあります。この場合、スポット測光を使用すると、背景の明るさに影響されることなく撮影できます。

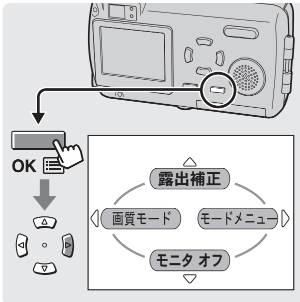
ESP（表示なし）	画面の中央部と周辺部を別々に測光して、最適な露出にします。
スポット（[•]）	画面の中央部を測光します。中央部の被写体に適正な露出にします。

1

OKボタンを押します。

トップメニューが表示されます。

▷を押して、モードメニューに入ります。



2

△または▽を押して［撮影］タブを選びます。

▷を押して、撮影メニューに入ります。



3

△または▽を押して［測光］を選びます。

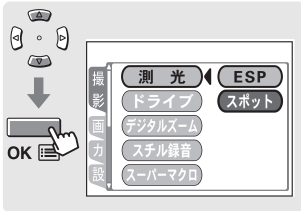
▷を押して、測光の設定に入ります。



4 ⊿または▽を押して［スポット］を選び、OKボタンを押します。

スポット測光が設定されます。

もう一度、OKボタンを押すとメニューが終了します。



5 スポット測光を行い、撮影します。

① 撮りたい被写体を画面中央にして半押しします。

② 構図を決めて撮影します。

☞「撮影する」（P.59）

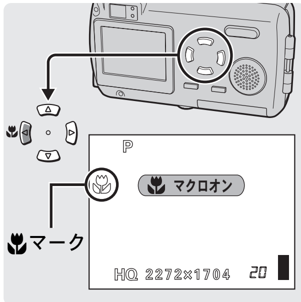
近くのものを撮る（マクロ撮影）

花などの被写体に近づいて撮影することをマクロ撮影といいます。このカメラでは、20cm まで近づいて撮影できますが、さらに近づきたいときには、スーパーマクロ機能を使うことにより 9cm まで撮影が可能になります。

1

撮影モードでを繰り返し押し、［マクロオン］を選びます。

［マクロオン］に設定すると、液晶モニタにマークが表示されます。



2

液晶モニタを見ながら撮影します。

ヒント

- ファインダを見て撮影すると、ファインダ内の画像と実際に写る範囲にずれが生じます。

注　意

- マクロオンに設定した状態で、50 cmより遠距離の被写体を撮影することもできます。ただし、通常の撮影よりピント合わせに時間がかかります。
- フラッシュ使用時は影が目立ったり、十分な明るさにならないことがあります。
- スーパーマクロとの併用はできません。

●撮影距離と撮影範囲

ズーム位置	撮影距離	撮影範囲（最短撮影距離）（W × H）
マクロ撮影時 （広角 W 側）	20 cm～∞	207 × 154mm（20 cm）
マクロ撮影時 （望遠 T 側）	20 cm～∞	70 × 53mm（20 cm）

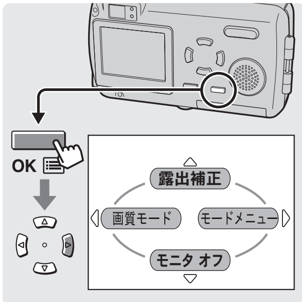
スーパーマクロを設定する

スーパーマクロモードを［オン］に設定すると、9 cmまで接近して撮影することができます。ただし、ズームが T（望遠）に固定され、フラッシュは発光しません。

1 撮影モードでOKボタンを押します。

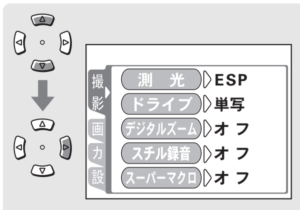
トップメニューが表示されます。

▶を押して、モードメニューに入ります。



2 ▲または▼を押して［撮影］タブを選びます。

▶を押して、撮影メニューに入ります。



3 ▲または▼を押して［スーパーマクロ］を選びます。

▶を押して、スーパーマクロの設定に入ります。



次ページへつづく

4

ⓐまたはⓥを押して［オン］を選び、OKボタンを押します。

ズームが望遠側に移動して、スーパーマクロが設定されます。



もう一度、OKボタンを押すとメニューが終了します。

5

液晶モニタを見ながら撮影します。

スーパーマクロに設定すると、液晶モニタにSマークが表示されます。

ヒント

- スーパーマクロを解除する場合は、［スーパーマクロ］を［オフ］に設定します。
- スーパーマクロを設定して、撮影距離が20 cm以上の被写体を撮影する場合は、ピントが合うまで時間がかかります。

●撮影距離と撮影範囲

ズーム位置	撮影距離	撮影範囲（最短撮影距離）（W × H）
スーパーマクロ　（T 側）	9 cm～50 cm	33 × 25mm（9 cm）

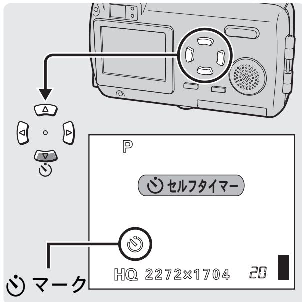
セルフタイマーで撮る

セルフタイマー撮影では、シャッターボタンを押してから約 12 秒後にシャッターが切れます。三脚などにカメラを固定させた状態で撮影してください。

1

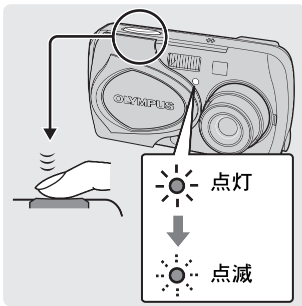
撮影モードで▽を繰り返し押し、［セルフタイマー］を選びます。

［セルフタイマー］に設定すると、液晶モニタに⏲マークが表示されます。



2

撮影します。



ヒント

- セルフタイマー／リモコンランプが約10秒間点灯し、さらに約2秒間点滅した後、シャッターが切れます。
- セルフタイマーは、一回の撮影が終わると自動的に解除されます。

注　意

- カメラレンズの直前に立って、セルフタイマーを作動しないでください。ピントや露出が合わなくなります。
- セルフタイマーと別売のリモコンを同時に使用することはできません。

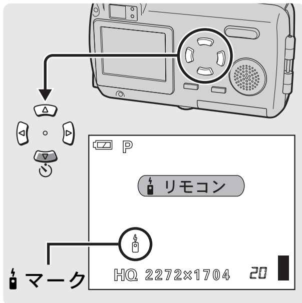
リモコン（別売）で撮る

別売のリモコンが使えます。記念写真を撮るときや、夜景撮影など、カメラに触れないでシャッターを切りたい場合に便利です。カメラを三脚などでしっかり固定します。

1

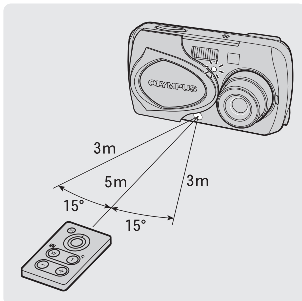
撮影モードで▽を繰り返し押し、［リモコン］を選びます。

［リモコン］に設定すると、液晶モニタにマークが表示されます。



2

リモコンをカメラの受信窓に向け、リモコンのシャッターボタンを押します。



ヒント

- ピントと露出が固定され、カメラのセルフタイマー／リモコンランプが点滅し、約2秒後にシャッターが切れます。

注　意

- リモコンのチャンネル切り替え機能には対応していません。どちらのチャンネルでもリモコン操作を受け付けます。
- リモコン受信窓に強い光があたると、リモコンの届く距離が短くなったり、撮影ができなくなることがあります。
- 連写をする場合は、リモコンのシャッターボタンを押し続けます。ただし、リモコンの受信状態が悪くなると、連写が途中で終了することがあります。
- 再生モードでリモコンを使用するときは、リモコンの説明書をお読みください。

連続して撮る（連写）

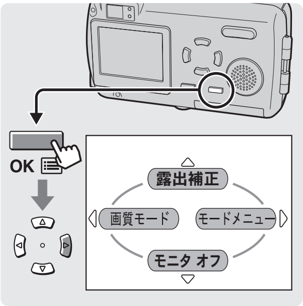
シャッターボタンを押している間、約 2 コマ／秒で静止画を連続して撮影します（画質モードが［HQ］の場合、約 4 コマ連続撮影できます）。

連続した画像の中から好みの画像を選べるため、動いているものの撮影におすすめです。

1 撮影モードでOKボタンを押します。

トップメニューが表示されます。

▷を押して、モードメニューに入ります。



2 △または▽を押して［撮影］タブを選びます。

▷を押して、撮影メニューに入ります。



3 △または▽を押して［ドライブ］を選びます。

▷を押して、ドライブの設定に入ります。



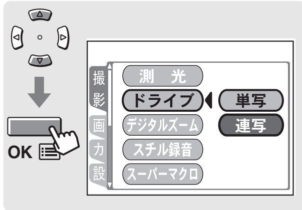
次ページへつづく

4

![△]または![▽]を押して［連写］を選び、OKボタンを押します。

連写が設定されます。

もう一度、OKボタンを押すとメニューが終了します。



5

ファインダで被写体を確認しながら撮影します。

液晶モニタに連写マークが表示されます。



ヒント

- シャッターボタンを全押ししている間は連写が続きます。指を離すと連写は止まります。
- 最初の1コマで、ピントは決定されます。
- 連写に設定すると、スチル録音はオフになります。

注　意

- 連写中、液晶モニタに被写体は表示されません。

パノラマ写真を撮る

付属の xD ピクチャーカードを使うと、パノラマ写真が楽しめます。被写体の端が重なるよう撮影し、ソフトウェア CAMEDIA Master（付属の CD-ROM に収録）を使用してつなぎ合わせ、1 枚のパノラマ合成画像を作成することができます。

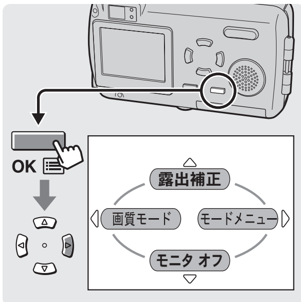
注　意

- オリンパス製のxDピクチャーカード以外ではパノラマ撮影はできません。
- HQ ／ SHQ モードで多量のパノラマ撮影をするとパソコンで合成するときにメモリ不足になることがありますので、SQモードでの撮影をおすすめします。☞「画像のサイズと画質を変える」（P.74）

1

撮影モードでOKボタンを押します。

トップメニューが表示されます。



▷を押して、モードメニューに入ります。

2

△または▽を押して［撮影］タブを選びます。



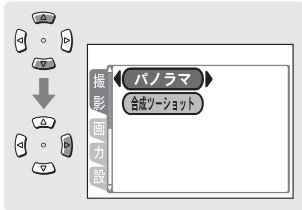
▷を押して、撮影メニューに入ります。

次ページへつづく

3

またはを押して［パノラマ］を選びます。

を押して、パノラマの撮影画面に入ります。



4

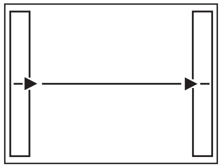
液晶モニタを見ながら、十字ボタンで撮影する方向を指定します。

：左から右に撮影するとき

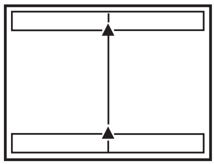
：右から左に撮影するとき

：下から上に撮影するとき

：上から下に撮影するとき



左から右に撮影するとき



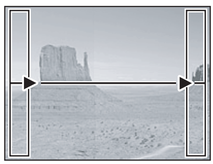
下から上に撮影するとき

5

1枚目を撮影します。

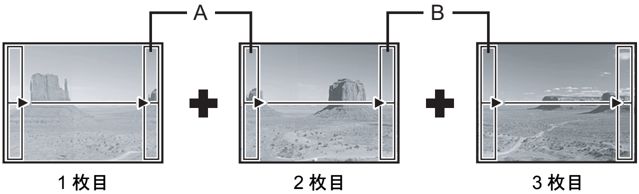
ヒント

- ピント・露出・ホワイトバランスなどは、1枚目で決定されます。1枚目に太陽など光の強い被写体を入れた撮影をしないでください。



6 被写体の一部が重なるように撮影します。

画面の両端に表示される枠を目安に構図を決めていきます。1枚目と2枚目はAの部分が重なるように撮影します。同様に2枚目と3枚目では、Bの部分が重なるように撮影します。撮影するときは次の撮影のために、枠内の画像を覚えておいてください。



ヒント

- 最大10枚までパノラマ撮影が可能です。
- 10枚撮り終わると警告マーク が表示されます。

7 撮影が終わったら、OKボタンを押してパノラマ撮影を終了します。



8 パノラマ写真の合成は、付属の CD-ROM に収録してある CAMEDIA Masterを使って、撮った画像をつなぎ合わせます。

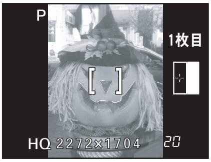
☞「パノラマ写真を作る」（P.197）



2 枚の画像を貼り合わせる（合成ツーショット）

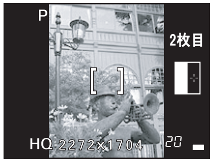
2 回続けて撮影した画像を隣り合わせに配置して、1 枚の画像として保存します。別々の被写体を 1 枚の画像にして楽しむことができます。

1枚目



左側に配置されます。

2枚目



右側に配置されます。

再生時の画像

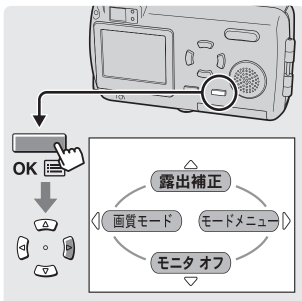


1

撮影モードでOKボタンを押します。

トップメニューが表示されます。

▷を押して、モードメニューに入ります。



2

または を押して［撮影］タブを選びます。

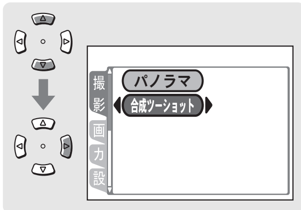
を押して、撮影メニューに入ります。



3

または を押して［合成ツーショット］を選びます。

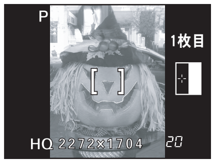
を押して、合成ツーショットの撮影画面に入ります。



4

液晶モニタを見ながら1枚目を撮影します。

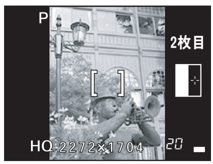
続けて2枚目を撮影します。



5

2枚目を撮影すると、自動的にメニューに戻ります。

まだ1枚も撮影していない状態、または1枚目を撮影した状態で合成ツーショットを解除したい場合は、OKボタンを押してください。



撮影時に音声を録音する（スチル録音）

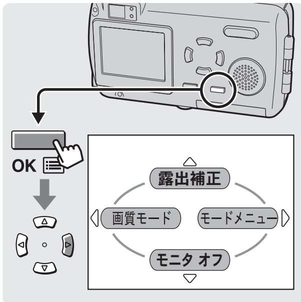
静止画を撮影するときに音声を録音します。シャッターが切れてから約 0.5 秒後に録音を開始し、約 4 秒間録音します。スチル録音をオンにすると、撮影後、毎回自動的に録音します。撮影した画像に対するコメントなどを録音しておくと便利です。

1

撮影モードでOKボタンを押します。

トップメニューが表示されます。

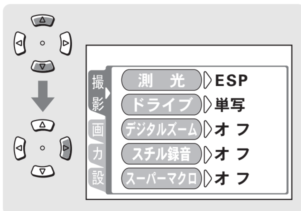
▷を押して、モードメニューに入ります。



2

△または▽を押して［撮影］タブを選びます。

▷を押して、撮影メニューに入ります。



3

△または▽を押して［スチル録音］を選びます。

▷を押して、スチル録音の設定に入ります。

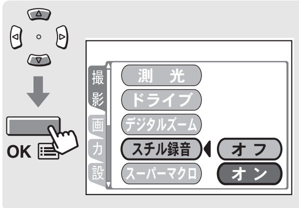


4

△または▽を押して［オン］を選び、OKボタンを押します。

スチル録音が設定されます。

もう一度、OKボタンを押すとメニューが終了します。



5

シャッターボタンを押してシャッターが切れてから録音を開始します。



ヒント

- スチル録音した静止画を再生するとき、再生音量を調整するとこができます。☞「音量を設定する」(P.42)

注　意

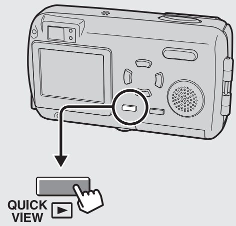
- 録音対象がカメラから1 m以上はなれると、きれいに録音されない場合があります。
- 録音中は次の撮影ができません。
- パノラマ撮影（P.89）や合成ツーショット（P.92）では、録音できません。

再生する

再生モードにすると、最後に撮影した画像が液晶モニタに再生されます。十字ボタンを押して、再生する画像を切り替えます。

1 [▶]ボタンを押します。

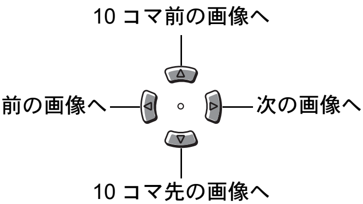
再生モードになり液晶モニタに撮影した画像が再生されます（QUICK VIEW）。

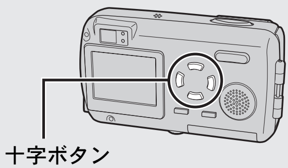


ヒント

- 再生モードから各種設定を変更することができます。☞P.97～118をご参照ください。

2 再生中に十字ボタンを押して、画像を切り替えます。





ヒント

- レンズバリアを開けて撮影中に [▶] ボタンを押して再生モードにした場合は、次の動作で撮影モードに戻ります。
  [▶]ボタンを押す／シャッターボタンを半押しする

3 [▶]ボタンを押すと、再生モードが終了します。



ヒント

- レンズバリアが閉じている場合は、電源が切れます。
- レンズバリアが開いている場合は、撮影モードに戻ります。

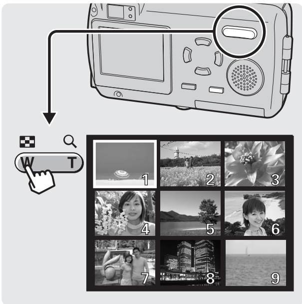
画像を一覧で再生する（インデックス再生）

複数の画像を一覧で表示します。たくさん撮った画像の中から目的の画像を探し出したいときに便利です。一覧で表示する画像の数は切り替えることができます。☞「表示コマ数を切り替えるには」（P.98）

1 再生モードで、ズームボタン（W側）を押します。

インデックス再生されます。

☞「再生する」（P.96）



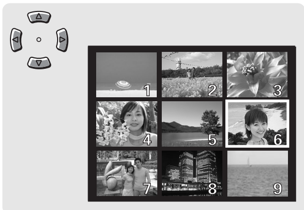
2 十字ボタンを押して画像を選びます。

◁: 前の画像へ移動します。

▷: 次の画像へ移動します。

△:前のページを表示します。

▽:次のページを表示します。



3 ズームボタン（T側）を押します。

1コマ再生に戻ります。



次ページへつづく

表示コマ数を切り替えるには（インデックス表示）

インデックス再生で一度に表示する画像の数を 4 コマ、9 コマ、16 コマから選びます。

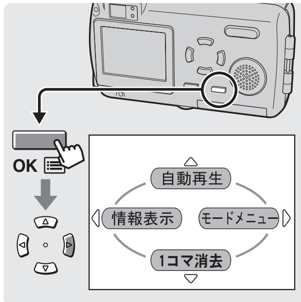
1

再生モードでOKボタンを押します。

トップメニューが表示されます。

を押して、モードメニューに入ります。

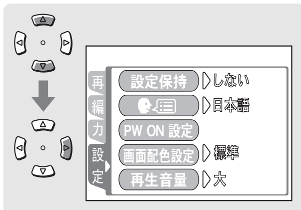
☞「再生する」（P.96）



2

または を押して［設定］タブを選びます。

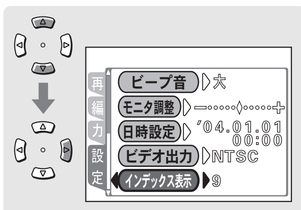
［設定］タブが表示されたら、 を押して設定メニューに入ります。



3

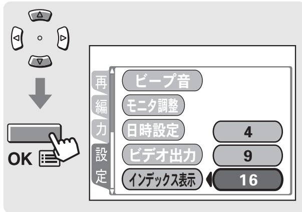
または を押して［インデックス表示］を選びます。

を押して、インデックス表示の設定に入ります。



4

△または▽を押して［4］［9］［16］から選び、OKボタンを押します。



インデックス分割数が設定されます。

もう一度、OKボタンを押すとメニューが終了します。

拡大して見る（拡大再生）

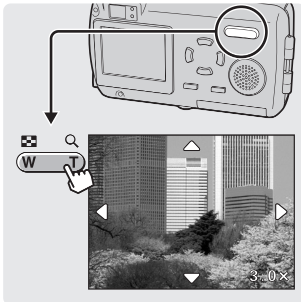
液晶モニタに表示される画像を 4 倍まで拡大表示します。

1

再生モードでズームボタン（T側）を押します。

ズームボタンを押すたびに、画像を拡大します。

☞「再生する」（P.96）



ヒント

- 拡大再生中は、十字ボタンで見たい部分まで移動できます。

2

ズームボタン（W側）を押します。

1コマ再生に戻ります。



画像を回転させる（回転表示）

カメラを縦に構えて撮影した画像は、横向きに表示されます。このような横向きの画像を回転して縦向きに再生します。時計回りに90度、反時計回りに90度の回転ができます。



撮影時の画像



時計回りに90度
（+90º）



反時計回りに90度
（–90º）

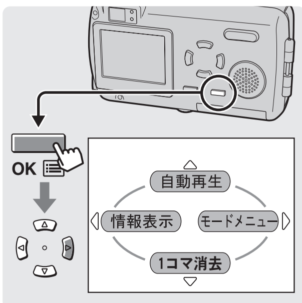
1 再生モードで回転させたい画像を再生します。

☞「再生する」（P.96）

2 OKボタンを押します。

トップメニューが表示されます。

▷を押して、モードメニューに入ります。



4 静止画の再生

いろいろな再生方法

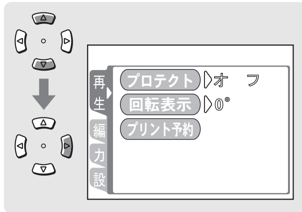
次ページへつづく

画像を回転させる（回転表示）

3

またはを押して［再生］タブを選びます。

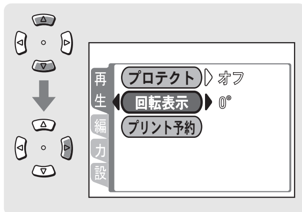
を押して、再生メニューに入ります。



4

またはを押して［回転表示］を選びます。

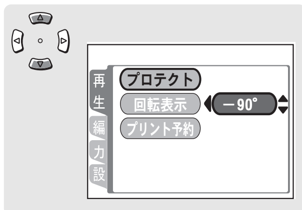
を押して、回転表示の設定に入ります。



5

またはを押して［+90º］［–90º］から選びます。

画像が回転して再生されます。



6

OKボタンを押します。

回転した状態で画像が保存されます。



もう一度、OKボタンを押すとメニューが終了します。

注　意

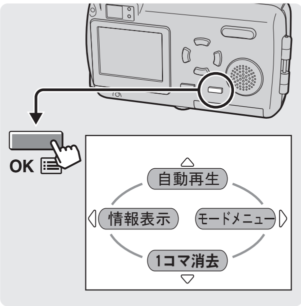
- プロテクトされた画像は回転再生できません。プロテクトを解除してから回転再生してください。☞「画像にプロテクトをかける」（P.114）

スライドショーで画像を再生する（自動再生）

画像を順々に自動的に再生します。

1 再生モードでOKボタンを押します。

トップメニューが表示されます。



☞「再生する」（P.96）

2 [△]を押して、自動再生をスタートします。

約3秒間隔で画像が順々に再生されます。



ヒント

- スチル録音した画像は、約8秒間隔で再生されます。

3 自動再生を終了するには、OKボタンを押します。



注 意

- 長時間自動再生を行う場合は、ACアダプタのご使用をおすすめします。電池をお使いの場合、30分経過すると自動的に自動再生が終了し、電源が切れます。

テレビで再生する

撮影した画像をテレビで楽しむことができます。テレビで再生するには、付属の A/V ケーブルでカメラとテレビを接続します。

お使いのテレビの映像信号に合わせて、NTSC または PAL を選びます。海外でテレビに接続して再生するときは、設定を合わせてください。

ヒント

主な国と地域のテレビ映像信号例

- NTSC：日本、台湾、韓国、北米
  PAL：　ヨーロッパ諸国、中国

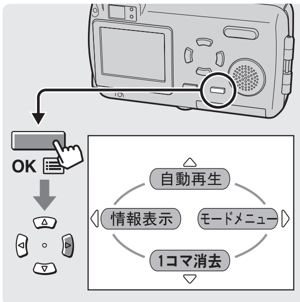
1

再生モードでOKボタンを押します。

トップメニューが表示されます。

を押して、モードメニューに入ります。

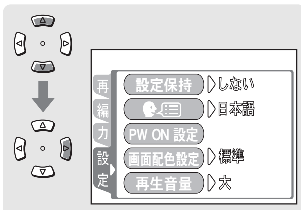
☞「再生する」（P.96）



2

または を押して［設定］タブを選びます。

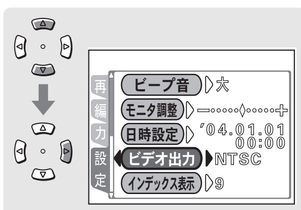
を押して、設定メニューに入ります。



3

または を押して［ビデオ出力］を選びます。

を押して、ビデオ出力の設定に入ります。

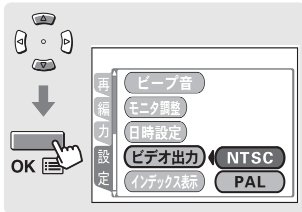


4

△または▽を押して［NTSC］または［PAL］を選び、OKボタンを押します。

ビデオ出力が設定されます。

もう一度、OKボタンを押すとメニューが終了します。

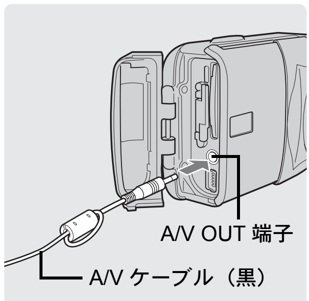


5

カメラとテレビの電源を切ります。

6

カメラのA/V OUT端子にA/Vケーブルを差し込みます。

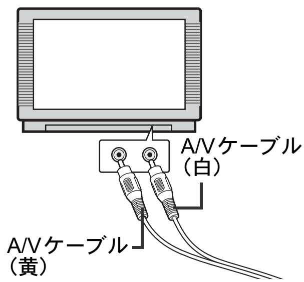


ヒント

- A/V OUT： 音声と映像の出力端子の略（オーディオ／ビデオアウト）

7

テレビの映像（黄色）／音声（白色）入力端子にA/Vケーブルを差し込みます。



ヒント

- テレビの映像／音声入力端子については、テレビの説明書をご覧ください。

次ページへつづく

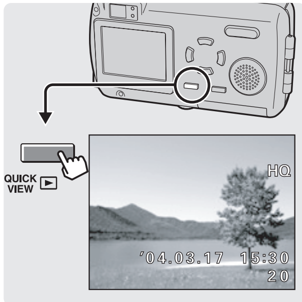
8 テレビの電源を入れて、「ビデオ入力」に切り替えます。

ヒント

- ビデオ入力の切り替え方法については、テレビの説明書をご覧ください。

9 ▶を押して、電源を入れます。

テレビに表示されます。



ヒント

- カメラは通常の再生モードと同じように、再生操作ができます。
- A/Vケーブルを取り外すときは、カメラの▶ボタンを押して電源を切ってからA/Vケーブルを抜いてください。

画像の情報量を切り替える（情報表示）

撮影時の画像情報量を切り替えます。

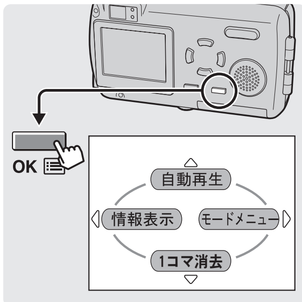
詳細の情報表示	通常の情報表示
	

ヒント

- 詳細の情報表示に設定すると、約3秒間情報が表示されます。

1 再生モードでOKボタンを押します。

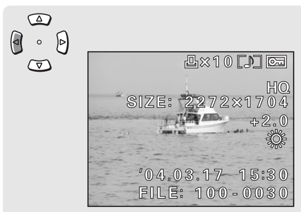
トップメニューが表示されます。



☞「再生する」（P.96）

2 ◁を押します。

［情報表示］が選ばれ、詳細な情報表示に切り替わります。



ヒント

- もう一度、手順1、2を行うと通常の情報表示に戻ります。

モノクロにする

撮影した画像をモノクロ（白黒）に変換して、オリジナルの画像とは別の新規画像として保存します。

1

再生モードでモノクロ（白黒）にしたい画像を再生します。

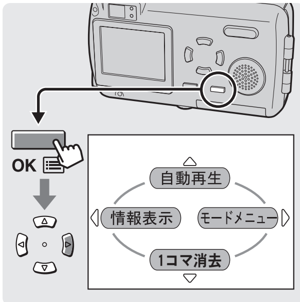
☞「再生する」（P.96）

2

OKボタンを押します。

トップメニューが表示されます。

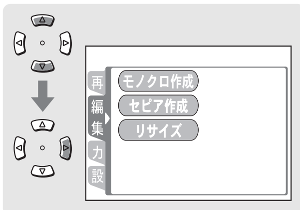
▷を押して、モードメニューに入ります。



3

△または▽を押して［編集］タブを選びます。

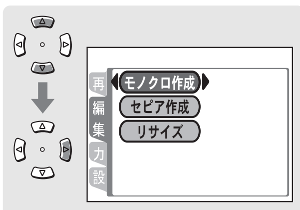
▷を押して、編集メニューに入ります。



4

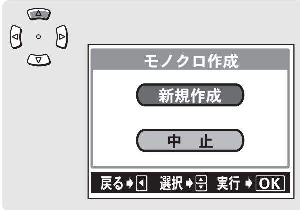
△または▽を押して［モノクロ作成］を選びます。

▷を押して、モノクロ作成の設定に入ります。



5

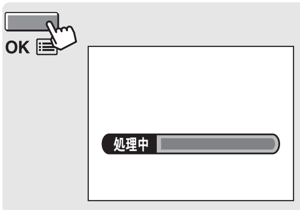
[button icon]を押して［新規作成］を選びます。



6

OKボタンを押してモノクロ画像を作成します。

処理が終わると、オリジナル画像とは別の新規画像として保存します。



注　意

- カードに空き容量がない場合は作成できません。

セピアにする

撮影した画像をセピア色に変換して、オリジナルの画像とは別の新規画像として保存します。

1

再生モードでセピアにしたい画像を再生します。

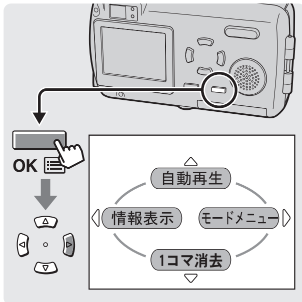
☞「再生する」（P.96）

2

OKボタンを押します。

トップメニューが表示されます。

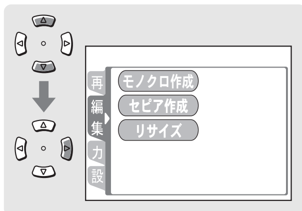
を押して、モードメニューに入ります。



3

またはを押して［編集］タブを選びます。

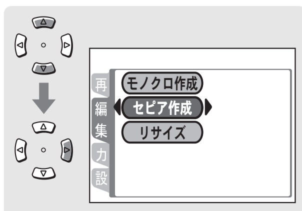
を押して、編集メニューに入ります。



4

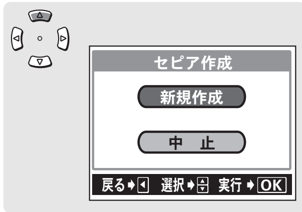
またはを押して［セピア作成］を選びます。

を押して、セピア作成に入ります。



5

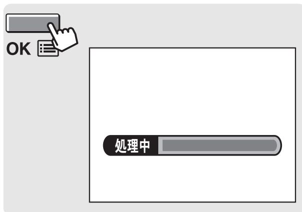
を押して［新規作成］を選びます。



6

OKボタンを押してセピア画像を作成します。

処理が終わると、オリジナル画像とは別の新規画像として保存されます。



注　意

- カードに空き容量がない場合は作成できません。

サイズを変更する（リサイズ）

撮影した画像のサイズを変更して、オリジナルの画像とは別の新規画像として保存します。Web の掲載やeメールへの添付などは、小さなサイズにすると便利です。

選択できる画像サイズは 640 × 480、または 320 × 240 です。

1

再生モードでリサイズしたい画像を再生します。

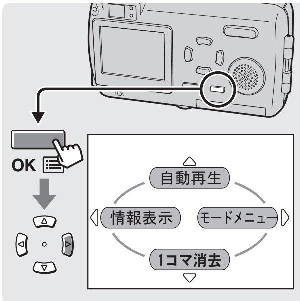
☞「再生する」（P.96）

2

OKボタンを押します。

トップメニューが表示されます。

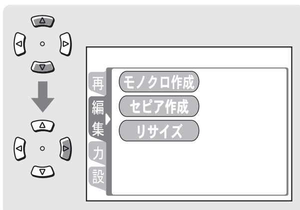
▷を押して、モードメニューに入ります。



3

△または▽を押して［編集］タブを選びます。

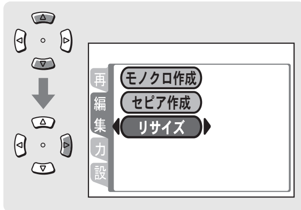
▷を押して、編集メニューに入ります。



4

またはを押して［リサイズ］を選びます。

を押して、リサイズの設定に入ります。



5

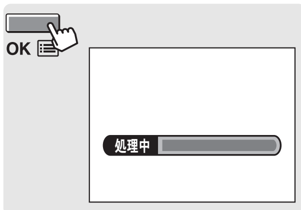
またはを押して画像サイズを選びます。



6

OKボタンを押してリサイズした画像を作成します。

処理が終わると、オリジナル画像とは別の新規画像として保存されます。



注　意

- カードに空き容量がない場合は作成できません。

画像にプロテクトをかける

大切な画像を誤って消去しないように、プロテクト（保護）をかけることができます。1 コマ消去や全コマ消去の操作をしても、プロテクトされた画像は消去されません。

注　意

- フォーマットを行うとプロテクトされた画像も消去されます。

1

再生モードでプロテクトをかけたい画像を再生します。

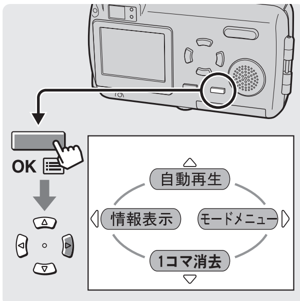
☞「再生する」（P.96）

2

OKボタンを押します。

トップメニューが表示されます。

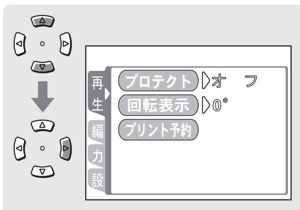
▷を押して、モードメニューに入ります。



3

△または▽を押して［再生］タブを選びます。

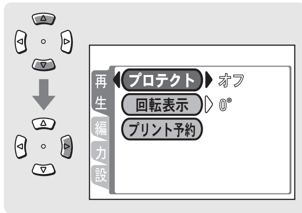
▷を押して、再生メニューに入ります。



4

△または▽を押して［プロテクト］を選びます。

▷を押して、プロテクトの設定に入ります。



5

△または▽を押して［オン］を選び、OKボタンを押します。

選んだ画像がプロテクト（保護）されます。



ヒント

- 画面に[鍵]マークが表示されます。
- プロテクトを解除するときは［オフ］を選びます。

1コマ消去

デジタルカメラは不要な画像をすぐに消去することができます。消去すると撮影可能枚数が増えます。

ヒント

- カード内のすべての画像を一度に消去することもできます。
  ☞「全コマ消去」（P.117）
- プロテクト（保護）がかかっている画像は消去されません。
  ☞「画像にプロテクトをかける」（P.114）

注　意

- 消去した画像は元に戻せません。

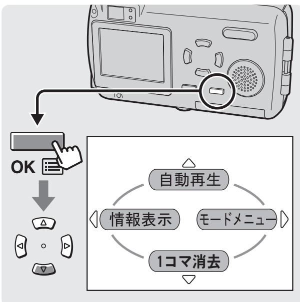
1 再生モードで消去したい画像を選びます。

☞「再生する」（P.96）

2 OKボタンを押します。

トップメニューが表示されます。

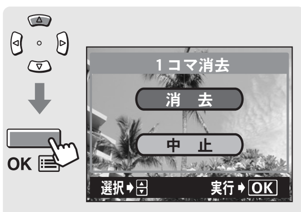
▽を押して、1コマ消去を選びます。



3 △を押して［消去］を選びます。

OKボタンを押します。

再生している画像が消去されます。



全コマ消去

すべての画像を消去します。

ヒント

- プロテクト（保護）がかかっている画像は消去されません。
  ☞「画像にプロテクトをかける」（P.114）

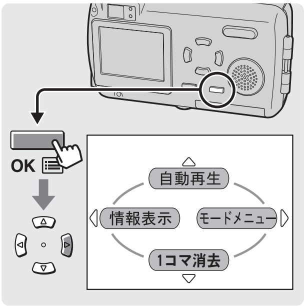
注　意

- 消去した画像は元に戻せません。

1 再生モードでOKボタンを押します。

トップメニューが表示されます。

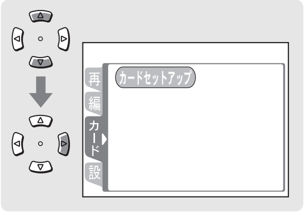
▷を押して、モードメニューに入ります。



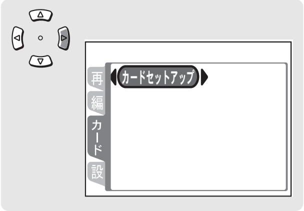
☞「再生する」（P.96）

2 △または▽を押して［カード］タブを選びます。

▷を押して、カードメニューに入ります。



3 ▷を押して［カードセットアップ］に入ります。

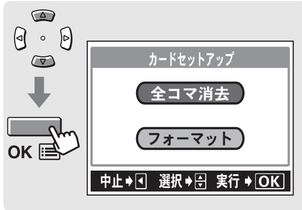


4
静止画の再生
画像の消去

次ページへつづく

全コマ消去

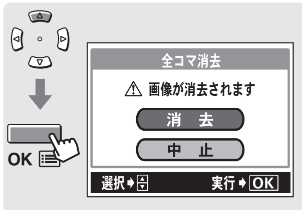
4 ▲または▼を押して［全コマ消去］を選び、OKボタンを押します。



5 ▲を押して［消去］を選びます。

OKボタンを押します。

すべての画像が消去されます。



4
静止画の再生

画像の消去

撮影する

このカメラでは静止画だけでなく、ムービー（動画）も撮影できます。ムービーを撮影するときは撮影モードをムービーに設定します。液晶モニタを見ながらムービー撮影をします。ムービーの撮影中は、被写体が動いても露出は常に正しく合います。
また、ムービー撮影すると、自動的に音声も録音されます。

1 レンズバリアを開けます。

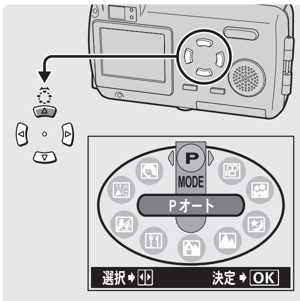
電源が入り、レンズが繰り出して液晶モニタが点灯し、撮影モードになります。

ヒント

- レンズが出てこないときは、レンズバリアが開ききっていません。
- 撮影モードから各種設定を変更することができます。☞P.122～126をご参照ください。

2 △を押します。

撮影モードを選ぶバーチャルダイヤル画面が表示されます。



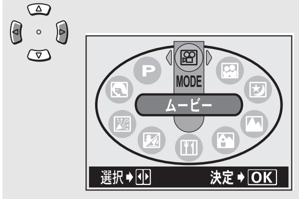
バーチャルダイヤル画面

3 ◁または▷を押して［ムービー］を選び、OKボタンを押します。

撮影モードが［ムービー］に設定されます。

ヒント

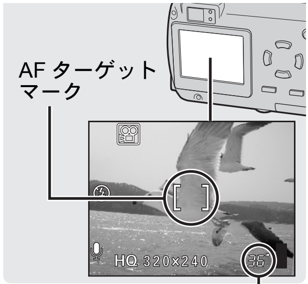
- OKボタンを押さなくても撮影モードは変更され、バーチャルダイヤル画面は約3秒後、自動的に消えます。



次ページへつづく

- 光学ズームはW側に固定され、使用できません。ズームをするにはデジタルズームをオンに設定してください。☞「デジタルズームを使う」（P.70）

4 液晶モニタを見ながら、AFターゲットマークを被写体に合わせます。



ヒント

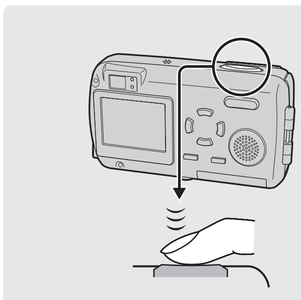
- 撮影可能秒数が液晶モニタに表示されます。

5 シャッターボタンを軽く押します。（半押し）

ピントとホワイトバランスが決まり、緑ランプが点灯します。



6 半押しの状態から、さらにシャッターボタンを押して、撮影を始めます。（全押し）



ヒント

- ムービー撮影中は 🎥 マークが点灯し、連続して記録できる撮影可能秒数が表示されます。

7 もう一度シャッターボタンを押して、撮影を終了します。

- 撮影可能秒数が0になると、自動的に撮影を終了します。
- 撮影したムービーを再生する場合は、☞「再生する（ムービープレイ）」（P.127）をご覧ください。

●メモリゲージについて

ムービー撮影を開始すると、メモリゲージが点灯します。メモリゲージの点灯中は撮影した画像をカードに記録しています。メモリゲージが点灯しているときは次の撮影はできません。しばらく待って、メモリゲージが完全に消灯してから次の撮影をしてください。
メモリーゲージがすべて点灯（右図の状態）すると、撮影が自動的に終了します。



メモリゲージ

8 レンズバリアを閉じると電源が切れます。

ヒント

- マイクやスピーカーに水滴がついた場合は、音声が一時的に劣化します。水滴が蒸発すれば元に戻ります。

デジタルズームを使う

ズームボタンを押して、撮影する範囲や構図を決めます。

注意

- 光学ズームはW側に固定され、使用できません。ズームするにはデジタルズームをオンに設定してください。

1 デジタルズームをオンに設定します。

「デジタルズームを使う」（P.70）

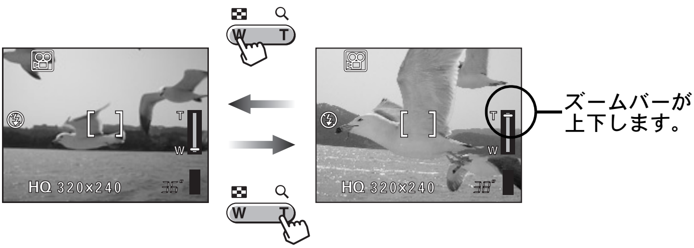
2 ズームボタンを押します。

ズームボタンのTを押すと、遠くのものが大きくなります。

ズームボタンのWを押すと、広い範囲を撮ることができます。

- ズームボタンを押している間、ズームの位置表示が表示されます。





注意

- デジタルズームの領域で撮影すると、画像が粗くなることがあります。
- 高倍率になるほど手ぶれが起こりやすくなります。手ぶれ防止のため、三脚を使うなどして、カメラを固定してください。
- 液晶モニタを消灯させるとデジタルズームは使用できなくなります。デジタルズームがオンに設定されている間は、再び液晶モニタを点灯させるとデジタルズームは使用できます。
- ピントはシャッターボタンを半押しのときの状態で固定されます。

画像のサイズを変える（画質モード）

2種類の画質モードがあります。画質モードにより連続撮影可能秒数が異なります。

●一度に連続して撮影できる秒数

画質モード	画像サイズ（コマ/秒）	連続撮影可能秒数
HQ	320 × 240（15コマ/秒）	20
SQ	160 × 120（15コマ/秒）	90

●カードに記録できる撮影秒数の合計

カード容量＼画質モード	HQ	SQ
16MB	約 54秒	約 190秒
32MB	約 110秒	約 380秒
64MB	約 220秒	約 770秒
128MB	約 440秒	約 1500秒
256MB	約 870秒	約 3100秒
512MB	約 1700秒	約 6200秒

注 意

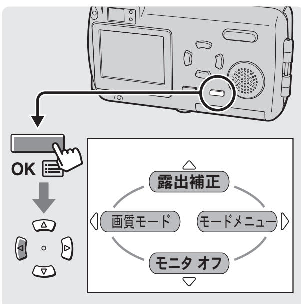
- 撮影可能秒数はおおよその目安です。

1

撮影モードを［ムービー］に設定し、OKボタンを押します。

トップメニューが表示されます。

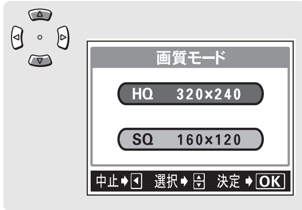
◁を押して、画質モードを選びます。



次ページへつづく

2

△または▽を押して[HQ] [SQ]から選びます。



3

OKボタンを押します。



選んだ画質モードと撮影時間が表示されます。

撮影場所の明かりに適した設定をする（ホワイトバランス）

撮影場所の明かりに応じてホワイトバランスの設定を変えます。

☞ ホワイトバランスの設定方法は、静止画撮影時と同じです。（P.77）

明るい／暗い被写体に適した設定をする（露出補正）

被写体が非常に明るかったり、暗かったりする場合や、被写体と背景の明るさの差が非常に大きい場合は露出補正をすることで明るさの調整ができます。

☞ 露出補正の設定方法は、静止画撮影時と同じです。（P.79）

被写体と背景の明るさが異なるとき（スポット測光）

逆光のときは、人物の顔などが暗く写ることがあります。この場合、スポット測光を使用すると、背景の明るさに影響されることなく撮影できます。

☞ スポット測光の設定方法は、静止画撮影時と同じです。（P.80）

近くのものを撮る（マクロ撮影）

被写体に近づいて撮影するときに使います。

☞ マクロの設定方法は、静止画撮影時と同じです。（P.82）

セルフタイマーを使って撮る

セルフタイマーをオンにしてシャッターボタンを押すと、約 12 秒後に撮影がスタートします。再度シャッターボタンを押して撮影を終了します。

☞ セルフタイマーの設定方法は、静止画撮影時と同じです。（P.85）

リモコン（別売）を使って撮る

別売のリモコンが使えます。リモコンのスイッチを押すと約 2 秒後に撮影がスタートします。再度シャッターボタンを押して撮影を終了します。

☞ リモコンの設定方法は、静止画撮影時と同じです。（P.86）

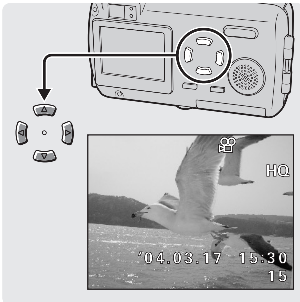
再生する（ムービープレイ）

ムービーをカメラの液晶モニタで再生して楽しむことができます。
再生モードにすると、最後に撮影した画像が液晶モニタに表示されます。マークの付いた画像を選んで再生します。

1

再生モードでマークの付いた画像をを押して選びます。

「再生する」（P.96）

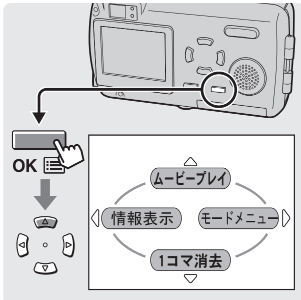


2

OKボタンを押します。

トップメニューが表示されます。

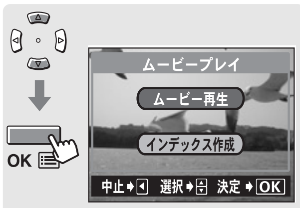
を押して、ムービープレイを選びます。



3

またはを押して［ムービー再生］を選び、OKボタンを押します。

ムービーが再生されます。



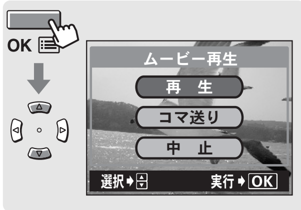
ヒント

- 再生秒数が液晶モニタに表示されます。
- ムービーを再生するまでの時間は、ムービーの記録時間や画質モードによって異なります。

次ページへつづく

4

再生終了後に、再びOKボタンを押すとムービー再生メニューが表示されます。



または を押して［再生］［コマ送り］［中止］から選び、OKボタンを押します。

再生	もう一度再生します。
コマ送り	コマ送りをします。☞「コマ送りで再生する」手順2（P.128）
中止	再生を中止します。

コマ送りで再生する

ムービーを1コマずつ表示します。巻き戻し再生をすることもできます。

ヒント

- コマ送りの再生時は、音声は出ません。

1

「再生する」（P.127）の手順1〜4にしたがって、ムービー再生メニューを表示します。

2

十字ボタンを操作して、コマ送りします。



:ムービーの先頭のコマを表示します。
:ムービーの末尾のコマを表示します。
:　ムービーのコマが進みます。押し続けると再生します。
:　ムービーのコマが戻ります。押し続けると逆再生します。

3 コマ送りを終了するときは、OKボタンを押します。



ムービー再生メニューが表示されます。手順4に戻ります。☞P.128

テレビで再生する

撮影した画像をテレビで楽しむことができます。テレビで再生するには、付属の A/V ケーブルでカメラとテレビを接続し、「再生する」（P.127）の手順にしたがってムービーを再生します。

☞ 操作の手順は、静止画再生時と同じです。（P.104）

画像の情報量を切り替える（情報表示）

撮影時の画像情報を表示する量を切り替えます。

☞ 操作の手順は、静止画再生時と同じです。（P.107）

ムービーの消去

デジタルカメラは不要なムービーをすぐに消去することができます。

1 コマ消去

ムービーを消去します。

☞1 コマ消去の手順は、静止画再生時と同じです。（P.116）

全コマ消去

カードに記録されているすべての画像を消去します。ムービーだけでなく静止画も同時に消去されます。

☞ 全コマ消去の手順は、静止画再生時と同じです。（P.117）

インデックスを作成する

撮影したムービーから静止画（インデックス）が作成できます。また、プロテクト（保護）をかけることもできます。

撮影したムービーの内容が一目でわかるように自動的に9コマを選び、静止画（インデックス）として保存します。

1

マークの付いた画像を再生します。

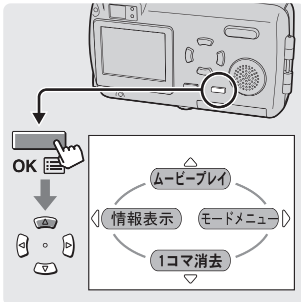
「再生する」（P.96）

2

OKボタンを押します。

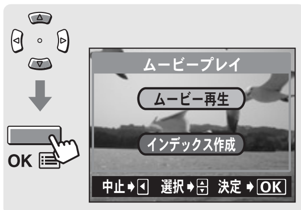
トップメニューが表示されます。

を押して、ムービープレイを選びます。



3

または を押して［インデックス作成］を選び、OKボタンを押します。



4

（▲）または（▼）を押して［新規作成］を選び、OKボタンを押します。



ヒント

- インデックス作成された画像は、ムービー撮影時の画質とは異なる静止画として保存されます。

ムービー撮影時の画質モード	インデックス画像の画質
HQ	SQ2（1024 × 768ピクセル）
SQ	SQ2（640 × 480ピクセル）

注　意

- ムービーの記録時間により、自動的に抜き出される画像の間隔は異なります。

ムービーにプロテクトをかける

大切なムービーを誤って消去しないように、プロテクト（保護）をかけることができます。1コマ消去や全コマ消去の操作をしても、プロテクトされたムービーは消去されません。

☞ プロテクトの設定方法は、静止画と同じです。（P.114）

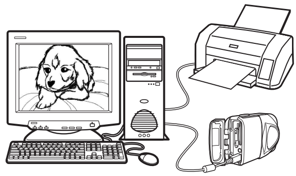
プリント方法を選ぶ

カメラで撮影した画像をプリントするには、以下の方法があります。

パソコンを使ってプリントする

➔ パソコンに接続しているプリンタでプリントします。

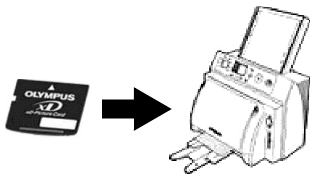
- カードの画像をパソコンに取り込み、プリントすることができます。CAMEDIA Masterを使うと、簡単にプリントできます。
  ☞「インストールする」(P.176)
  ☞「プリントする」(P.200)



パソコンを使わないでプリントする

➔ 専用プリンタでプリントします。

- カードを直接プリンタに差し込んで、または専用のカードアダプタ（別売）を使用して、プリントすることができます。
  ☞ 詳しくは、プリンタの説明書をご覧ください。

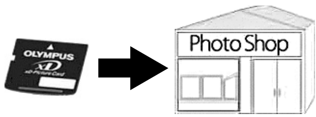


➔ ダイレクトプリントします。

- カメラをPictBridge対応プリンタにUSBケーブルで接続して、撮影した画像を直接プリントします。
  ☞「PictBridge対応プリンタでプリントする」(P.141)

➔ カメラ店のプリントサービスを利用します。

- カードの中の画像をカメラ店でプリントしてもらうことができます。あらかじめカメラでプリント予約をすると、予約内容のとおりにプリントできます。
  ☞「プリント予約（DPOF）をする」(P.134)



DPOF を使用せずにプリントサービスを利用される方へ

写真店などのプリントサービスをご利用になる場合は、プリントする画像は必ずファイル番号で指定してください。コマ番号で指定すると間違った画像がプリントされる場合があります。
ファイル番号は情報表示をオンにしたときに表示されます。☞「画像の情報量を切り替える」(P.107)
（例） FILE: 100-0016

100：フォルダの通し番号　0016：画像の通し番号

プリント予約（DPOF）をする

プリント予約とは、プリントする画像や枚数などを指定し、カードに予約内容を記憶させることです。プリント予約したカードを DPOF 対応の写真店に持っていくと、予約内容のとおりにプリントができます。ご家庭でも DPOF 対応のプリンタがあればプリントできます。

予約方法は、すべての画像を予約する［全コマ予約］と、画像を1枚ずつ選びながら予約する［1 コマ予約］があります。

☞「全コマ予約する」（P.134）
☞「1コマ予約する」（P.136）

DPOF とは？

Digital Print Order Format の略称。デジタルカメラで撮影した画像の中からプリントする画像や枚数、日時の情報を記録する形式です。DPOF 形式でプリント予約した内容はカードに保存されます。

注　意

- プリント予約できる枚数は、1枚のカードにつき999コマまでです。
- プリント予約は、カードに予約を記録するときに時間がかかることがあります。
- 他の DPOF 機器で設定された DPOF 予約内容をこのカメラで変更することはできません。予約した機器で変更してください。
- 他の機器でDPOF予約されているファイルがある場合、このカメラで新たにDPOF予約を行うと、以前に予約した内容は消去されます。

全コマ予約する

すべての画像をプリント予約します。撮影日または撮影時刻をプリント指定することができます。予約枚数は各 1 枚です。枚数を変更する場合は 1 コマ予約をしてください。

ヒント

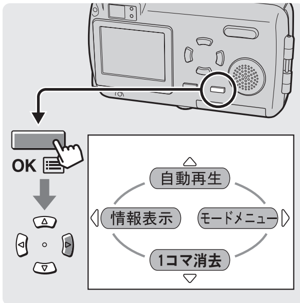
- 🎥（ムービー）マークのついた画像はプリント予約できません。

1

▶ボタンを押して、OKボタンを押します。

トップメニューが表示されます。

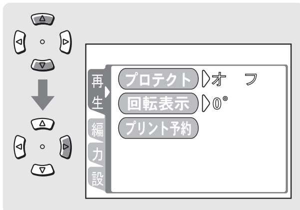
▷を押して、モードメニューに入ります。



2

△または▽を押して［再生］タブを選びます。

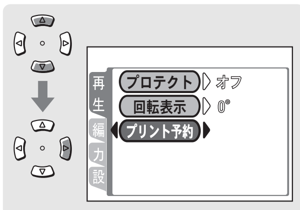
▷を押して、再生メニューに入ります。



3

△または▽を押して［プリント予約］を選びます。

▷を押して、プリント予約の設定に入ります。



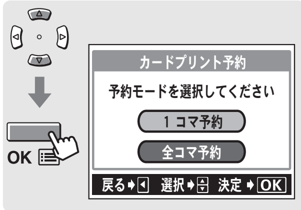
ヒント

- すでにプリント予約がされていると、予約を解除するか確認する画面が表示されます。

次ページへつづく

4

▲または▼を押して［全コマ予約］を選び、OKボタンを押します。



5

▲または▼を押して、日時をプリントするか選び、OKボタンを押します。

無し：画像のみプリントされます。
日付：画像に撮影年月日がプリントされます。
時刻：画像に撮影時刻がプリントされます。

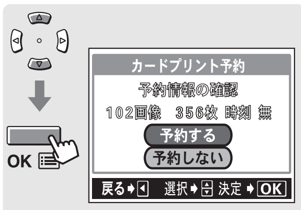


6

▲または▼を押して［予約する］を選び、OKボタンを押します。

予約内容がカードに保存されます。

もう一度、OKボタンを押すとメニューが終了します。



1コマ予約する

画像を1枚ずつ選びながら予約します。プリントする枚数を指定することができます。また、すでに予約した内容を変更することができます。

ヒント

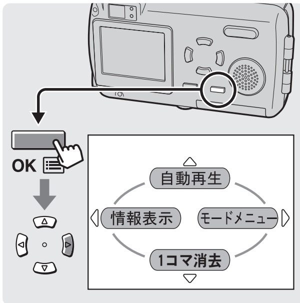
- （ムービー）マークのついた画像はプリントできません。

1

▶ボタンを押して、OKボタンを押します。

トップメニューが表示されます。

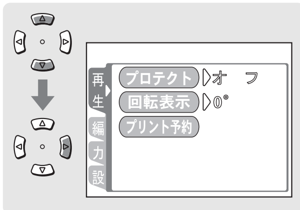
▷を押して、モードメニューに入ります。



2

△または▽を押して［再生］タブを選びます。

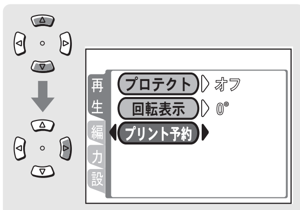
▷を押して、再生メニューに入ります。



3

△または▽を押して［プリント予約］を選びます。

▷を押して、プリント予約の設定に入ります。



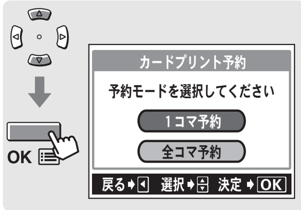
ヒント

- すでにプリント予約がされていると、予約を解除するか確認する画面が表示されます。

次ページへつづく

4

△または▽を押して［1コマ予約］を選び、OKボタンを押します。



5

◁または▷を押してプリント指定する画像を選びます。

△または▽を押して、プリントする枚数を選びます。



ヒント

- 最大10枚まで予約できます。0枚の設定ではプリント予約されません。

6

OKボタンを押します。



7

△または▽を押して、日時をプリントするか選び、OKボタンを押します。



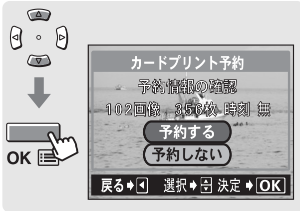
無し：画像のみプリントされます。
日付：画像に撮影年月日がプリントされます。
時刻：画像に撮影時刻がプリントされます。

8

またはを押して［予約する］を選び、OKボタンを押します。

予約内容がカードに保存されます。

もう一度、OKボタンを押すとメニューが終了します。



プリント予約を取り消す

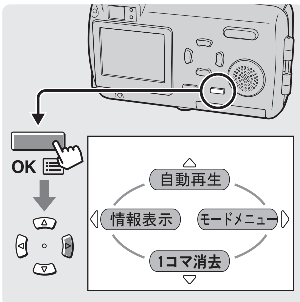
カード内に記録されているすべてのプリント予約情報を取り消します。

1

ボタンを押して、OKボタンを押します。

トップメニューが表示されます。

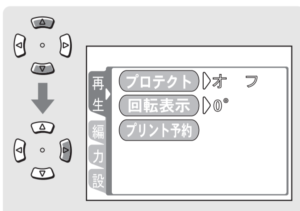
を押して、モードメニューに入ります。



2

またはを押して［再生］タブを選びます。

を押して、再生メニューに入ります。

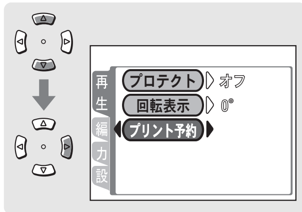


次ページへつづく

3

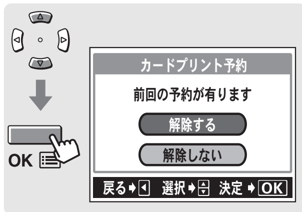
△または▽を押して［プリント予約］を選びます。

▷を押して、プリント予約の設定に入ります。



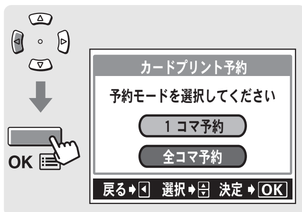
4

△または▽を押して［解除する］を選び、OKボタンを押します。



5

◁を押して予約から抜けて、OKボタンを押してメニューを終了します。



PictBridge対応プリンタでプリントする

ダイレクトプリントについて

カメラをPictBridge対応プリンタにUSBケーブルで接続して、撮影した画像を直接プリントすることができます。プリントする画像の選択やプリント枚数の設定は、カメラとプリンタを接続した状態で、カメラの液晶モニタを見ながら操作します。また、プリント予約の設定内容を使って、プリントすることもできます。
☞「プリント予約（DPOF）をする」（P.134）

お使いのプリンタがPictBridgeに対応しているかどうかは、プリンタの取扱説明書でお確かめください。

PictBridgeとは…異なるメーカーのプリンタとデジタルカメラを接続し、画像を直接プリントすることを目的とした規格です。

標準設定とは…PictBridge対応プリンタには､それぞれプリント条件の標準設定があります。各設定画面（P.144～152）で［凸 標準設定］を選択すると、この設定にしたがってプリントされます。標準設定の内容については、お使いのプリンタの取扱説明書をご覧になるか、プリンタメーカーにおたずねください。

ヒント

- プリントできる用紙の種類、用紙やインクカセットの取り付け方については、お使いのプリンタの説明書をご覧ください。

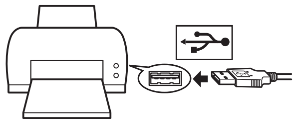
注　意

- 電源には別売のACアダプタのご使用をおすすめします。電池をご使用の場合は、十分に充電された電池をお使いください。プリンタと通信中にカメラが動作を停止すると、プリンタが誤動作したり、画像データを壊すことがあります。
- ムービーはプリントできません。
- USBケーブルを取り付けているときは、カメラはスリープモード（待機状態）になりません。

カメラをプリンタに接続する

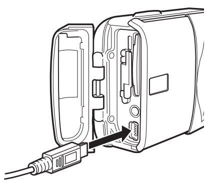
付属のUSBケーブルで、カメラをPictBridge対応プリンタに接続します。

1 プリンタの電源を入れて、プリンタのUSBポートに、カメラに付属の専用USBケーブルのプリンタ接続側のプラグを差し込みます。



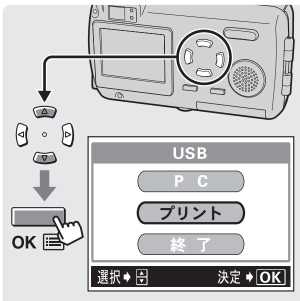
- プリンタの電源の入れ方およびUSB端子の位置は、お使いのプリンタの説明書でご確認ください。

2 専用USBケーブルをカメラのUSB端子に差し込みます。



- 自動的にカメラの電源が入ります。
- カメラの液晶モニタが点灯し、USBケーブルの接続先の選択画面が表示されます。

3 △または▽を押して［プリント］を選択し、OKボタンを押します。



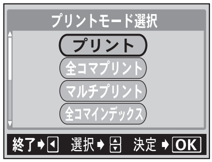
- 「しばらくお待ちください」と表示された後カメラとプリンタが接続され、カメラの液晶モニタにプリントモード選択画面が表示されます。プリントの設定はカメラの液晶モニタを見ながら操作します。☞「プリントする」（P.143）に進みます。

注 意

- 誤ってPCを選択したときは、手順1からやり直してください。
- PictBridge非対応プリンタでもプリント可能な機種があります。プリンタメーカーにお問い合わせください。

プリントする

カメラが正しく PictBridge 対応プリンタに接続されると、カメラの液晶モニタにプリントモード選択画面が表示されます。この画面でプリントモードを選択して、プリントします。選択できるプリントモードは、以下のとおりです。



プリント　選択した画像をプリントします。
☞「プリントモード／マルチプリントモード」(P.144)

全コマプリント　カードの中の全画像をプリントします。
☞「全コマプリントモード」(P.148)

マルチプリント *　1枚の用紙に同じ画像を複数レイアウトして、プリントします。
☞「プリントモード／マルチプリントモード」(P.144)

全コマインデックス *　カードの中の全画像を一覧にして、インデックス形式でプリントします。
☞「全コマインデックスモード／予約プリントモード」(P.151)

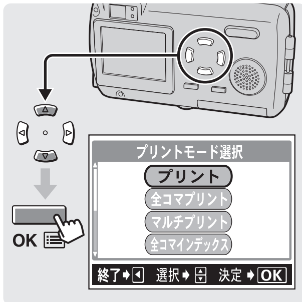
予約プリント *　プリント予約（DPOF）の内容にしたがってプリントします。あらかじめプリント予約（P.134）された画像が無いときは、選択できません。
☞「全コマインデックスモード／予約プリントモード」(P.151)

* プリントモードや各設定について
使用するプリントモード、用紙サイズなど種々の設定項目は、お使いのプリンタによって選択できる項目が異なる場合があります。詳しくはプリンタの説明書をご覧ください。

プリントモード／マルチプリントモード

1 プリントモード選択画面で、△または▽を押して［プリント］、または［マルチプリント］を選択し、OKボタンを押します。

- プリント用紙設定画面が表示されます。



2 △または▽を押して用紙サイズを選択し、▷を押します。

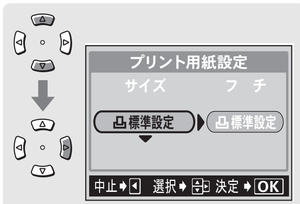
プリントモードの場合

→手順3へ進みます。

マルチプリントモードの場合

→手順4へ進みます。

- 用紙サイズの設定値は、お使いのプリンタによって異なります。
- プリント用紙設定画面が表示されないときは、サイズとフチまたは分割数の設定は標準設定になります。→手順5へ進みます。

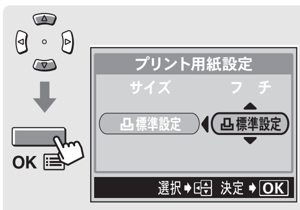


プリントモードの画面

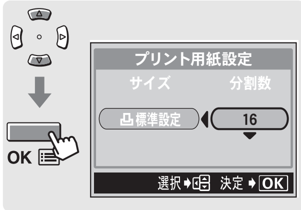
3 △または▽を押してフチの有無を選択し、OKボタンを押します。→手順5へ進みます。

有り（□） 用紙の周辺に余白を付けてプリントします。

無し（□） 用紙いっぱいにプリントします。



4 △または▽を押して分割数を選択し、OKボタンを押します。



- 設定可能な分割数は、手順2で選択した用紙サイズやプリンタの種類によって異なります。

5 ◁または▷を押してプリントする画像を選択します。



- ズームボタンのW側を押すと、インデックス表示されます。インデックスから画像を選択することもできます。

6 予約方法を選択します。

1枚予約　選択している画像を標準設定で予約します。プリント枚数は1枚です。

詳細予約　選択している画像のプリント枚数を設定してプリント予約します。日付やファイル名の付加などの設定もできます。

1枚予約する

△を押します。

- 凸が表示されている画像のときに△を押すと、予約が解除されます。

予約マークが表示されます。



7 プリントする

次ページへつづく

詳細予約する

① ▽を押します。
- プリント情報設定画面が表示されます。

② △または▽を押して設定したい項目を選択し、▷を押します。
- △または▽を押して設定を変更し、OKボタンを押します。
- 設定可能な項目は、お使いのプリンタによって異なります。プリンタが対応していない項目は選択できません。



プリント枚数	プリント枚数を設定します。枚数は10枚まで設定できます。
日付（◷）	［有り］を選択すると、画像に日付がプリントされます。
ファイル名（FILE）	［有り］を選択すると、画像にファイル名がプリントされます。

- マルチプリントモードでは、［日付］［ファイル名］の設定はできません。

③ 詳細予約の設定が終了したら、OKボタンを押します。
- 手順5の画面に戻ります。
- 複数の画像をまとめてプリントまたはマルチプリントするときは、手順5と手順6の「1枚予約」と「詳細予約」を繰り返して、プリントする画像をすべて選択します。
- マルチプリントモードでは、▦が表示されます。



7 OKボタンを押します。

- プリント画面が表示されます。



8 プリントします。

- [▲]または[▼]を押して［プリント］［中止］から選択し、OKボタンを押します。

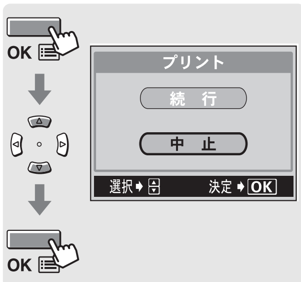
プリント プリントを開始します。
中止 設定した内容が取り消され、プリントモード選択画面に戻ります。

- プリントが終了すると、プリントモード選択画面に戻ります。
☞「ダイレクトプリントを終了する」（P.153）



プリントを途中で中止するには

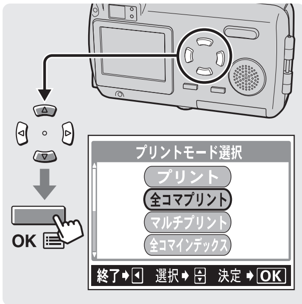
プリンタへデータを転送中に OK ボタンを押すと、プリント続行、または中止の選択画面が表示されます。プリントを中止するには、[▲]または[▼]を押して［中止］を選択し、OK ボタンを押します。



7 プリントする

全コマプリントモード

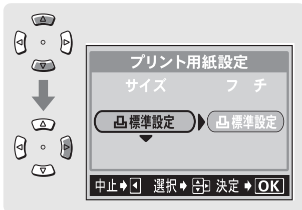
1 プリントモード選択画面で、△または▽を押して［全コマプリント］を選択し、OKボタンを押します。



- プリント用紙設定画面が表示されます。

2 △または▽を押して用紙サイズを選択し、▷を押します。

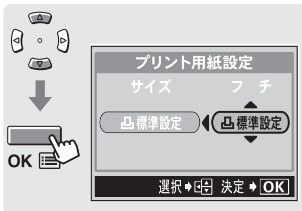
- 用紙サイズの設定値は、お使いのプリンタによって異なります。
- プリント用紙設定画面が表示されないときは、サイズとフチの設定は標準設定になります。→手順4に進みます。



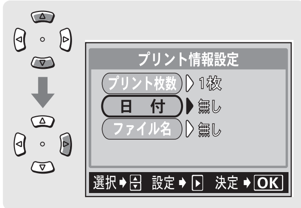
3 △または▽を押してフチの有無を選択し、OKボタンを押します。

有り（□） 用紙の周辺に余白を付けてプリントします。
無し（□） 用紙いっぱいにプリントします。

- プリント情報設定画面が表示されます。



4 △または▽を押して設定したい項目を選択し、▷を押します。



- △または▽を押して設定を変更し、OKボタンを押します。
- プリント情報設定ができないプリンタの場合は、手順6に進みます。
- 設定可能な項目は、お使いのプリンタによって異なります。プリンタが対応していない項目は選択できません。
- プリント枚数は各1枚です。

日付（◷）　［有り］を選択すると、画像に日付が付加されてプリントされます。

ファイル名（FILE）　［有り］を選択すると、画像にファイル名が付加されてプリントされます。

5 OKボタンを押します。



プリント画面が表示されます。

6 プリントします。



データ転送中の画面

- △または▽を押して［プリント］［中止］から選択し、OKボタンを押します。

プリント　プリントを開始します。

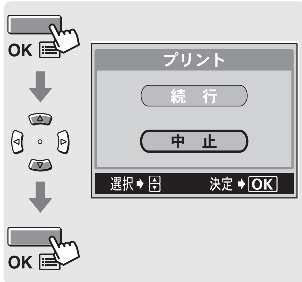
中止　設定した内容が取り消され、プリントモード選択画面に戻ります。

プリントが終了すると、プリントモード選択画面に戻ります。

☞「ダイレクトプリントを終了する」（P.153）

プリントを途中で中止するには

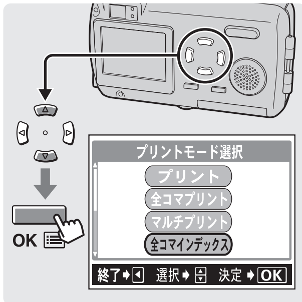
プリンタへデータの転送中に OK ボタンを押すと、プリント続行、または中止の選択画面が表示されます。プリントを中止するには、△または▽を押して［中止］を選択し、OK ボタンを押します。



全コマインデックスモード／予約プリントモード

1

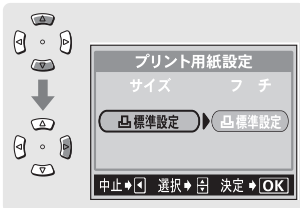
プリントモード選択画面で、▲または▼を押して［全コマインデックス］、または［予約プリント］を選択し、OKボタンを押します。



- プリント用紙設定画面が表示されます。

2

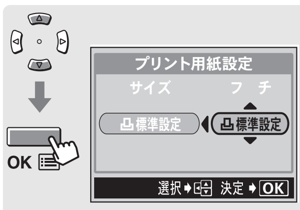
▲または▼を押して用紙サイズを選択し、▶を押します。



用紙サイズの設定値は、お使いのプリンタによって異なります。
使用しているプリンタによっては、用紙サイズおよびフチの選択はできません。
プリント用紙設定画面が表示されないときは、サイズとフチの設定は標準設定（プリンタ初期設定）になります。→手順4に進みます。

3

▲または▼を押してフチの有無を選択し、OKボタンを押します。



有り（▣） 用紙の周辺に余白を付けてプリントします。
無し（□） 用紙いっぱいにプリントします。

- プリント画面が表示されます。
- 全コマインデックスモードでは、フチの選択はありません。
  →手順4に進みます。

次ページへつづく

4 プリントします。



データ転送中の画面

- ⊖または⊖を押して［プリント］［中止］から選択し、OKボタンを押します。

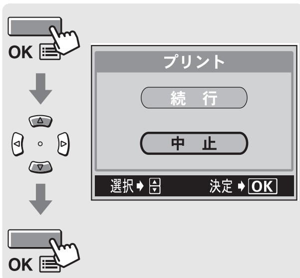
プリント　プリントを開始します。
中止　設定した内容が取り消され、プリントモード選択画面に戻ります。

- プリントが終了すると、プリントモード選択画面に戻ります。
☞「ダイレクトプリントを終了する」（P.153）

プリントを途中で中止するには

プリンタへデータの転送中に OK ボタンを押すと、プリント続行、または中止の選択画面が表示されます。

プリントを中止するには、⊖または⊖を押して［中止］を選択し、OK ボタンを押します。



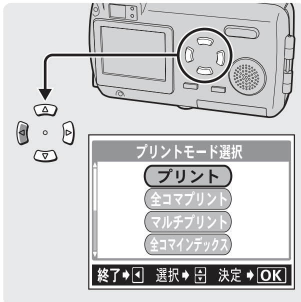
注　意

- 全コマインデックスプリントでは、分割数などの設定はプリンタによって自動的に決められます。
- インデックスの機能に対応していないプリンタでは、全コマインデックスプリントはできません。
- DPOF に対応していないプリンタでは、予約プリントはできません。

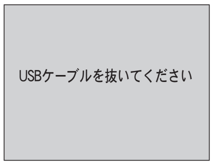
ダイレクトプリントを終了する

プリントが終了したら、カメラをプリンタから取り外します。

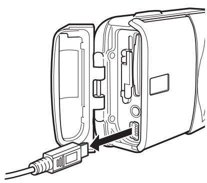
1 プリントモード選択画面で、◁を押します。



- メッセージが表示されます。

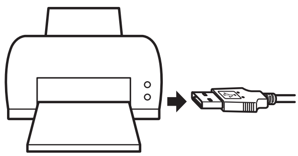


2 カメラからUSBケーブルを抜きます。



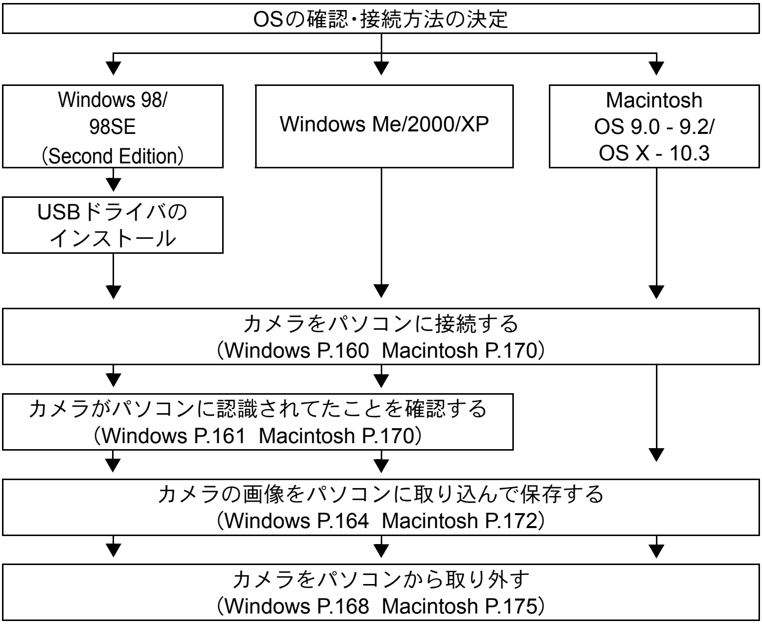
- カメラの電源が切れます。

3 プリンタからUSBケーブルを抜きます。



操作の流れ

付属のUSBケーブルでカメラとパソコンを接続し、カメラのカードに保存されている画像をパソコンに取り込むことができます。お使いのパソコンのOSによっては、初めて接続する前にはパソコンの設定が必要になります。以下の手順にしたがって進めてください。



注 意

以下のOS、仕様についてはUSB端子を装備していても正常な動作の保証はできません。

- Windows 95/NT 4.0
- Windows 95からアップグレードしたWindows 98/98SE
- Macintosh OS 8.6以下のバージョン
  (ただし、出荷時にUSB端子、USB MASS Storage Support 1.3.5を装備したMacintosh OS 8.6は動作確認がされています。)
- 拡張カードなどでUSB端子を増設したパソコン
- 出荷時にOSがインストールされていないパソコンおよび自作パソコン

注　意

- カメラをパソコンに接続して使用するときは電池の残量が十分にあることをご確認ください。パソコンとの接続中（通信中）は、カメラの電池は常時通電（消耗）しますので、電池の残量にご注意ください。電池の残量がなくなると、カメラは途中で動作を停止します。カメラが動作を停止すると、パソコンが誤動作したり、パソコンとカメラの通信中の場合は画像データ（ファイル）を壊すことがあります。長時間の接続にはご注意ください。パソコンとの通信時には、ACアダプタ（別売）のご使用をおすすめします。
- 電池でカメラを動作させてパソコンと接続しているとき、ACアダプタを抜き差しするとカード内の画像データが破壊されたり、パソコンが誤動作することがあります。ACアダプタの抜き差しはパソコンとカメラの接続を外しカメラの電源が切れていることを確認したうえで行ってください。
- USB ハブを経由してカメラを接続すると、動作が不安定になることがあります。万一異常が起きた場合は、ハブを使用しないでパソコンとカメラを直接接続してください。
- 画像処理は、必ずパソコンにコピーしてから行ってください。ソフトウェアによってはファイル（画像）がカードの中にある状態で画像処理（画像の回転など）を行うと、ファイルが壊れる可能性があります。

ヒント

- パソコンに読み込んだ画像は、CAMEDIA MasterやPaint Shop Pro、Photoshopなどのグラフィックソフトやインターネット閲覧ソフト（Netscape Communicator／Microsoft Internet Explorerなど）のJPEGを扱えるアプリケーションソフトウェアでも見ることができます。市販の画像処理ソフトの使用方法については、対応ソフトの説明書を参照してください。
- パソコンでムービーを再生するには、QuickTimeがインストールされている必要があります。QuickTimeは付属のCD-ROMに収録されています。

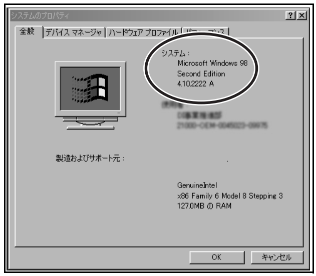
OSの確認

カメラの画像をパソコンに取り込む方法を決めるため、お使いのパソコンのシステムを確認します。

Windows の場合

1 デスクトップの「マイコンピュータ」を右クリックして「プロパティ」を選びます。
WindowsXPの場合は、スタートメニューの「マイコンピュータ」を右クリックして、「プロパティ」を選びます。

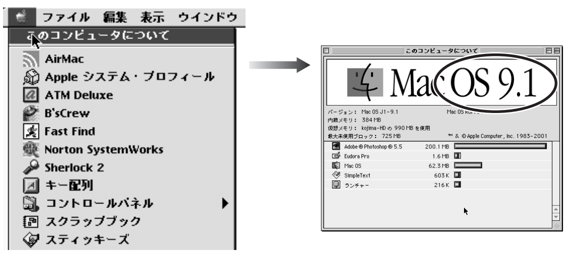
2 お使いのシステム（OS）を確認します。



Macintosh の場合

1 メニューバー上のアップルメニューから「このコンピュータについて」を選びます。

2 お使いのシステム（OS）を確認します。



接続方法の決定

接続方法は、以下の 3 種類から選びます。

1. 付属の USB ケーブルを使って、カメラをパソコンに接続する。
   ☞ 「Windows の場合」（P.160）、「Macintosh の場合」（P.170）

2. 別売の PC カードアダプタ（MAPC-10 など）をパソコンに差し込んで使う。
   ☞ 詳しくは、PC カードアダプタの説明書をご覧ください。

3. 別売の USB リーダライタ（MAUSB-10 など）をパソコンにつなげて使う。
   ☞ 詳しくは、USB リーダライタの説明書をご覧ください。

	1 USBケーブル	2 PCカードアダプタ （別売）	3 USBリーダライタ （別売）
Windows Me/2000/XP	○	○	○
Windows 98/98SE	○	○	○
Windows NT4.0	×	×	×
Windows 95	×	○	×
Macintosh 9.0-9.2、10.3	○	○	○
Macintosh 8.6以下	×	○	○

ヒント

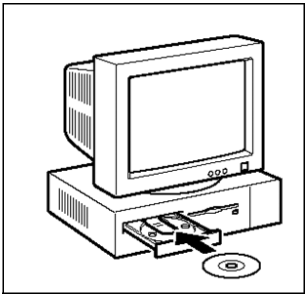
- PCカードアダプタ（別売）とUSBリーダライタ（別売）の詳しい情報については、ホームページでご覧ください。☞http://www.olympus.co.jp/

USBドライバのインストール（Windows98/98SEのみ）

Windows98/98SEの場合は、初めてパソコンとカメラを接続するときに、USBドライバをインストールする必要があります。
以下の手順にしたがって、インストールしてください。正しくインストールできたら、2回目の接続からこの操作は必要ありません。

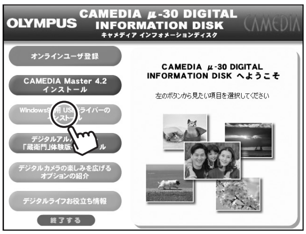
1

カメラに付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブに入れます。



2

「Windows 98用USBドライバーのインストール」ボタンをクリックします。



ヒント

この画面が自動表示されない場合は次の操作を行ってください。

1. デスクトップの「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックします。
2. CD-ROMアイコンを右クリックし、「開く」をクリックします。

3

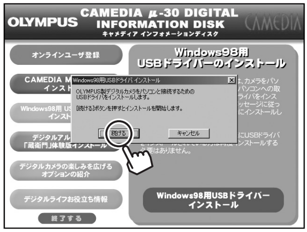
画面右下の「Windows 98用USBドライバーインストール」ボタンをクリックします。



4

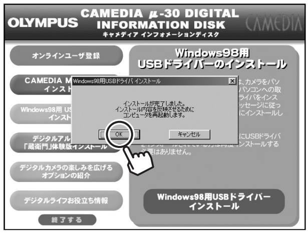
「続ける」ボタンをクリックします。

ドライバのインストールが始まります。



5

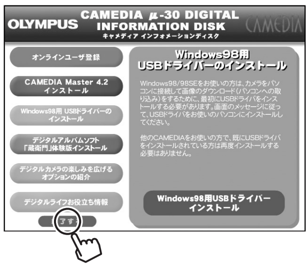
インストールが終了すると右の画面が表示されます。「OK」ボタンをクリックしてパソコンを再起動します。



6

パソコンが再起動後、インフォメーションディスクのメニュー画面が表示されていたら「終了する」をクリックし、CD-ROMドライブからCDを取り出してください。

以上でWindows 98用USBドライバのインストールは完了です。



カメラをパソコンに接続する

付属の USB ケーブルを使って、カメラをパソコンに接続します。
Windows98/98SE の場合は、接続の前に USB ドライバのインストールが必要です。☞「USB ドライバのインストール」(P.158)

1

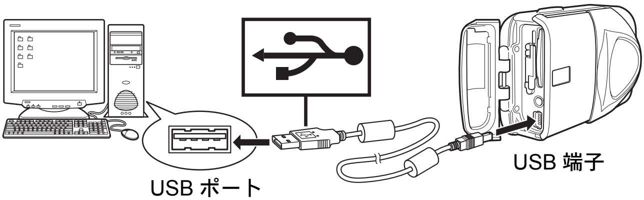
パソコンの電源を入れます。

カメラの電源が切れている（レンズバリアが閉じている、液晶モニタが消灯している）ことを確認します。

2

USBケーブルのプラグを、パソコンのUSBポートに差し込みます。
USBケーブルのもう一方をカメラのUSB端子に差し込みます。

カメラの電源が自動的に入り、ファインダ横の緑ランプが点灯します。

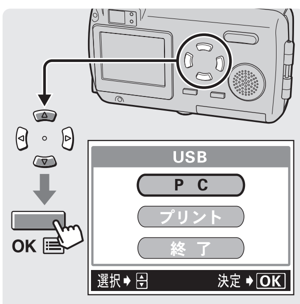


ヒント

- 初回のみパソコンが自動的にこのカメラを認識する処理を行いますので、処理が終わるまでお待ちください。

3

△または▽を押して［PC］を選択し、OKボタンを押します。



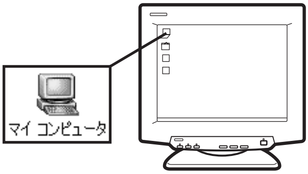
カメラがパソコンに認識されたことを確認する

パソコン上で、カメラが認識されていることを確認します。

Windows 98/98SE/Me/2000 の場合

1

パソコンのデスクトップの「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックします。

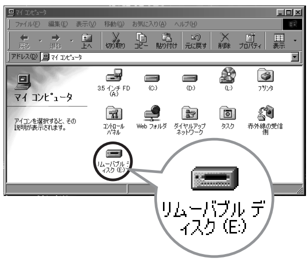


ヒント

- カメラが正しく認識されると「リムーバブルディスク」アイコンが表示されます。

2

「リムーバブルディスク」アイコンをダブルクリックします。



ヒント

- リムーバブルディスク（E:）のEは、パソコンの環境によって異なります。
- 「リムーバブルディスク」アイコンが無い場合や「準備ができていません」などのメッセージが表示された場合は、次のような問題が考えられます。
  ①カメラの電源（ACアダプタの接続状態、電池の残量）に問題がある。
  →ACアダプタの接続状態、電池の残量をご確認ください。
  ②カメラにカードが入っていない。または、カードに問題がある。
  →画像が、カメラの液晶モニタで再生できるかご確認ください。
  この操作を行うには、カメラをパソコンから取り外す必要があります。
  ③カメラとパソコンの接続に問題がある。
  →USBケーブルの接続状態をご確認ください。
- 上記の方法で解決しない場合は、☞「カメラがパソコンに認識されないときは」（P.211）をご覧ください。

次ページへつづく

3 「DCIM」フォルダがあることを確認してください。

以上でカメラが認識されました。パソコン上でファイル操作ができます。



ヒント

- カメラに撮影した画像がある場合は「DCIM」–「100OLYMP」の順にダブルクリックすると、画像ファイルが表示されます。☞「カメラのファイル構成について」（P.166）

Windows XP の場合

カメラを認識すると、画像ファイルの操作を選択する画面が表示されます。

ヒント

- 画面が表示されないときは、タスクバーの［スタート］–［マイコンピュータ］の順にクリックし、「リムーバブルディスク」アイコンをダブルクリックします。☞手順2へ進みます。

1 「フォルダを開いてファイルを表示する」を選んで「OK」をクリックします。



2 「DCIM」フォルダが表示されることを確認してください。

以上でカメラが認識されました。パソコン上でファイル操作ができます。

ヒント

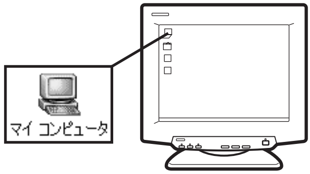
- カメラに撮影した画像がある場合は「DCIM」–「100OLYMP」の順にダブルクリックすると、画像ファイルが表示されます。☞「カメラのファイル構成について」（P.166）

カメラの画像をパソコンに取り込んで保存する

1

パソコンのデスクトップの「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックします。

Windows XP をお使いの場合は「スタートメニュー」の中にあります。



Windowsをお使いの場合、ファイルをパソコンに保存する方法はいくつかあります。その他の方法については、お使いのパソコンの説明書をご覧ください。

2

「リムーバブルディスク」アイコンをダブルクリックします。

カメラが正しく認識されていればカメラは「リムーバブルディスク」としてアイコンが表示されています。



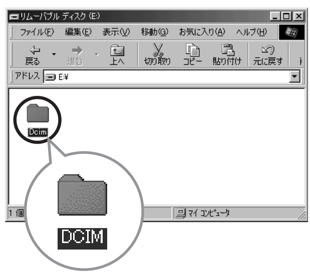
ヒント

- 「リムーバブルディスク」アイコンをダブルクリックした後、「準備ができていません」などのメッセージが表示された場合は、次のような問題が考えられます。
  ①カメラの電源（ACアダプタの接続状態、電池の残量）に問題がある。
  　ACアダプタの接続状態、電池の残量をご確認ください。
  ②カメラにカードが入っていない。または、カードに問題がある。
  　カードの画像が、カメラの液晶モニタで表示できることをご確認ください。
  　この操作を行うには、カメラをパソコンから取り外す必要があります。

3

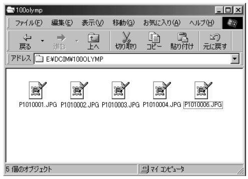
「DCIM」フォルダのアイコンをダブルクリックします。

「100OLYMP」フォルダアイコンが表示されます。

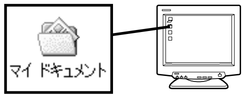


4 「100OLYMP」フォルダのアイコンをダブルクリックします。

画像ファイル（JPEGファイル）が表示され、「P1010001.JPG」などのアイコンが確認できます。

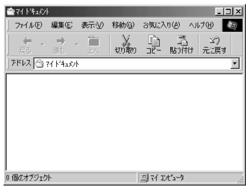


5 デスクトップの「マイドキュメント」アイコンをダブルクリックします。



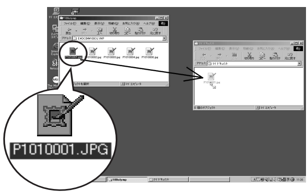
デスクトップにない場合は、「スタート」メニューから「エクスプローラ」を選択して、エクスプローラのウィンドウを表示し、「マイドキュメント」アイコンをダブルクリックします。

「マイドキュメント」フォルダのウィンドウが開きます。



6 パソコンに保存したい画像ファイル（ここではP1010001.JPG）のアイコンをマイドキュメントフォルダにドラッグ&ドロップします。

カメラの画像がパソコン（マイドキュメント）に保存されます。



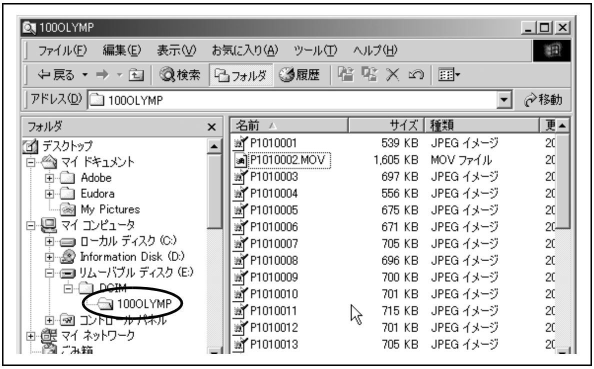
ヒント

- お使いのパソコンの OS により操作および名称などが異なる場合があります。詳細は、お使いのパソコンOSの説明書をご覧ください。

次ページへつづく

カメラのファイル構成について

パソコン上で、ファイル構成が確認できます。撮影した画像は「DCIM」フォルダ内の「100OLYMP」に入ります。



ファイル名、フォルダ名について

フォルダ名とファイル名は、カメラが自動的に作成します。

フォルダ名の例　　100OLYMP
- 100：フォルダの通し番号(100〜999)

↓

ファイル名の例　　P1010001.JPG
- 0001：画像の通し番号(0001〜9999)
- 01：日
- 1：月

- 画像の通し番号が9999を超えるとフォルダの通し番号が1つあがります。
- ファイル名の月の表記は、1〜9月は1〜9、10月はA、11月はB、12月は**C**です。

注　意

- カメラのカード内の画像ファイルおよびフォルダの名称や構成は、変更しないでください。**カメラで画像が再生されなくなります**。いったんハードディスクへコピーしてから、ファイル名／フォルダ名の変更などの操作を行ってください。

ヒント

- 「P3240001.JPG」などのファイルをダブルクリックすると画像が開きます。ただし、エクスプローラなどで開くと画像が大きく表示されて画面からはみ出す場合があります。このような場合CAMEDIA Masterを使って、最適な大きさで見ることができます。☞「静止画を見る」（P.194）

拡張子について

静止画の場合の拡張子	：＊＊＊.JPG
動画（ムービー）の場合の拡張子	：＊＊＊.MOV

ムービーファイルはいくつかの種類がありますが、オリンパスのデジタルカメラでは、MOV 形式（QuickTime Motion JPEG 形式）を採用しています。MOV 形式は、1コマ1コマが静止画の情報として存在しています。そのためムービーファイルの任意の 1 コマを取り出して保存した場合、鮮明な静止画像として保存することができます。

ヒント

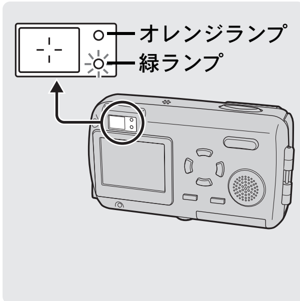
- パソコン上でムービーを再生するには、「QuickTime 4.0」以上が必要です。「QuickTime」は、CAMEDIA Masterと同時にインストールすることができます。☞「CAMEDIA Masterをインストールする（初回のみ）」（P.176）
- 拡張子は、パソコンの設定により表示されない場合があります。☞詳しくは、パソコンの説明書をご覧ください。

カメラをパソコンから取り外す

Windows 98/98SE の場合

1 カメラのオレンジランプが消灯していることを確認します。

ただし、緑ランプは点灯してます。



ヒント

- オレンジランプが点灯または点滅しているときは、消灯するまでお待ちください。
- オレンジランプが消灯しないときはカメラがソフトウェアにアクセスしている場合があります。お使いになったソフトウェアを閉じてください。

2 「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックして「リムーバブルディスク」を右クリックし、メニューを表示させせます。

3 メニューの「取り出し」をクリックします。



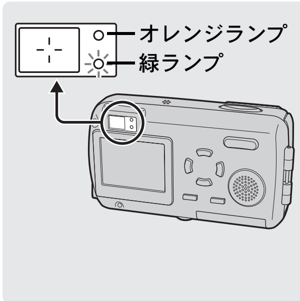
4 カメラとパソコンからUSBケーブルを取り外します。

カメラの緑ランプが消えます。

Windows Me/2000/XP の場合

1 **カメラのオレンジランプが消灯していることを確認します。**

ただし、緑ランプは点灯してます。

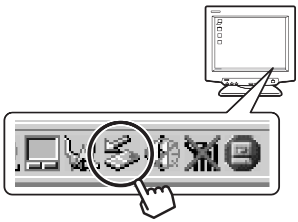


ヒント

- オレンジランプが点灯または点滅しているときは、消灯するまでお待ちください。
- オレンジランプが消灯しないときはカメラがソフトウェアにアクセスしている場合があります。お使いになったソフトウェアを閉じてください。

2 **タスクバーに表示されている「ハードウェアの取り外し」アイコンをクリックします。**

ドライブを停止するメッセージが表示されます。



Windows XPをお使いの場合は、「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをクリックします。

「USB大容量記憶装置デバイスを安全に取り外します」または「USB大容量記憶装置デバイスを停止します」というメッセージが表示されます。

3 **メッセージをクリックします。**



「ハードウェアの取り外し」ウィンドウが表示されます。

4 **ウィンドウが表示されたら「OK」をクリックします。**



5 **カメラとパソコンからUSBケーブルを抜きます。**

カメラの緑ランプが消えます。

カメラをパソコンに接続する

付属の USB ケーブルを使って、カメラをパソコンに接続します。
☞「カメラをパソコンに接続する」（P.160）

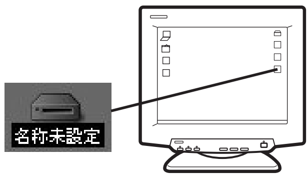
カメラがパソコンに認識されたことを確認する

Macintosh OS 9.0 - 9.2 の場合

カメラを認識するとデスクトップに「名称未設定」アイコンが表示されます。

☞「カメラをパソコンに接続する」（P.160）の手順3と同じ画面で［PC］を選択します。

1 デスクトップの「名称未設定」アイコンをダブルクリックします。



ヒント

- 「名称未設定」アイコンが表示されない場合や「準備ができていません」などのメッセージが表示された場合は、次のような問題が考えられます。

①カメラの電源（ACアダプタの接続状態、電池の残量）に問題がある。
②カメラにカードが入っていない。または、カードに問題がある。
　→画像が、液晶モニタで再生できるかご確認ください。
③カメラとパソコンの接続に問題がある。
　→USBケーブルの接続状態をご確認ください。
④Macintoshの「機能拡張マネージャ」で「File Exchange」が停止になっている。
　→詳細は、パソコンの説明書をご覧ください。

2 「DCIM」フォルダがあることを確認してください。

以上でカメラが認識されました。パソコン上でファイル操作ができます。

ヒント

- カメラに撮影した画像がある場合は「DCIM」–「100OLYMP」の順にダブルクリックすると、画像ファイルが表示されます。☞「カメラのファイル構成について」（P.166）

Macintosh OS X の場合

カメラを認識すると、Apple Image Capture というソフトが自動で起動します。

1 「ファイルを閉じる」を選んで、Apple Image Captureを閉じます。

カメラは「unlabeled」、「名称未設定」、「NO-NAME」のいづれかのアイコンで表示されます。

ヒント

- 表示されない場合は、次のような問題が考えられます。
  ①カメラの電源（ACアダプタの接続状態、電池の残量）に問題がある。
  ②カメラにカードが入っていない。または、カードに問題がある。
  →画像が、液晶モニタで再生できるかご確認ください。
  ③カメラとパソコンの接続に問題がある。
  →USBケーブルの接続状態をご確認ください。

2 「unlabeled」、「名称未設定」、または「NO-NAME」アイコンをダブルクリックします。

「DCIM」フォルダがあることを確認してください。

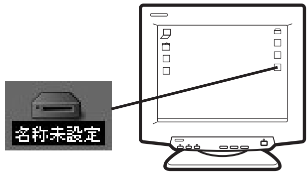
以上でカメラが認識されました。パソコン上でファイル操作ができます。

カメラの画像をパソコンに取り込んで保存する

1 パソコンと接続するとデスクトップに「名称未設定」アイコンが表示されます。そのアイコンをダブルクリックします。

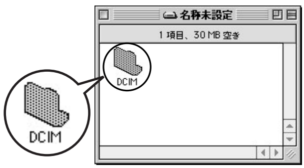
ヒント

- OS　Xの場合は、「NO-NAME」または「Unlabeled」アイコンが表示されることがあります。
- 新たな「名称未設定」アイコンが表示されない場合、または「名称未設定」アイコンをダブルクリックした後、「準備ができていません」などのメッセージが表示された場合は、次のような問題が考えられます。

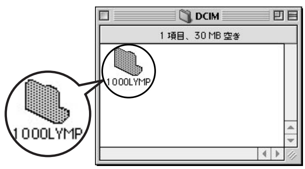


　① カメラの電源（ACアダプタの接続状態、電池の残量）に問題がある。
　② カメラにカードが入っていない。または、カードに問題がある。
　　撮った画像が、液晶モニタで確認できることをご確認ください。
　③ パソコンとデジタルカメラのUSBケーブルでの接続状態に問題がある。
　④ Macintoshの「機能拡張マネージャ」で「File Exchange」が停止になっている。
　　→詳細は、パソコンの説明書をご覧ください。

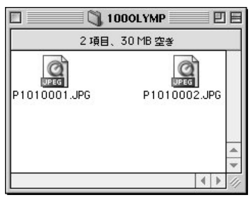
2 「DCIM」フォルダのアイコンをダブルクリックします。



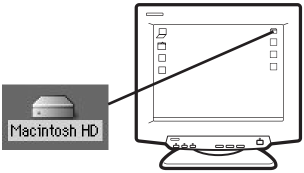
3 「100OLYMP」フォルダのアイコンをダブルクリックします。



画像ファイル（JPEGファイル）が表示され、「P1010001.JPG」などのアイコンが確認できます。



4 デスクトップの「ハードディスク」アイコンをダブルクリックします。



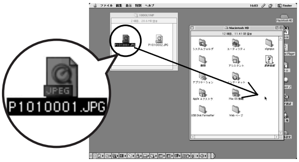
「ハードディスク」フォルダのウィンドウが開きます。



5 保存したい画像ファイルをクリックして選択します。複数のファイルを選択する場合は、Shiftキーを押しながらクリックします。

6 選択した画像ファイルをハードドライブの目的のフォルダにドラッグ＆ドロップします。

カメラの画像がパソコン（ハードディスク）に保存されます。



ヒント

- 選択した画像ファイルを新しいフォルダに保存することもできます。詳細は、お使いのパソコンOSの説明書をご覧ください。

次ページへつづく

Macintosh OS X の場合

パソコンがカメラを認識すると、Apple Image Capture が起動します。Apple Image Capture が起動しない場合は、通常のドラッグ＆ドロップ操作で画像を保存できます。172 ～ 173 ページの手順をご覧ください。

☞「カメラをパソコンに接続する」（P.160）の手順3と同じ画面で［PC］を選択します。

1 「ダウンロード先:」から、画像をダウンロードするフォルダを選択します。



2 画像をすべてダウンロードする場合は、「すべてをダウンロード」をクリックします。
選択した画像のみダウンロードする場合は、「一部をダウンロード」をクリックしてダウンロードする画像を選択します。

カメラから画像がダウンロードされます。

ヒント

- OS 9等と同様の操作で画像のダウンロードを行う場合は、「ファイル–閉じる」を選択してApple Image Captureを閉じてください。このときカメラは「unlabeled」と表示されています。

注　意

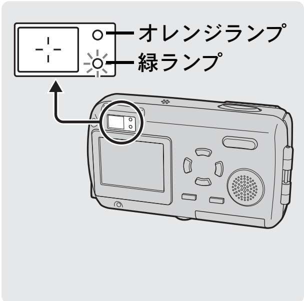
- Apple Image Captureを使用した場合、画像をパソコンにダウンロード後、再びカードに転送するとカメラで再生できないなどの問題が発生する場合があります。

カメラをパソコンから取り外す

カメラをパソコンから取り外す方法は、Macintosh OS 9.0 〜 9.2/OS X 共通です。

1 カメラのオレンジランプが消灯していることを確認します。

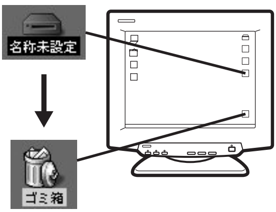
ただし、緑ランプは点灯してます。



ヒント

- オレンジランプが点灯または点滅しているときは、消灯するまでお待ちください。
- オレンジランプが消灯しないときはカメラがソフトウェアにアクセスしている場合があります。お使いになったソフトウェアを閉じてください。

2 デスクトップの「名称未設定」アイコンを「ごみ箱」にドラッグします。



3 カメラとパソコンからUSBケーブルを取り外します。

カメラの緑ランプが消えます。

CAMEDIA Master をインストールする（初回のみ）

CAMEDIA Master 4.2 は、デジタルカメラで撮影した画像を編集・管理するためのソフトウェアです。画面表示がわかりやすく、簡単な操作で、デジタルカメラで撮影した画像をパソコンでお楽しみいただけます。
QuickTime、CAMEDIA Master 4.2、Acrobat Reader などをインストールします。なお、画面の表示はご購入のカメラおよびご使用のパソコン (OS) によって若干異なる場合があります。

Windows の場合

CAMEDIA Master 4.2 は次の動作環境でご利用ください。

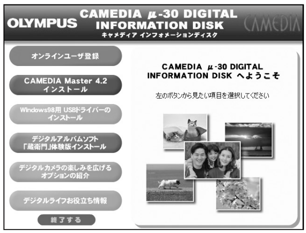
OS	Windows98SE/Me/2000/XP
CPU	Pentium II 以上
RAM	128MB 以上（256MB 以上を推奨）
ハードディスク容量	120MB 以上（インストール時）
コネクタ	USB ポート（USB 接続）
モニタ	800 × 600 ドット以上、65,536 色以上
CD-ROM ドライブ	
Internet Explorer 4.0 以上（オンラインヘルプ表示用）	

OS がプレインストールされているパソコンが対象です。

- Windwos XP は Windows XP Professional/Home Edition に対応しています。
- Windows 2000 は、Windows2000 Professional に対応しています。

1 パソコンを起動してCD-ROMドライブに付属のCD-ROMを挿入します。

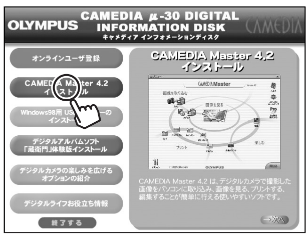
Information Diskの画面が表示されます。



ヒント

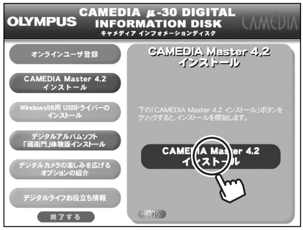
- 表示されない場合は、デスクトップの「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックし、CD-ROMアイコンをダブルクリックしてください。

2 「CAMEDIA Master 4.2インストール」ボタンをクリックします。
画面の右側の説明を読みながら「次へ」ボタンをクリックして進みます。



3 画面右側の「CAMEDIA Master 4.2インストール」ボタンをクリックします。

以降、QuickTime、CAMEDIA Master、Acrobat Readerの順にインストールをします。



ヒント

- ご使用のパソコンに最新のQuickTime、Acrobat Readerがインストールされている場合は、インストール画面が表示されません。

QuickTime のインストール

Quick Time はムービーの再生に必要です。

以下のインストール画面は、すでにインストールされている場合は表示されません。☞「CAMEDIA Master のインストール」（P.178）へ進みます。

① 「次へ」を繰り返してクリックします。



ヒント

- 途中、チェックボックスや入力の画面が表示されますが、そのままの状態で、「次へ」をクリックしてください。

② 使用許諾契約画面が表示されたら、ご確認の上「同意します」をクリックします。

「次へ」を繰り返してクリックします。

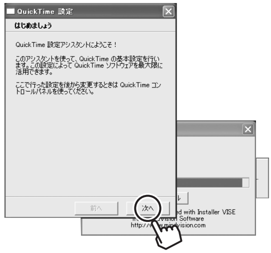
セットアップが開始されます。



③ しばらくするとQuickTimeの設定ウィンドウが表示されます。

「次へ」を繰り返してクリックします。

「終了」をクリックします。



④ セットアップ完了のウィンドウが表示されます。

クリックしてチェックボックスのチェックを外して、「閉じる」をクリックします。



ヒント

- チェックを外さないと、プログラムが起動します。不要な場合は閉じてください。

以上で QuickTime のインストールは完了です。

CAMEDIA Master のインストール

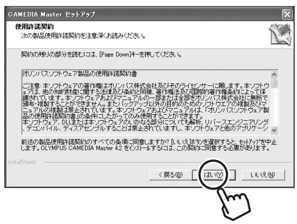
①「次へ」をクリックします。



ヒント

- QuickTimeがすでにインストールされている場合は、ここから進みます。

② 使用許諾契約画面が表示されたら、ご確認のうえ「はい」をクリックします。



③ お名前とシリアル番号を入力します。



注 意

- 0（ゼロ）とO（オー）、0（ゼロ）とD（ディー）、1（イチ）とI（アイ）、2（ニ）とZ（ゼット）、8（ハチ）とB（ビー）、U（ユー）とV（ブイ）、などの入力にご注意ください。
- シリアルNo.はCD-ROMの表紙の下部分をご参照ください。



入力したら「次へ」を繰り返してクリックします。

セットアップが開始されます。

しばらくすると、インストールが完了し、
引き続き、Acrobat Reader のインストールが開始されます。

Acrobat Readerがインストールされている場合は、ここでインストールは終了します。☞「CAMEDIA Masterを起動する／終了する」（P.186）

Acrobat Reader のインストール

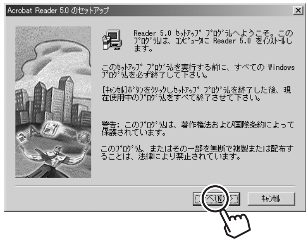
Acrobat Reader は、CD-ROM 内の説明書を見るために必要です。



① 「OK」をクリックします。

セットアップが開始されます。

② 「次へ」を繰り返してクリックします。



ヒント

- 途中、チェックボックスや入力の画面が表示されますが、そのままの状態で、「次へ」をクリックしてください。

③ セットアップ完了のダイアログが表示されたら、「OK」をクリックします。



④ 「完了」をクリックします。

以上でインストールは完了しました。



ヒント

- Information Diskの画面を閉じるときは、「終了する」をクリックします。

Macintosh の場合

CAMEDIA Master 4.2 は次の動作環境でご利用ください。

OS	MacOS 9.0 ～ 9.2/OS X 10.1 ～ 10.3
CPU	Power PC G3 以降
RAM	アプリケーション用に 128MB 以上
ハードディスク容量	120MB 以上（インストール時）
コネクタ	USB ポート
モニタ	800 × 600 ドット以上、32,000 色以上

- OS8.6～9.2をお使いの方は、Quick Timeのバージョン5.0以降はインストール不要です。
- OS Xをお使いの方は、CAMEDIA Masterのみインストールします。

ヒント

- OS8.6～9.2で、Acrobat ReaderとQuickTimeがインストールされているかどうか、もしくはバージョンを確認するには、「Appleメニュー」→「Appleシステム・プロフィール」をクリックしてAppleシステム・プロフィールウインドウを開きます。
- アプリケーションタブをクリックするとインストールされているソフトがすべて表示されますので、Acrobat ReaderとQuickTimeをクリックしてバージョンを確認します。

1 パソコンを起動してCD-ROMドライブに付属のCD-ROMを挿入します。



デスクトップにInformation Diskアイコンが表示されます。

ヒント

- 表示されない場合はデスクトップのInformation Diskと書かれたCD-ROMアイコンをダブルクリックします。

付属ソフト CAMEDIA Master を使う

8 画像をパソコンで楽しむ

次ページへつづく

2

ご使用のOSに対応した名称のフォルダをダブルクリックします。

OSを選択します。



ヒント

- OS8.6～9.2の場合は8.6 – 9.2フォルダを、OS Xの環境の場合はOS–X 10.1 –フォルダをクリックします。

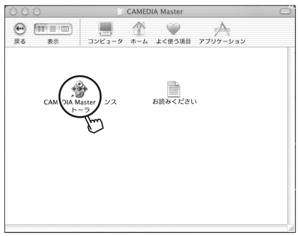
3

CAMEDIA Masterフォルダをダブルクリックします。



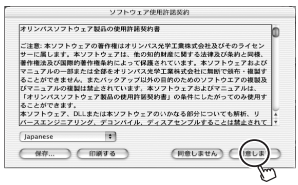
4

CAMEDIA Masterインストーラアイコンをダブルクリックします。

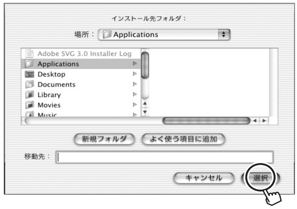


5

ソフトウエア使用許諾契約ウインドウが表示されますので、内容をお読みのうえ「同意します」をクリックします。



6 インストール先フォルダを選択するウインドウが表示されます。そのまま「選択」をクリックします。

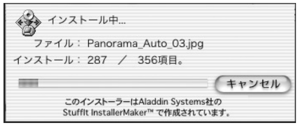


ヒント

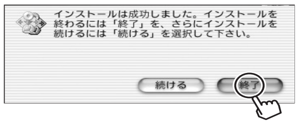
- インストールしたいフォルダがあれば、目的フォルダをクリックした後「選択」をクリックします。

インストールが開始されます。

しばらくお待ちください。



7 インストール成功のダイアログが表示されます。



「終了」をクリックして、コンピュータを再起動します。

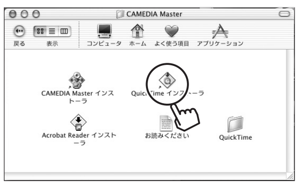
「再起動」があればクリックして再起動します。

QuickTime のインストール

Quick Time はムービーの再生に必要です。

すでにバージョン5.0以降がインストールされている場合やOS Xの場合、インストールは不要です。

1 CAMDEIA Masterのインストールの時に使用したCAMEDIA Masterフォルダ内にあるQuickTimeインストーラをダブルクリックします。



次ページへつづく

2 インストール初期ウインドウが表示されます。「続ける」をクリックします。

3 ライセンスウインドウが表示されます。内容をお読みのうえ「同意します」をクリックします。

4 インストール種類の選択ウインドウが表示されます。基本的なインストールのラジオボタンをクリックして「続ける」をクリックします。

5 ユーザ登録ウインドウが表示されます。何も入力しないで「続ける」をクリックします。

インストールが開始されます。しばらくお待ち下さい。

6 QuickTime設定ウインドウが表示されます。「次へ」をクリックします。

7 接続速度設定のウインドウが表示されます。お使いのネットワークの種類に合わせて選択します。「次へ」をクリックします。

8 ブラウザ・プラグイン設定のウインドウが表示されます。そのまま「次へ」をクリックします。

9 まとめのウインドウが表示されます。そのまま「終了」をクリックします。

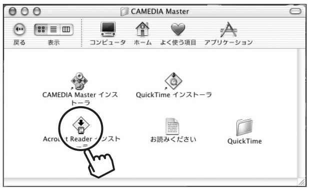
インストール完了のダイアログが表示されます。「終了」をクリックします。

Acrobat Reader のインストール

Acrobat Reader は、CD-ROM 内の説明書を見るために必要です。

すでにバージョン 5.0 以降がインストールされている場合、または OS X の環境の場合はインストール不要です。

1 CAMDEIA Master のインストールの時に使用した CAMEDIA Masterフォルダ内にあるAcrobat Readerインストーラをダブルクリックします。



2 インストール初期ウインドウが表示されます。「続ける」をクリックします。

3 Acrobat Readerインストーラウインドウが表示されます。インストールの種類は「簡易インストール」、インストールの場所はそのままで「インストール」をクリックします。

インストールが開始されます。しばらくお待ち下さい。

4 フォルダの選択ウインドウが表示されます。そのまま「OK」をクリックします。

5 ソフトウェアのインストール完了のダイアログが表示されます。「終了」をクリックします。

CAMEDIA Master を起動する／終了する

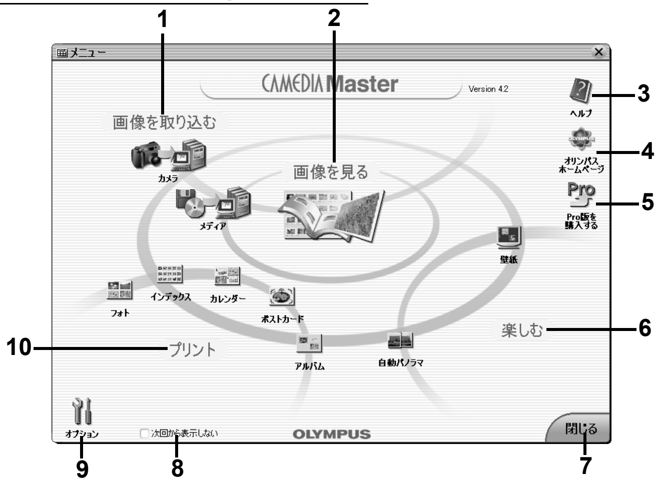
Windows の場合

1 デスクトップの「CAMEDIA Master」アイコンをダブルクリックします。



メインメニューが表示されます。

CAMEDIA Masterメインメニュー



1 画像を取り込む

カメラ	パソコンに接続したカメラから画像を取り込みます。
メディア	メディア（フロッピーディスク、光磁気ディスク（MO）、CD-ROM、スマートメディアなどの記録媒体）から画像を取り込みます。

2 画像を見る

メディアやCAMEDIA Master内（マイアルバム）の画像を表示します。

3 ヘルプ

ヘルプファイルを表示します。

4 オリンパスホームページ

オリンパスのWebページ（ホームページ）を表示します。

5 Pro版を購入する

CAMEDIA MasterのPro版の購入に関する情報を表示します。

6 楽しむ

自動パノラマ	2枚以上の画像を貼り合わせて、1枚の水平パノラマ画像を作成します。
壁紙	編集した画像をパソコンの壁紙にします。

7 閉じる

CAMEDIA Masterを終了します。

8 次回から表示しない

チェックマークを付けてCAMEDIA Masterを終了すると、次回起動時にメインメニューを表示せず、アルバムウィンドウを直接表示します。

9 オプション

メニュー画面の背景色を切り替えたり、「マイアルバム」の保管場所を選択します。

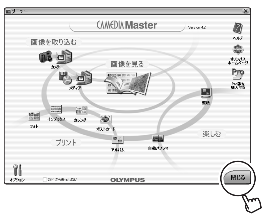
10 プリント

メディアやCAMEDIA Master内（マイアルバム）の画像を、4つのフォーマット（フォト、インデックス、カレンダー、ポストカード）に配置してプリントします。

ヒント

- CAMEDIA Masterの説明書を見るには、タスクバーから［スタート］–［プログラム］–［OLYMPUS CAMERA］–［取扱説明書］の順にクリックします。

2 CAMEDIA Master を終了する場合は、メインメニューから［閉じる］をクリックします。CAMEDIA Masterが終了します。



次ページへつづく

Macintosh の場合

1 「CAMEDIA Master」フォルダ内の「CAMEDIA Master」アイコンをダブルクリックします。

メインメニューが表示されます。

ユーザー登録画面が表示されます。お名前とシリアル番号を入力し、「OK」をクリックします。☞（P.179）

2 CAMEDIA Masterを終了する場合はメインメニューから［閉じる］をクリックします。CAMEDIA Masterが終了します。

ヒント

- オンラインユーザー登録画面が表示されます。パソコンがインターネットに接続されている場合は、画面の案内にしたがってユーザー登録ができます。ここでユーザー登録をしない方は、「キャンセル」をクリックしてください。
- CAMEDIA Masterの説明書を見るには、インストール時に作成された「CAMEDIA Master」フォルダの中の「CAMEDIA Master.pdf」をダブルクリックします。

カメラの画像をパソコンに取り込んで保存する

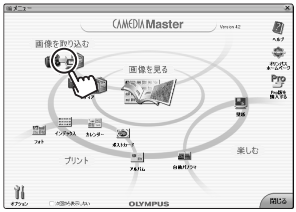
「カメラ」から画像を取り込んでアルバムを作成し、パソコンに保存する方法について説明します。

ヒント

- 「カメラ」から取り込む場合は、オリンパス製カメラが接続されている必要があります。☞「カメラをパソコンに接続する」（P.160）
- 「メディア」から取り込む方法もあります。詳しくはCAMEDIA Masterのヘルプをご覧ください。

● カメラから取り込む

1 **メインメニューの「画像を取り込む–カメラ」をクリックします。**



- カメラが自動検索され、取り込みウインドウが表示されます。
- ウインドウ左側にカメラ内のすべての画像がサムネイルで表示されます。
- ウインドウ右側は取り込むパソコン内のアルバムが表示されます。



取り込み先のグループとアルバムを作成します。

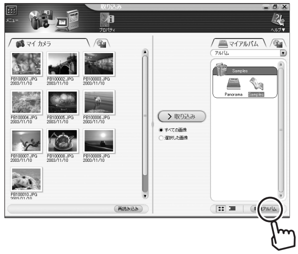
インストール直後はサンプルとして、Sample グループに Panorama と Samples というアルバムが入っています。

ここではグループ名を「Photos」、アルバム名を「20031110」として、画像を取り込みます。

次ページへつづく

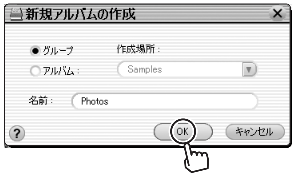
2 グループを作成します。

① 取り込みウィンドウ右下の「新規アルバム」ボタンをクリックします。

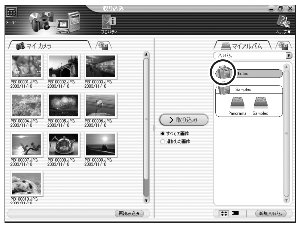


- 「新規アルバムの作成」ダイアログが表示されます。

② グループをクリックし、「名前」にPhotosと入力して「**OK**」ボタンをクリックします。

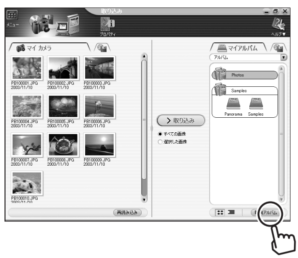


- ウインドウ右側に「Photos」というグループができました。



3 「Photos」のグループに「20031110」というアルバムを作成します。

① 右下の「新規アルバム」ボタンをクリックします。

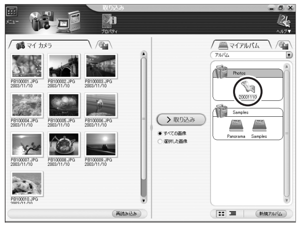


- 「新規アルバムの作成」ダイアログが表示されます。

② 「名前」に20031110と入力して「**OK**」ボタンをクリックします。



- ウインドウ右側の Photos グループの中に「20031110」というアルバムができました。



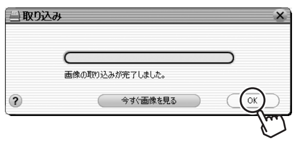
4 画像を取り込みます。

① 「取り込み」ボタン下にある「すべての画像」を選択した状態で「取り込み」をクリックします。

ヒント

- 既存のアルバムに取り込みたい場合は、目的のアルバムをクリックしてアルバムが開いた状態で「取り込み」をクリックします。
- 選んだ画像だけ取り込みたい場合は、取り込みボタン下にある「選択した画像」ラジオボタンをクリックし、画像を選択してから「取り込み」ボタンをクリックします。複数の画像を選択するには、Ctrlキー（Macintoshの場合はCommandキー）を押しながら、クリックします。

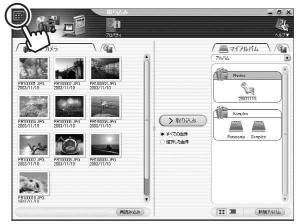
② 取り込みダイヤログが表示されますので、取り込みが完了しましたら「**OK**」をクリックします。



- アルバムへの取り込みが完了しました。

次ページへつづく

③ 取り込みウインドウ左上の「メニュー」アイコンをクリックするとメインメニューへ戻ります。



5 カメラをパソコンから取り外します。

☞「Windows 98/98SEの場合」（P.168）
☞「Windows Me/2000/XPの場合」（P.169）
☞「Macintoshの場合」（P.175）

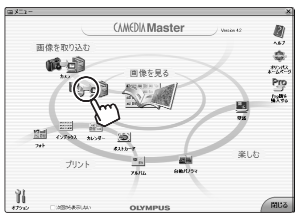
ヒント

● 画像をパソコンに取り込んだ後は、カメラの電池の消耗を防ぐため、速やかにカメラをパソコンから取り外してください。

●メディアから取り込むときは

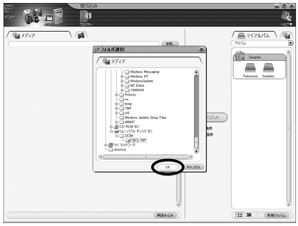
CD-ROM や MO ディスクなどのメディアから画像を取り込みます。

1 メインメニューの「画像を取り込む–メディア」をクリックします。



2 取り込み元を選びます。

① 取り込みウインドウとフォルダの選択ダイアログが表示されますので、リムーバブルディスク（E:）→DCIMフォルダ→100OLYMPの順にクリックして100OLYMP フォルダを開いてください。



② その状態で「OK」ボタンを押します。

ヒント

- リムーバブルディスク（E:）のEは、パソコンの環境によって異なります。

- ウィンドウの左側にメディア内のすべての画像がサムネイルで表示されます。ウインドウ右側はパソコン内のアルバムが表示されます。



3 画像を取り込みます。

操作については、手順「4 画像を取り込みます。（P.191）」をご覧ください。

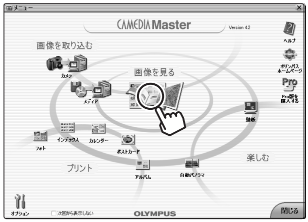
ヒント

- 新たにグループを作成して取り込みたい場合の操作については、☞ 手順2「グループを作成します。」（P.190）以降をご覧ください。

静止画を見る

1

メインメニューにある「画像を見る」をクリックします。



- アルバムウインドウが表示されます。
- 左側はアルバム一覧でアルバムが表示されます。
- 右側は画像表示部で、選択されているアルバム内の画像がサムネイルで表示されています。



2

画像を選びます。

右側のサムネイル一覧から見たい画像のサムネイルをダブルクリックします。ここでは4番目の画像（PB100004.JPG）を見ます。

- アルバムウインドウはビューモードへ切り替わり、画像が表示されます。
- 左側にアルバム内のサムネイル一覧、右側に選択画像が表示されます。
- 左側のサムネイル一覧から他の画像のサムネイルをクリックすると、表示されます。



ヒント

- アルバムウインドウはブラウズモード、ビューモードの2つの表示モードがあり、スライダーを左右にスライドすることで切り替わります。
- 画像の色が滑らかでない場合は、パソコンのモニタの使用色数の設定が256色など少ない値になっていることがあります。☞詳しくはパソコンの説明書をご覧ください。

3

アルバムウインドウ左上の「メニュー」アイコンをクリックするとメインメニューへ戻ります。

ムービーを見る

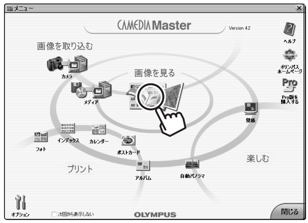
撮影したムービーを見ることができます。

ヒント

- CAMEDIA Masterでは静止画、ムービー（QuickTime）の他に、WAVやMP3等のサウンドも再生することができます。

1 メインメニューにある「画像を見る」をクリックします。

- アルバムウインドウが表示されます。



2 ムービーを再生します。

① アルバム表示部で見たいムービーの入っているアルバムをクリックします。

② 右側のサムネイル一覧からムービーのサムネイルをダブルクリックします。



- ムービーの場合、サムネイルの右上に🎥がついています。
- アルバムウインドウがビューモードへ切り替わります。
- 左側がサムネイル一覧、右側がムービー表示部となりムービーの1コマ目が表示されます。

次ページへつづく

③ ムービー表示部下側の再生ボタン［▶］をクリックするとムービーが再生されます。



その他のボタン操作は、以下のとおりです。

- ［❚❚］ボタンは一時停止
- ［⏮］ボタンは1フレーム戻る
- ［⏭］ボタンは1フレーム進む
- ［■］ボタンは停止

ヒント

- 音声付きムービーの場合は停止ボタン「［■］」の右にボリュームボタンが表示されクリックするとボリューム調整スライダが表示されます。

3 アルバムウインドウ左上の「メニュー」アイコンをクリックするとメインメニューへ戻ります。

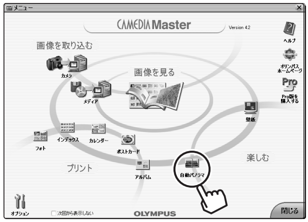
パノラマ写真を作る

パノラマ撮影した画像を貼り合わせて1枚のパノラマ画像を作成することができます。

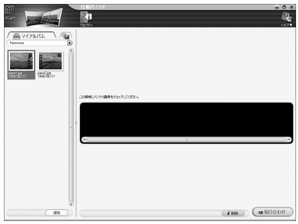
ここでは、あらかじめサンプルとして用意されているパノラマ作成用画像を使って、パノラマ画像作成を行い保存するまでを説明します。

1

メインメニューにある「自動パノラマ」をクリックします。



- 自動パノラマウインドウが表示されます。
- 左側の画像表示部上部の▼をクリックしてパノラマ写真を作成したい画像のあるアルバムを選択します。
- ここではサンプルとしてあらかじめ用意されている Samples 内の Panoramaアルバムの画像を使用します。画像表示部に画像のサムネイルが表示されます。

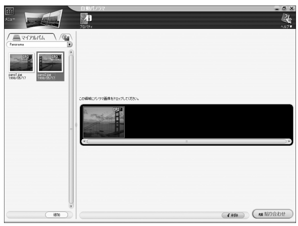


2

1枚目の画像を選びます。

① パノラマ作成したい画像のサムネイルをクリックします。

②「追加」をクリックします。



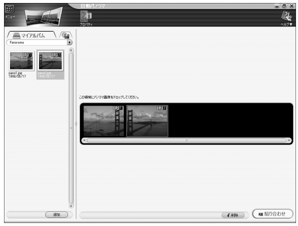
- 右側の画像貼り合わせ領域に画像が追加されます。
  ☞「パノラマ写真を撮る」(P.89)

ヒント

- パノラマモードで撮影した画像には、サムネイル右上に[P]マークがつきます。
- パノラマモードで撮影した画像しか使えません。

次ページへつづく

3 2枚目の画像を選びます。



① 貼り合わせたい画像のサムネイルをクリックします。

② 「追加」をクリックします。

ヒント

- 貼り合わせたい画像が2枚以上ある場合は、画像を並べる操作を繰り返します。

4 貼り合わせます。



① 「貼り合わせ」をクリックします。

② 2枚の画像が合成され、1枚のパノラマ画像ができました。

ヒント

- 画像貼り合わせ領域の画像を取り消すには、取り消したい画像をクリックし、自動パノラマウインドウの右下の「削除」をクリックします。

5 パノラマ画像を保存します。青枠の範囲が画像として保存されます。



保存する前に、背景色と画像サイズを設定します。

① 背景色は貼り合わせ領域左上部の▼をクリックし、規定の16色からお好みの色をクリックし設定します。

② 画像のサイズは貼り合わせ領域右上部の▼をクリックし、大（100%）・中（70%）・小（50%）3つのサイズからクリックして設定します。ここでは、背景色「黒」、画像のサイズ「小」を設定します。

③ 各種設定が終了したら、画像貼り合わせ領域右下の「保存」ボタンをクリックします。

名前を付けて保存ダイアログが表示されます。



④ ファイル名に名前を入力します。
⑤ 「保存」ボタンをクリックします。

ヒント

- 目的、用途によって、ファイルフォーマットを変更したり、オプションでJPEG圧縮率を変更することができます。

⑥ 保存中のダイアログが表示されます。



- 保存が完了すると左側画像表示部に作成したパノラマ画像が追加されます。

ヒント

- 別売のCAMEDIA Master Pro版を購入すると、このような水平パノラマ画像のみでなく縦横自由に貼り合わせることができる360°のパノラマ写真が作成できます。

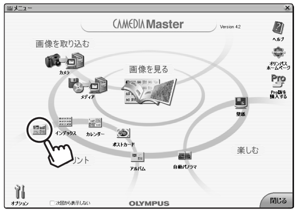
6 自動パノラマウインドウ左上の「メニュー」アイコンをクリックしてメインメニューへ戻ります。

プリントする

プリントしたい画像に日付を入れてプリントします。

1

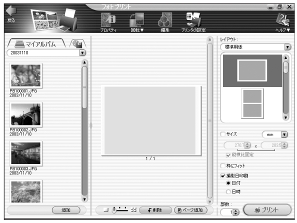
メインメニューにある「プリント–フォト」をクリックします。



フォトプリントウインドウが表示されます。

2

レイアウト、日付、部数を設定します



① ここでは「1枚のレイアウト」、撮影日プリント（日付）を設定します。レイアウトの中から「1枚レイアウト」をクリックします。

②「撮影日印刷」のチェックボックスをクリックしチェックを入れます。

③「日付」のラジオボタンをクリックします。

④ プリントしたい部数を▲▼で入力します。

3 プリントする画像を選びます

① 画面左側の画像表示部からプリントしたい画像のサムネイルをクリックします。

②「追加」をクリックします。



- 中央のプレビュー表示部に画像が表示されます。用紙サイズに関わらずこのプレビューどおりにプリントされます。
- 他のアルバムの画像を選択する場合は▼をクリックして表示されるアルバムを選択してください。

ヒント

- プリントしたい画像を選択し直すには、プレビュー表示部の画像を選択して「削除」をクリックしてもう一度やり直して下さい。

4 プリンタを設定します

① ツールボタンの中の「プリンタ設定」をクリックします。

プリンタの設定ダイアログが表示されます。



②「プリンタ」の▼をクリックして表示されるリストからご使用のプリンタを選択します。

③「用紙」の▼をクリックして表示されるリストから使用する用紙のサイズを選択します。ここでは「ハガキ」を選択します。用紙の種類はご使用のプリンタによって異なります。

次ページへつづく

プリントする

④「プロパティ」をクリックし、選択したプリンタの詳細設定（用紙の種類やフチなし等）をします。

- ご使用のプリンタによって設定内容が異なります。用紙サイズはここでも選択できます。

⑤ 設定したら「OK」ボタンをクリックします。

注意

- 4辺フチ無しプリントは対応していません。
- プリンタによっては「フチ無し」の設定ができますが、画像の縦横比と用紙の縦横比が異なるため左右もしくは上下に余白が生じます。

5 プリントします

プリンタに紙をセットして、「プリント」をクリックします。プリントが開始されます。



6

フォトプリントウインドウ左上の「メニュー」アイコンをクリックするとメインメニューへ戻ります。

その他の機能

キャメディアインフォメーションディスク内の CAMEDIA Master は、カメラで撮影した画像を簡単に楽しむためのソフトウェアです。CAMEDIA Master には以下のような機能があります。

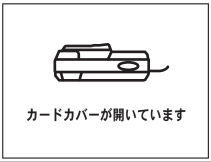
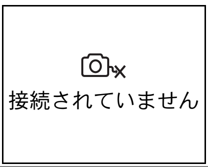
●画像を取り込む	● カメラから取り込む ● メディアから取り込む ● 取り込み先を指定する(アルバム／カレンダー／フォルダ)
●画像を見る	● 画像を見る ● 動画を見る ● 表示モードを変更する ● サウンドを再生する ● ファイルを検索する ● ファイル情報を確認･変更する
●画像を編集する	● 回転させる／反転させる／サイズ変更する／トリミングする／テキストを挿入する／テンプレートと合成する／歪みを補正する／フィルタ機能を使う ● 切り取った･コピーした画像を貼り付ける ● 画像を保存する
●プリントする	● フォトプリント／インデックスプリント ● カレンダー／ポストカード／アルバム
●その他の活用法	● 画像を壁紙にする ● パノラマ画像を作成する
●ファイルを整理する	● グループ･アルバムを作成する ● フォルダを作成する ● 画像･ファイルを管理する

☞ 詳しくは CAMEDIA Master と同時にインストールされる説明書をご覧ください。説明書はメインメニュー画面で右上の「ヘルプ」アイコンをクリックすると表示されます。

エラーメッセージが液晶モニタに表示されたときは

液晶モニタ表示	対処方法
カードを認識できません	カードを入れてください。またはカードを正しく入れ直してください。☞(P.22) 市販のクリーニングペーパーでカードの金色の金属部分を拭いて、もう一度カードを入れてください。それでもこの表示が消えないときはカードをフォーマットしてください。フォーマットできない場合、このカードはご使用になれません。
このカードは使用できません	カードに問題があり、使用できません。フォーマットができない場合、このカードはご使用になれません。新しいカードを入れてください。
書き込み禁止になっています	パソコンを使って読み取り専用の設定がされています。もう一度、パソコンを使って解除してください。 それでもこの表示が消えない場合は、カードの画像をパソコンに保存してからカメラでフォーマットしてください。
撮影可能枚数が0です	カードを交換するか、不要な画像を消してください。大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。
カード残量がありません	カードを交換するか不要な画像を消してください。大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。
画像が記録されていません	カードに画像が入っていません。撮影してから再生してください。

エラーメッセージが液晶モニタに表示されたときは

液晶モニタ表示	対処方法
	パソコンの画像ソフトなどで再生してください。それでも再生できない場合は、画像ファイルの一部が壊れています。
	カードをフォーマットしてください。 ☞（P.52）
	カードカバーを閉めてください。☞（P.23）
	日時を設定してください。☞（P.31）
	カメラがプリンタまたはPCに正しく接続されていません。正しく接続し直してください。
	用紙切れです。用紙をプリンタに補充してください。

次ページへつづく

エラーメッセージが液晶モニタに表示されたときは

液晶モニタ表示	対処方法
インクがありません	インク切れです。インクをプリンタに補充してください。
紙づまりです	用紙が詰まっています。詰まった用紙を取り除いてください。
プリンタの設定が変更されました	プリンタ側で用紙カセットを取り出すなどの操作をしたことが原因です。プリントの設定中にはプリンタの操作はしないでください。
プリンタエラーです	エラーが発生しました。カメラとプリンタの電源を切り、プリンタの状態を確認してから再度電源を入れてください。

故障かな？と思ったら

原因	こうしましょう	参照ページ
カメラが動かない／液晶モニタが点灯しない		
❶ 電源が切れている。	❶ 電源を入れ直してください。	P.26
❷ 電池の残量がない。	❷ 電池を充電してください。	P.17
❸ 寒さで電池の性能が一時的に低下した。	❸ 電池をポケットに入れるなどして、温めてからご使用ください。	–
❹ カメラ内が結露した。	❹ 電源を切って、しばらく放置し、カメラを乾燥させてから電源を入れてください。	–
❺ 撮影モードで自動的に電源が切れた。	❺ 電池の消耗を防ぐため、約3分で待機状態になります。▶ボタンを押してください。	P.26
❻ 再生モードで自動的に電源が切れた。	❻ 電池の消耗を防ぐため、自動的に電源が切れます。もう一度、電源を入れ直してください。	P.27
❼ パソコンに接続している。	❼ パソコンと接続中、カメラは動作しません。	–
カメラの動作がおかしい		
❶ パソコンでフォーマットしたカードを使用した。	❶ カード機能の破壊や画像ファイルの破損原因になることがあります。また、記録時間が異常に長くなったり、再生できなくなることがあります。カメラでフォーマットしてください。	P.52
シャッターボタンを押しても撮影ができない		
❶ レンズバリアが完全に開いていない。	❶ レンズバリアを開ききってください。	P.26
❷ カードの容量がいっぱいになった。	❷ 不要な画像を消すか、新しいカードを入れてください。大切な画像は、消す前にパソコンに取り込んでください。	P.22, 118, 189
❸ フラッシュが充電中である。	❸ オレンジランプの点滅が終わるまで、お待ちください。	P.213
❹ カードに書き込み中である。	❹ オレンジランプの点滅が終わるまで、お待ちください。	P.213
❺ メモリーゲージがすべて点灯している。	❺ メモリーゲージの一番上が消灯するまで、お待ちください。	P.61

次ページへつづく

原因	こうしましょう	参照ページ
フラッシュが発光しない		
❶ フラッシュが[発光禁止]に設定されている。	❶ フラッシュの設定を[発光禁止]以外に設定してください。	P.72
❷ 被写体が明るすぎた。	❷ フラッシュを強制的に発光させたいときは、[強制発光]に設定してください。	P.72
画像が再生できない		
❶ 電源が入っていない。	❶ 電源を入れ直してください。	P.27
❷ 撮影モードになっている。	❷ 再生モードで電源を入れ直してください。	P.27
❸ 撮影がされていない。	❸ 撮影してから、再生してください。	P.59
❹ 画像の情報(ファイル名など)をパソコンで変更した。	❹ カメラの誤動作の原因になりますので、パソコンでカードの画像を書き換えないでください。	P.166
画像データに記録される日時が正しくない		
❶ 日時が設定されていない。	❶ 日時を設定してください。ご購入時は、日時設定されていません。	P.31
❷ 電池を抜いて放置した。	❷ もう一度、日時設定してください。	P.31
❸ カメラが動作中に電池／ACアダプタからの電力供給状況に異常を検知した。	❸ カメラ動作中に電力が得られなくなると、動作を停止することがあります。その後、正常復帰させるために、記録されているすべての設定値をリセットすることがあります。もう一度、日時設定をしてください。	P.31
❹ 静電気を帯電したカードを挿入した。	❹ もう一度、日時設定してください。	P.31
設定した機能が電源を切ると元に戻ってしまう		
❶ 設定を記憶しないで、電源を切っている。	❶ 設定保持を[する]にしてください。	P.33

原因	こうしましょう	参照ページ
液晶モニタが見にくい		
❶ 液晶モニタの明るさの設定が適切でない。	❶ 液晶モニタを調整してください。	P.54
❷ 太陽光の下である。	❷ 太陽の光を手などでさえぎってください。	–
❸ 偏光性の有る眼鏡（サングラスなど）をかけている。	❸ 眼鏡を外してください。	–
ピントが合っていない		
❶ シャッターボタンを押すときにカメラが動いてしまった。	❶ カメラを正しく構えてください。シャッターボタンは、静かに押してください。暗い状況でフラッシュを［発光禁止］または［夜景モード］に設定しているときは、三脚をお使いになるか、カメラをしっかり構えてください。	P.72, 58
❷ 被写体が近すぎる。	❷ マクロ撮影をしてください。	P.82
❸ セルフタイマーを使って撮影したときに、カメラのレンズの前に立ってシャッターボタンを押した。	❸ カメラのレンズの前に立ってシャッターボタンを押すと、ご自身にピントが合ってしまいます。液晶モニタで構図を確認しながら撮影してください。	–
❹ シャッターボタンを半押ししたときに、緑ランプが点滅していた。	❹ 緑ランプが点灯したことを確認してから全押ししてください。	P.64, 213
❺ 被写体が中央にない状況で、ピント合わせを行わなかった。	❺ フォーカスロックを使用して、ピント合わせを正確に行ってください。	P.63
❻ レンズに汚れ（水滴など）が付いていた。	❻ レンズの汚れを拭き取ってください。レンズブロワー（市販）でレンズのほこりを吹き払って、レンズクリーニングペーパー（市販）でやさしく拭いてください。レンズを汚れたままにしておくと、カビの原因となります。	–

次ページへつづく

原因	こうしましょう	参照ページ
画像の一部が欠けてしまった		
❶ レンズに指やストラップがかかってしまった。 ❷ 撮影距離が近かった。	❶ カメラを正しく構えてください。 ❷ 液晶モニタで実際に撮影される範囲を確認しながら撮影してください。	P.58 P.59
撮影した画像が明るすぎる		
❶ フラッシュの設定が[強制発光]になっていた。 ❷ 被写体が明るすぎた。	❶ [強制発光]以外に設定してください。 ❷ 露出補正をマイナス(－)側に設定するか、カメラの向きを変えてください。	P.72 P.79
撮影した画像が暗い		
❶ フラッシュを指で覆ってしまった。 ❷ 被写体がフラッシュ撮影範囲内より遠かった。 ❸ フラッシュが[発光禁止]になっていた。 ❹ 逆光で撮影した。 ❺ 雪景色などで、極端に明るい被写体を撮った。	❶ カメラを正しく構えてください。 ❷ フラッシュ撮影範囲内で撮影してください。 ❸ フラッシュを[発光禁止]以外に設定してください。 ❹ フラッシュを[強制発光]に設定するか、測光を[スポット測光]に設定してください。 ❺ バーチャルモードダイヤルでビーチ＆スノーを選んで撮影すると、きれいに撮れます。	P.58 P.73 P.72 P.72, 80 P.67, 79
室内で撮影した画像の色がおかしい		
❶ 照明の色が影響した。 ❷ 被写体に白い部分がなかった。 ❸ ホワイトバランスの設定が間違っている。	❶ 照明にあったホワイトバランスを設定してください。 ❷ 白いものを入れて撮影するか、フラッシュを[強制発光]にしてください。 ❸ 照明に合わせて、ホワイトバランスを設定し直してください。	P.77 P.72 P.77

カメラがパソコンに認識されないときは

カメラとパソコンをUSBケーブルで接続したとき、パソコンの画面にカメラ（リムーバブルディスク）が表示されない、またはカメラ内の画像がパソコンに表示／保存できない場合の解決方法を Windows XP を例に説明します。その他のOSやパソコン画面のイラストを用いた分かりやすい説明は、ホームページでご覧ください。
☞http://www.olympus.co.jp/

● カメラやケーブルの状態を確認

1 カメラの状態を確認します。

- レンズバリアが閉じているか
- 液晶モニタが消えているか

2 カメラ内のカードを確認します。

- カメラにカードが正しく挿入されているか
- カード自体に問題がないか

3 USBケーブルの接続状態を確認します。

カメラとパソコンがUSBケーブルで正しく接続されているか確認します。
☞「カメラをパソコンに接続する」（P.160）
またパソコン側に現在使用しているUSBポートの他にUSBポートがある場合は、そちらのポートに接続してお試しください。

4 パソコンを再起動します。

カメラとパソコンの接続を外し、パソコンを再起動します。再起動後カメラとパソコンをUSBケーブルで接続し直します。

● パソコンの状態を確認

1 ［スタート］–［コントロールパネル］をクリックします。

次ページへつづく

2 パフォーマンスとメンテナンスをクリックした後に、［システム］をダブルクリックします。

3 システムのプロパティウィンドウで［ハードウェア］タブをクリックし、［デバイスマネージャ］をクリックします。

4 カメラが正常に認識されている場合は、デバイスマネージャに以下のように表示されます。

- ［ディスクドライブ］に［OLYMPUS〈カメラ名〉］
- ［USB（Universal Serial Bus）コントローラ］に［USB大容量記憶装置デバイス］
- ［記憶域ボリューム］に［汎用ボリューム］

5 上記の項目が表示されず、カメラが接続したときだけ！が付いている項目が表示される場合、その項目を右クリックしてショートカットメニューから［削除］をクリックします。

注　意

- デバイス マネージャには、コンピュータの動作に必要なデバイスが多く含まれます。デバイスを削除する際には、十分ご注意ください。

その後［更新］をクリックして確認します。

このとき、付属の CD-ROM を挿入しないようご注意ください。

6 ［コンピュータ名］部分をクリックし、［ハードウェア変更のスキャン］をクリックします。

このとき、付属の CD-ROM を挿入しないようご注意ください。

7 デバイス マネージャに表示される内容を再度確認します。

［OLYMPUS〈カメラ名〉］、［USB 大容量記憶装置デバイス］、［汎用ボリューム］が表示されましたら、［マイコンピュータ］上に［リムーバブル ディスク］のアイコンが表示され、お使いのコンピュータに正しく認識されているかどうかご確認ください。

緑ランプ／オレンジランプ／フラッシュ発光予告について

ファインダ横の緑ランプ・オレンジランプの点灯、消灯、点滅は、次の状態を示しています。また、液晶モニタの緑ランプ・フラッシュ発光予告（⚡）も同じように機能します。

ファインダ横ランプ	液晶モニタ上の表示	カメラの状態	できること／できないこと
緑（点灯）	緑（点灯）	オートフォーカスでピントが合っている（半押しのとき）	撮影できます。
緑（点灯）	―	パソコンとカメラが接続されているとき	カメラ上では撮影／再生できません
緑（点滅）	緑（点滅）	ピントが合っていない（半押しのとき）	撮影ができますが、ピントが合わない場合があります。
		カードに次の問題がある ● カードが入っていない ● カードに空きがない ● カードカバーが開いている	撮影できません。カードを確認してください。
オレンジ（点滅）	フラッシュマーク点滅	フラッシュ充電中	撮影できません。フラッシュを発光させたいときは、点滅が終わるまで待ってから撮影してください。
		手ぶれ警告、または露出不足警告（半押しのとき）	撮影できますが、手ぶれしたり、撮影した画像が暗くなる場合があります。カメラをしっかり固定して撮影するか、[オート発光]などフラッシュを使用して撮影してください。
オレンジ（速い点滅）	―	カード書込中、または処理中	カードカバーや電池カバーを開けないでください。データが異常になる可能性があります。
緑・オレンジ（同時点滅）	電池残量マークの点滅	電池の残りが少ない	電池を充電、または交換してください。

注　意

- オレンジランプの点滅中は、絶対にカードカバーや電池カバーを開けたり、ACアダプタの抜き差しをしたりしないでください。撮影した画像が保存されないだけでなく、保存済みの画像が破壊されるおそれがあります。

メニュー一覧

撮影時と再生時のメニューの構成を、それぞれ静止画とムービーに分けて以下に示します。

●撮影メニュー（静止画）

トップメニュー	タブ	項目	選択肢	参照頁
モードメニュー	撮　影	測光	**ESP**／スポット	P.80
		ドライブ	**単写**／連写	P.87
		デジタルズーム	**オフ**／オン	P.70
		スチル録音	オン／**オフ**	P.94
		スーパーマクロ	オン／**オフ**	P.83
		パノラマ		P.89
		合成ツーショット		P.92
	画像	ホワイトバランス	**オート**／晴天／曇天／電球／蛍光灯	P.77
	カード	カードセットアップ	フォーマット／中止	P.52
	設　定	設定保持	する／**しない**	P.33
			日本語／ENGLISH／FRANÇAIS／DEUTSCH／ESPAÑOL	P.29
		PW ON設定	画面：オフ／**1**／2／3 音量：オフ／小／**大**	P.44
		画面配色設定	**標準**／サンピンク／サンデーグリーン／アクアブルー	P.46
		ビープ音	オフ／小／**大**	P.38
		シャッタ音	オフ／**1**／2／3 小／**大**	P.40
		レックビュー	オフ／**オン**	P.36
		ファイル名メモリー	**リセット**／オート	P.48
		ピクセルマッピング		P.56
		モニタ調整		P.54
		日時設定		P.31
		ビデオ出力	**NTSC**／PAL	P.104

（網掛け部分）は工場出荷時の設定（初期設定）

画質モード			SHQ ／HQ／SQ1／SQ2	P.74
露出補正			–2.0～0～+2.0	P.79
モニタオン			モニタオフ／モニタオン	P.51

●撮影メニュー（ムービー）

トップメニュー	タブ	項目	選択肢	参照頁
モードメニュー	撮　影	測光	ESP／スポット	P.80
		デジタルズーム	オフ／オン	P.70
		スーパーマクロ	オン／オフ	P.83
	画像	ホワイトバランス	オート／晴天／曇天／電球／蛍光灯	P.77
	カード	カードセットアップ	フォーマット／中止	P.52
	設　定	設定保持	する／しない	P.33
			日本語／ENGLISH／FRANÇAIS／DEUTSCH／ESPAÑOL	P.29
		PW ON設定	画面：オフ／1／2／3 音量：オフ／小／大	P.44
		画面配色設定	標準／サンピンク／サンデーグリーン／アクアブルー	P.46
		ビープ音	オフ／小／大	P.38
		ファイル名メモリー	リセット／オート	P.48
		ピクセルマッピング		P.56
		モニタ調整		P.54
		日時設定		P.31
		ビデオ出力	NTSC／PAL	P.104
画質モード			HQ／SQ	P.123
露出補正			–2.0～0～+2.0	P.79
モニタオン			モニタオフ／モニタオン	P.51

□ は工場出荷時の設定（初期設定）

10 付録

次ページへつづく

メニュー一覧

●再生メニュー（静止画）

トップメニュー	タブ	項目	選択肢	参照頁
モードメニュー	再　生	プロテクト	オフ／オン	P.114
		回転表示	0°／+90°／–90°	P.101
		プリント予約	1コマ予約／全コマ予約	P.134
	編　集	モノクロ作成	新規作成／中止	P.108
		セピア作成	新規作成／中止	P.110
		リサイズ	640 × 480／320 × 240／中止	P.112
	カード	カードセットアップ	全コマ消去／フォーマット	P.117, 52
	設　定	設定保持	する／しない	P.33
			日本語／ENGLISH／FRANÇAIS／DEUTSCH／ESPAÑOL	P.29
		PW ON設定	画面：オフ／1／2／3 音量：オフ／小／大	P.44
		画面配色設定	標準／サンピンク／サンデーグリーン／アクアブルー	P.46
		再生音量	オフ／小／大	P.42
		ビープ音	オフ／小／大	P.38
		モニタ調整		P.54
		日時設定		P.31
		ビデオ出力	NTSC／PAL	P.104
		インデックス表示	4／9／16	P.97
自動再生				P.103
情報表示				P.107
1コマ消去			消去／中止	P.116

［　］は工場出荷時の設定（初期設定）

●再生メニュー（ムービー）

トップメニュー ▶	タブ ▶	項目 ▶	選択肢 ▶	参照頁
モードメニュー	再　生	プロテクト	オフ／オン	P.114
	カード	カードセットアップ	全コマ消去／フォーマット	P.117, 52
	設　定	設定保持	する／しない	P.33
			日本語／ENGLISH／FRANÇAIS／DEUTSCH／ESPAÑOL	P.29
		PW ON設定	画面：オフ／1／2／3 音量：オフ／小／大	P.44
		画面配色設定	標準／サンピンク／サンデーグリーン／アクアブルー	P.46
		再生音量	オフ／小／大	P.42
		ビープ音	オフ／小／大	P.38
		モニタ調整		P.54
		日時設定		P.31
		ビデオ出力	NTSC／PAL	P.104
		インデックス表示	4／9／16	P.97
ムービープレイ		ムービー再生	再生／コマ送り／中止	P.127, 128
		インデックス作成	新規作成／中止	P.130
情報表示				P.107
1コマ消去			消去／中止	P.116

［　］は工場出荷時の設定（初期設定）

撮影モードの種類別の機能一覧

撮影モードによっては、設定できない項目があります。詳しくは、以下の表をご覧ください。

撮影モード 機能	P									
マクロ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
フラッシュ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
セルフタイマー	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
リモコン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
光学ズーム	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×
バーチャルダイヤル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
測光	○	○	○	○	○	○	○	○	※	○
画質モード	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
露出補正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ドライブ	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×
デジタルズーム	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○
録音	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
スーパーマクロ	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○
パノラマ	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×
合成ツーショット	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
ホワイトバランス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
カードセットアップ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
設定保持	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
PW ON設定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
画面配色設定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ビープ音	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
シャッタ音	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
レックビュー	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
ファイル名メモリー	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ピクセルマッピング	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
モニタ設定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
日時設定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ビデオ出力	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

※ ESP 測光のみ使用できます。

カメラのお手入れと保管

● カメラのお手入れについて

カメラの外側

- 柔らかい布でやさしく拭いてください。汚れがひどい場合は、うすめた低刺激のせっけん水に布を浸して、硬く絞ってから、汚れを拭き取ります。その後、乾いた布でよく拭きます。海辺でカメラを使用した場合は、真水に浸した布を硬く絞ってから拭き取ります。

レンズ

- レンズブロワー（市販）でほこりを吹き払います。レンズクリーニングペーパーに、レンズクリーニング液を少し付けて軽く拭きます。

液晶モニタ／ファインダ

- 柔らかい布で軽く拭きます。

カード／電池／充電器

- 乾いた柔らかい布で軽く拭きます。

注　意

- ベンジンやアルコールなどの強い溶剤や化学雑巾を使わないでください。
- お手入れをする前に、電池やACアダプタをカメラから取り外してください。
- レンズを汚れたままにしておくと、かびが生えることがあります。

● カメラの保管について

- カメラを長期間使用しないときは、電池を取り外してから風通しがよく涼しい乾燥した場所に保管してください。
- 保管期間中でも、ときどき電池を入れてカメラの動作を確かめてください。

● カメラ内部の結露について

結露とは

- 外気が寒いときに空気中にある水蒸気が急速に冷やされて水滴になること。カメラが冷えた状態で急に暖かい部屋などに入れた場合に発生します。

結露を防ぐには

- カメラを寒いところから急に暖かいところに持ち込むときは、ビニール袋にカメラを入れて空気を抜き、なるべく密閉状態にしてください。その場の温度になじむまで、約1時間放置してから取り出してください。

アフターサービス

- 保証書はお買い上げの販売店からお渡しいたしますので「販売店名・お買い上げ日」等の記入されたものをお受け取りください。もし記入もれがあった場合は、直ちにお買い上げの販売店へお申し出ください。また保証内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

- 本製品のアフターサービスに関するお問い合わせや、万一故障の場合はお買い上げの販売店、または当社サービスステーションにご相談ください。取扱説明書にしたがったお取扱いにより、本製品が万一故障した場合は、お買い上げ日より満1ヶ年間「保証書」記載内容に基づいて無料修理いたします。

- 保証期間経過後の修理等については原則として有料となります。

- このカメラの補修用性能部品は、製造打ち切り後5年間を目安に保有しております。
  したがって本期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、期間後であっても修理可能な場合もありますので、お買い上げの販売店、または当社サービスステーションにお問い合わせください。

- 本製品の保証、修理、サービスは日本国内でのみ有効です。本製品は日本国内専用のため、海外では修理できません。万一、海外で故障・不具合が生じた場合は、日本国内の当社サービスステーションまでご依頼ください。

- 本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用、および撮影により得られる利益の喪失等）については補償しかねます。また、運賃諸掛かりはお客様においてご負担願います。

- 修理品をご送付の場合は、修理個所を指定した書面を同封して十分な梱包でお送りください。また控えが残るよう宅配便または書留小包のご利用をお願いします。

カメラの仕様

形式 ： デジタルカメラ（記録・再生型）

記録方式

静止画 ： デジタル記録、JPEG（DCF準拠）

対応規格 ： Exif 2.2、DPOF、PRINT Image Matching II、PictBridge

動　画 ： QuickTime Motion JPEGに準拠

記録媒体 ： xDピクチャーカード（16～512MB）

記録コマ数（16MB使用時） ： 静止画

画質	画像サイズ	カード記録可能枚数
SHQ	2272 × 1704	5
HQ		16
SQ1	2048 × 1536	20
SQ2	1600 × 1200	24
	1280 × 960	38
	1024 × 768	58
	640 × 480	99

ムービー

● 一度に連続して撮影できる時間（秒）

画質	画像サイズ	カード記録秒数
HQ	320 × 240（15コマ／秒）	20
SQ	160 × 120（15コマ／秒）	90

カメラ部有効画素数 ： 400万画素

画像素子 ： 1/2.5型CCD（原色フィルター）

レンズ ： オリンパスレンズ5.8～17.4 mm（35 mmフィルム換算35～105 mm相当）、F3.1～5.2

測光方式 ： 撮像素子によるデジタルESP測光方式、スポット測光

シャッター ： 1/2～1/1000秒（夜景モードでは最大4秒）

撮影距離 ： 0.5m～∞（通常）、0.2m～∞（マクロ撮影時）、0.09m～0.5m（スーパーマクロ）

ファインダ ： 光学実像式ファインダ

液晶モニタ ： 1.5型（インチ）TFTカラー液晶、134,000画素

フラッシュ充電時間 ： 約6秒

コネクタ ： DC入力端子、USB端子（mini-B）、オーディオ／ビデオ出力端子

自動カレンダー機能 ： 2000～2099年の範囲で自動修正

次ページへつづく

カメラの仕様

生活防水	種類	：	JIS保護等級4相当（当社試験方法による）
	意味	：	いかなる方向からの水の飛まつを受けても有害な影響のないもの
使用環境	温度	：	0〜40℃（動作時）／–20〜60℃（保存時）
	湿度	：	30〜90％（動作時）／10〜90％（保存時）
電源		：	専用リチウムイオン充電池または専用ACアダプタ
大きさ		：	99 × 56 × 33.5 mm（突起部を除く）
質量		：	159g（電池／カード別）

外観・仕様は改善のため予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

付属品の仕様

xD ピクチャーカード

形式	：	デジタルカメラ用　xD-Picture Card
メモリーの種類	：	NAND型フラッシュEEP-ROM
メモリーの容量	：	16MB
駆動電圧	：	3V（3.3V）
使用周囲温度	：	0～55°C（動作時）／–20～65°C（保管時）
使用周囲湿度	：	95％以下（動作・保管時）
大きさ	：	約20 × 25 × 1.7 mm

充電器（LI-10C）

定格入力	：	AC100～240V（50/60Hz） 10VA（100V）～13VA（240V）
定格出力	：	DC4.2V、700mAh
充電時間	：	約120分
使用周囲温度	：	0～40°C（動作時）／–20～60°C（保存時）
大きさ	：	46 × 37.5 × 86 mm
質量	：	約75g

リチウムイオン充電池（LI-10B）

形式	：	充電式リチウムイオン電池
公称電圧	：	DC3.7V
公称容量	：	1090mAh
充放電回数	：	約300回 （使用する条件により異なります。）
使用周囲温度	：	0～40°C（充電時）／–10～60°C（動作時）／ 0～30°C（保存時）
大きさ	：	31.9 × 45.8 × 10 mm
質量	：	約35g

外観・仕様は改善のため予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

索引

10

付録

10 付録

送付先：オリンパス株式会社カスタマーサポートセンター

FAX 0426-42-7486

サポートカルテ

お名前	フリガナ
連絡先ご住所	□自宅　□会社 〒 電話 FAX E-mail

お問い合わせ日　　年　　月　　日	お買い上げ日：　　年　　月　　日
製品名（型番）	
シリアル番号 （製品底面に記載されています）	
問題が発生したときの症状・表示されたメッセージ・症状の再現性など： （より正確・迅速にお答えするために、できるだけ詳しくお知らせください。）	
パソコンが関係する問題は、とくに正確な状況把握が難しいので、お手数ですができるだけ詳しくお知らせください。 ●ご使用のパソコンの種類： （メーカー・型番等） ●メモリの容量： ●ハードディスクの空き容量： ●OS名とバージョン： ●ご使用のパソコンのドライバ： （Mac OSの場合）コントロールパネルや機能拡張の内容： （Windowsの場合）コントロールパネル–システム–デバイスマネージャーの内容： ●その他接続されている周辺機器名： ●問題のご使用アプリケーションソフト名： バージョン： ●問題のご使用弊社ソフト名： バージョン：	

オリンパス株式会社
〒163-0914　東京都新宿区西新宿2の3の1 新宿モノリス

ホームページのご案内

http://www.olympus.co.jp/

ホームページによる情報提供について

製品仕様、パソコンとの接続、OS対応の状況、Q&Aなどの各種情報をご提供しております。オリンパスホームページ（**http://www.olympus.co.jp/**）から「お客様サポート」→「デジタルカメラ／プリンタ関連」へ進み、ご利用ください。

商品に関するお問い合わせ窓口（オリンパスカスタマーサポートセンター）

フリーダイヤル 0120-084215

携帯電話・PHS からは 0426-42-7499

FAX　0426-42-7486

調査等の都合上、回答までにお時間をいただく場合がありますので、ご了承ください。より迅速、正確にお答えするためにお手数ですが、裏面のサポートカルテの内容をあらかじめご確認ください。

営業時間　**平日**　9：30〜21：00
土・日・祝日　10：00〜18：00
（年末年始、システムメンテナンス日を除く）

修理に関するお問い合わせ、修理品ご送付先

TEL 0266-26-0330　**FAX 0266-26-2011**

〒394-0083　長野県岡谷市長地柴宮3-15-1
オリンパス岡谷修理センター

営業時間　9:00〜17:00（土・日・祝日及び弊社休日を除く）

国内サービスステーション（修理受付窓口）

東　京	〒101-0052	千代田区神田小川町１の３の１ 小川町三井ビル（オリンパスプラザ内）	Tel.03（3292）3403
札　幌	〒060-0034	札幌市中央区北４条東１の２の３　札幌フコク生命ビル	Tel.011（231）2320
仙　台	〒981-3133	仙台市泉区泉中央１の13の４　泉エクセルビル	Tel.022（218）8421
名古屋	〒460-0003	名古屋市中区錦２の19の25　日本生命広小路ビル	Tel.052（201）9571
大　阪	〒542-0081	大阪市中央区南船場２の12の26　オリンパス大阪センター	Tel.06（6252）6995
広　島	〒730-0013	広島市中区八丁堀16の11　日本生命広島第２ビル	Tel.082（228）3821
福　岡	〒810-0004	福岡市中央区渡辺通３の６の11　福岡フコク生命ビル	Tel.092（761）4466

※ 土・日曜、祝日および年末年始・夏期休暇は原則として休業させていただきます。
オリンパスプラザ内の東京サービスステーションは土曜も営業しております。

Printed in China
VT692302